

前橋市0093 遺跡・前橋市0102 遺跡

(一)寺沢川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二〇二一



公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

2021

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

前橋市 0093 遺跡 前橋市 0102 遺跡

(一)寺沢川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

群馬県前橋土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

寺沢川河川改修事業は、寺沢川治川の治水安全度の向上のため、平成8年度以来、概ね10年に1回程度の発生が予想される洪水を安全に流下させ、洪水による氾濫を防止することを目標として治水工事が進められてきました。本書は平成29年度に実施しました寺沢川河川改修事業に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものです。

本書は前橋市0093遺跡と前橋市0102遺跡についての発掘調査成果を報告します。前橋市0093遺跡は赤城山南麓を全長約13kmにわたって掘りすすめられ、その一部が史跡となった女堀の前橋市域部分にあたります。今回の発掘調査により寺沢川左岸から女堀の一画を検出することとなりました。前橋市0102遺跡は、前橋市立桂萱東小学校を北端とし、前橋市堤町から同堀之下町にかけて広がる遺跡です。今回の発掘調査で、古墳時代の掘立柱建物や平安時代の水田、中世の薬研堀などが確認されました。古墳時代から中世にいたる、人々の暮らしの様子の一端が明らかになりました。

発掘調査から報告書の刊行に至るまでは、群馬県前橋土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめ、関係機関および地元関係者の皆様には多大なるご指導とご協力を賜りました。

本報告書の上梓にあたり、関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、本書が赤城南麓地域における歴史の解明に広く役立てられることを念じて、序といたします。

令和3年12月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 向 田 忠 正

例　　言

- 1 本書は、平成29年度(一)寺沢川河川改修事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として実施された「前橋市0093遺跡・前橋市0102遺跡」の調査成果をまとめた発掘調査報告書である。報告書作成は令和2年度(一)寺沢川社会資本総合整備(防災・安全)(5か年)事業に伴う埋蔵文化財の整理事業として実施された。
- 2 発掘調査地は群馬県前橋市堀之下町322-2、318-1、319-2、319-4、318-4、319-3、318-3、324-7、324-9、323-3、322-3、2-2、3-3、4-3、315-2、333-2番地に所在する。
- 3 事業主体　　群馬県前橋土木事務所
- 4 調査主体　　公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 5 発掘調査の期間と体制

| | |
|----------|-----------------------|
| 発掘作業履行期間 | 平成29年12月1日～平成30年3月31日 |
| 調査期間 | 平成30年1月1日～平成30年3月31日 |
| 調査担当 | 立野喜紀、飛田野正佳 |
| 遺跡掘削工事請負 | 技研コンサル株式会社 |
| 地上測量委託 | 技研コンサル株式会社 |
| 空中写真撮影委託 | 技研コンサル株式会社 |
- 6 調査面積　　2,852m²
- 7 整理作業履行期間　　令和3年4月1日～令和3年12月31日
整理期間　　令和3年4月1日～令和3年10月31日
- 8 本書の作成成分担

| | |
|--------|---------|
| 編集 | 佐藤元彦 |
| デジタル編集 | 齊田智彦 |
| 遺構写真撮影 | 発掘調査担当者 |
| 遺物写真撮影 | 佐藤元彦 |
- 出土遺物の評価に際しては、岩崎泰一、大木紳一郎、大西雅広、神谷佳明、杉山秀宏をはじめ同僚諸氏の指導・助言を得た。
- 9 発掘調査及び報告書作成には、群馬県前橋土木事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会をはじめ、関係機関ならびに関係各位に多くのご協力、ご指導を賜った。
- 10 出土遺物及び写真・図面等記録類の保管場所は、群馬県埋蔵文化財調査センターである。

凡　例

1 本報告書(以下、本書)に用いた遺構名称は、混乱を避けるため一部を除き発掘調査時の名称を踏襲した。ただし、編集に至るまでの過程を含み下記の遺構についてはその名称を変更した。

1号ピット → 1号掘立柱建物ピット1

2号ピット → 1号掘立柱建物ピット2

10号ピット → 2号掘立柱建物ピット3

2 本書に用いた座標・方位はすべて世界測地系、平面直角座標系第IX系による。

世界測地系による当所の所在は、北緯36度23分30.09秒、東経139度07分13.38秒であり、当所における座標北と真北との偏差は+0度25分22.83秒、磁北線の偏角は7度20分である。

また、遺構図中の十字記号は世界測地系平面直角座標系第IX系に基づく基準点を示す。X値とY値の整数部末尾3桁を付記した。

3 遺構の主軸方位は座標北を基準とした。形状の確認できる遺構においては長軸を主軸とし、その傾きを度で示し、形状の不明なものについては計測不能のため不明とした。

4 遺構の標高は、原則として遺構断面図中に「L=○. ○m」と表記した。計測値は主軸方向を縦とし、縦：横：面積の順に記した。主軸方向の不明な遺構については長：短：面積の順での記載を原則とした。

5 全容が確認できない遺構については、検出部分の計測値を()付きで表記した。

6 遺構面積の算出に際しては、縮尺1:20の平面図を計測に用いた。

7 本書の個別遺構図版の縮尺は以下を基本とする。

掘立柱建物、溝 1:60。水田 1:50。土坑、ピット 1:40。

8 本書の遺物図版縮尺は1:2を原則とし、須恵器表は1:6とした。

9 本書で使用したトーンは以下のとおりである。

擾乱  埋土 

10 本書における遺構略称は以下のとおりである。

掘立柱建物 掘立。ピット P。排水溝 排水。盛土状遺構、盛土範囲 盛土。谷地形 谷地。

11 本書における土層注記及び遺物觀察表記載に用いた色彩表現は、農林水産省水産技術事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修1996『新版標準色帳』に基づく。

なおデジタル現像等のデジタルデータの処理に際して、ICCプロファイルなどICCの規定に基づく色管理はなされていないので、編集時点において被写体本来の色調や色相は担保されない。

12 本書で使用した地形図、地勢図、地質図は以下のとおりである。

国土地理院 1:25,000地形図「大胡」平成22年12月1日発行

国土地理院 1:25,000地形図「前橋」平成22年12月1日発行

国土地理院 1:200,000地勢図「宇都宮」平成23年6月1日発行

地理院地図(電子国土地理院) [https://maps.gsi.go.jp/#18/36.391438/139.121584&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f1&d#](https://maps.gsi.go.jp/#18/36.391438/139.121584&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1j0h0k010u0t0z0r0s0m0f1&d=)

産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2020) 20万分の1日本シームレス地質図2020年4月6日版。
産業技術総合研究所地質調査総合センター

13 同一遺跡の発掘調査報告書として、下記の報告書が刊行されている。

前橋市0093遺跡・女堀

『群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告12、川上遺跡、女堀遺構発掘調査概報、今井南部土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告』赤堀村教育委員会1980

『昭和54年度女堀遺跡詳細分布調査実績報告書、女堀』群馬県教育委員会1980

『富田遺跡群、西大室遺跡群、土地改良事業実施地区内埋蔵文化財発掘調査概報』前橋市教育委員会1982

『女堀、中世初期・農業用水址の発掘調査、県営圃場整備事業荒砥南部・北部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1985

『群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告22、中畠遺跡、女堀用水遺構発掘調査概報、村営下触土地改良事業に伴う埋蔵文化財調査報告』赤堀村教育委員会1986

『飯土井二本松遺跡、下江田前遺跡、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団1991

『石関女堀遺跡』『文化財調査報告書 第23集』前橋市教育委員会1993

『堀之下女堀遺跡』『文化財調査報告書 第25集』前橋市教育委員会1996

『堀之下女堀Ⅱ遺跡』『文化財調査報告書 第26集』前橋市教育委員会1996

『石関西田遺跡』『平成11年度 市内遺跡発掘調査報告書』前橋市教育委員会2000

『市道00-061号線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、石関西田遺跡Ⅲ(18D15)』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2007

『主要地方道藤岡大胡線に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、富田新井遺跡・富田大泉坊B遺跡・富田大泉坊A遺跡・富田宮田遺跡・富田宮下遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009

『一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査(その1)報告書、荒砥前田Ⅱ遺跡、古墳時代前期集落遺跡の調査』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009

『伊勢崎市文化財調査報告書第114集、史跡女堀、未完成の大規模灌漑用水路「女堀」の発掘調査』伊勢崎市教育委員会2015

『前橋市0093遺跡』『群馬県内公共開発に伴う平成26年度県内遺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会2016

『伊勢崎市文化財調査報告書第124集、史跡女堀2、史跡整備に伴う発掘調査報告書』伊勢崎市教育委員会2018

『女堀』『伊勢崎市文化財調査報告書第127集、平成28年度市内遺跡確認調査報告書』伊勢崎市教育委員会2019

『女堀』『伊勢崎市文化財調査報告書第131集、平成29年度市内遺跡確認調査報告書』伊勢崎市教育委員会2020

前橋市0102遺跡

『沼西Ⅰ遺跡・沼西Ⅱ遺跡』前橋市教育委員会2002

『堤沼西Ⅲ遺跡、前橋市立桂萱東小学校校舎増築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003

『前橋市0102遺跡』『群馬県内公共開発に伴う平成26年度県内遺跡発掘調査報告書』群馬県教育委員会2016

『ローズタウン住宅団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書、ローズタウン遺跡群 堤沼下遺跡』前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000

目 次

| | |
|--------------------------|---------------------------|
| 序 | 第2項 遺構と遺物 ······ 25 |
| 例言 | 1 挖立柱建物 ······ 25 |
| 凡例 | 2 溝 ······ 27 |
| 目次 | 3 水田 ······ 30 |
| 挿図目次 | 4 土坑 ······ 31 |
| 表目次 | 5 ピット ······ 35 |
| 写真目次 | 6 その他 ······ 37 |
| 第1章 調査経過と調査の方法 | |
| 第1節 調査に至る経緯 ······ 1 | 第3項 出土遺物 ······ 41 |
| 第2節 調査の経過と方法 ······ 1 | 第2節 前橋市0093遺跡 ······ 43 |
| 第2章 周辺の環境 | |
| 第1節 地理的環境 ······ 5 | 第1項 調査区の概要 ······ 43 |
| 第2節 歴史的環境 ······ 7 | 第2項 遺構と遺物 ······ 43 |
| 第3節 遺跡の概要と基本土層 ······ 14 | 1 挖削部分 ······ 43 |
| 1 遺跡の概要 ······ 14 | 2 盛土範囲 ······ 50 |
| 2 基本土層 ······ 15 | 第3項 出土遺物 ······ 54 |
| 第4章 まとめ | |
| 第1節 前橋市0102遺跡 ······ 25 | 1 調査区周辺の旧地形について ······ 56 |
| 第1項 調査区の概要 ······ 25 | 2 1947年写真と女堀 ······ 58 |
| 第3章 確認された遺構と遺物 | |
| 写真図版 | |
| 第1節 前橋市0102遺跡 ······ 25 | 抄録 |
| 第1項 調査区の概要 ······ 25 | 奥付 |

挿図目次

| | |
|---------------------------|-----------------------------|
| 第1-1図 遺路の所在 ······ 2 | 第3-1-7図 2号土坑。3号土坑 ······ 32 |
| 第1-2図 調査区の所在 ······ 3 | 第3-1-8図 4~6号土坑 ······ 33 |
| 第1-3図 調査区設定 ······ 4 | 第3-1-9図 7号土坑。8号土坑 ······ 34 |
| 第2-1図 調査区周辺の地質 ······ 6 | 第3-1-10図 3~6号ピット ······ 35 |
| 第2-2図 調査区周辺の遺跡 ······ 8 | 第3-1-11図 7~9号ピット ······ 36 |
| 第2-3図 基本上層1 ······ 15 | 第3-1-12図 1号盛土遺構 ······ 37 |
| 第2-4図 基本上層2 ······ 16 | 第3-1-13図 2号盛土遺構 ······ 38 |
| 第2-5図 基本上層3 ······ 17 | 第3-1-14図 1区グリッド配置 ······ 39 |
| 第2-6図 1~3区全体図 ······ 18 | 第3-1-15図 2区グリッド配置 ······ 40 |
| 第2-7図 1区全体図(南半) ······ 19 | 第3-1-16図 出土遺物 ······ 41 |
| 第2-8図 1区全体図(北半) ······ 20 | 第3-2-1図 女堀全体図 ······ 43 |
| 第2-9図 2区全体図 ······ 21 | 第3-2-2図 1区女堀1 ······ 45 |
| 第2-10図 3区全体図 ······ 22 | 第3-2-3図 1区女堀2 ······ 46 |
| 第2-11図 1区谷地形 ······ 23 | 第3-2-4図 1区女堀3 ······ 47 |
| 第2-12図 グリッド設定 ······ 24 | 第3-2-5図 1区女堀4 ······ 48 |
| 第3-1-1図 1号掘立柱建物 ······ 26 | 第3-2-6図 1区女堀5 ······ 50 |
| 第3-1-2図 2号掘立柱建物 ······ 27 | 第3-2-7図 2区女堀1 ······ 51 |
| 第3-1-3図 1号掘立柱建物 ······ 28 | 第3-2-8図 2区女堀2 ······ 52 |
| 第3-1-4図 流路状遺構 ······ 29 | 第3-2-9図 2区女堀3 ······ 53 |
| 第3-1-5図 水田 ······ 30 | 第3-2-10図 出土遺物 ······ 54 |
| 第3-1-6図 1号土坑 ······ 31 | |

表 目 次

| | | | |
|--------------------|----|---------------|----|
| 第2-1表 道跡一覧 | 9 | 第3-1-6表 ピット一覧 | 36 |
| 第3-1-1表 1号掘立柱建物柱間 | 25 | 第3-1-7表 遺物觀察表 | 41 |
| 第3-1-2表 1号掘立柱建物ピット | 25 | 第3-1-8表 未掲載遺物 | 42 |
| 第3-1-3表 2号掘立柱建物柱間 | 27 | 第3-2-1表 遺物觀察表 | 54 |
| 第3-1-4表 2号掘立柱建物ピット | 27 | 第3-2-2表 未掲載遺物 | 55 |
| 第3-1-5表 土坑一覧 | 34 | | |

写 真 目 次

| | | | |
|------------------------------|--|---|--|
| P L . 1 | | P L . 1 | |
| 1 調査区遠景(南上空から赤城山を望む、天は北) | | 1 3区水田上層堆積状況5(東から) | |
| 2 調査区全景(西上空から、天は東) | | P L . 8 | |
| P L . 2 | | 1 3区水田上層堆積状況6(東から) | |
| 1 前橋市0102遺跡調査区南半(西上空から、天は東) | | 2 3区水田上層堆積状況7(東から) | |
| 2 前橋市0102遺跡調査区北半(南上空から、天は北東) | | 3 3区水田上層堆積状況8(東から) | |
| P L . 3 | | 4 3区水田上層堆積状況9(東から) | |
| 1 1号掘立柱建物(上空から、天は北東) | | 5 1号土坑(南から) | |
| 2 1号掘立柱建物(南西から) | | 6 1号土坑上層断面(西から) | |
| 3 1号掘立柱建物P 1(南西から) | | 7 2号土坑上層堆積状況(西から) | |
| 4 1号掘立柱建物P 2(南西から) | | 8 3号土坑(南から) | |
| 5 1号掘立柱建物P 3(南西から) | | P L . 9 | |
| 6 1号掘立柱建物P 4(南西から) | | 1 3号土坑地物検出状況(南東から) | |
| 7 1号掘立柱建物P 5(南西から) | | 2 4号土坑(南から) | |
| 8 1号掘立柱建物P 6(南西から) | | 3 4号土坑上層断面(南から) | |
| P L . 4 | | 4 4号土坑地物出土状況(南から) | |
| 1 2号掘立柱建物(東から) | | 5 5号土坑(南から) | |
| 2 2号掘立柱建物 P 1(東から) | | 6 5号土坑上層断面(南から) | |
| 3 2号掘立柱建物 P 1上層断面(南から) | | 7 5号土坑地物出土状況(南から) | |
| 4 2号掘立柱建物 P 2(南から) | | 8 6号土坑上層断面(南西から) | |
| 5 2号掘立柱建物 P 2上層断面(南から) | | P L . 10 | |
| 6 2号掘立柱建物 P 3(南から) | | 1 7号土坑(南から) | |
| 7 2号掘立柱建物 P 3上層断面(南から) | | 2 7号土坑上層断面(南から) | |
| 8 1号溝(西から) | | 3 8号土坑(南から) | |
| P L . 5 | | 4 8号土坑上層断面(北から) | |
| 1 1号溝東端(北から) | | 5 3・4号ピット(東から) | |
| 2 1号溝上層断面(北から) | | 6 3・4号ピット上層断面(東から) | |
| 3 1号溝東半(北から) | | 7 5号ピット(西から) | |
| 4 1号溝・関連遺構(北から) | | 8 5号ピット上層断面(南から) | |
| 5 1号溝西壁上層断面(南から) | | P L . 11 | |
| 6 1号溝西半(南から) | | 1 6号ピット(南から) | |
| 7 1号溝上層堆積状況(東から) | | 2 6号ピット上層断面(南から) | |
| 8 1号溝関連構造証記範囲(西から) | | 3 7号ピット(南から) | |
| P L . 6 | | 4 7号ピット上層断面(南から) | |
| 1 1号溝・関連遺構(南から) | | 5 8号ピット(南から) | |
| 2 1号溝関連構造上層断面(南から) | | 6 8号ピット上層断面(南から) | |
| 3 1号溝関連遺構・完掘状態(南西から) | | 7 9号ピット(南から) | |
| 4 流路状遺構、流路堆積状況(南東から) | | 8 9号ピット上層断面(南から) | |
| 5 流路状遺構上層断面 A(南東から) | | P L . 12 | |
| 6 流路状遺構上層断面 B(南から) | | 1 1号盛土遺構(南西から) | |
| 7 流路状遺構(南西から) | | 2 1号盛土遺構上層堆積状況(北半、南西から) | |
| 8 流路状遺構上層堆積状況(北東から) | | 3 1号盛土遺構上層堆積状況(南半、西から) | |
| P L . 7 | | 4 2号盛土遺構上層堆積状況(南半、東から) | |
| 1 3区水田全景(西上空から、天は東) | | 5 2号盛土遺構上層堆積状況(北半、東から) | |
| 2 3区水田畔(南から) | | 6 1区X28Y48グリッド(南から) | |
| 3 3区水田畔断ち割り(東から) | | 7 2区X29Y21グリッド、礫片検出状況(西から) | |
| 4 3区水田上層堆積状況1(東から) | | 8 2区X29Y21グリッド、礫片出土状況(西から) | |
| 5 3区水田上層堆積状況2(東から) | | P L . 13 | |
| 6 3区水田上層堆積状況3(東から) | | 1 前橋市0093遺跡調査区遠景(画面上部中央の、鐵塔の向かって左が石門西道跡Ⅲ。南東上空から、天は北西) | |
| 7 3区水田上層堆積状況4(東から) | | 2 前橋市0093遺跡調査区全景(南西上空より、天は北東) | |

P L .14

- 1 挖削部分全景(西上空から、天は東)
- 2 挖削部分全景(西から)
- 3 挖削部分全景(南西から)
- 4 挖削部分全景(南から)
- 5 挖削部分全景(東から)

P L .15

- 1 挖削部分全景(北東から)
- 2 挖削部分全景(北西から)
- 3 挖削部分全景(北上空から、天は南)
- 4 調査区西壁上層堆積状況1(東から)
- 5 調査区西壁上層堆積状況2(東から)
- 6 調査区西壁上層堆積状況3(東から)
- 7 調査区西壁上層堆積状況4(東から)
- 8 調査区東壁(北西から)

P L .16

- 1 調査区東壁上層堆積状況1(西から)
- 2 調査区東壁上層堆積状況2(西から)
- 3 調査区東壁上層堆積状況3(西から)
- 4 調査区東壁上層堆積状況4(西から)
- 5 調査区東壁上層堆積状況5(西から)
- 6 調査区北壁上層堆積状況(南から)
- 7 1号排水溝(南東から)
- 8 1号排水溝(北西から)

P L .17

- 1 1号排水溝上層堆積面(南東から)
- 2 1号排水溝上層堆積状況(西から)
- 3 1号排水溝上層堆積面(南から)
- 4 1号凹凸上層堆積面(北西から)
- 5 2号凹凸(北から)
- 6 2号凹凸(上空から、天は北)
- 7 1号排水溝と2号凹凸(南から)
- 8 2号凹凸上層堆積状況(南から)

P L .18

- 1 2号凹凸(北西から)
- 2 2号凹凸(南から)
- 3 2号排水溝(北東から)
- 4 2号排水溝上層断面(南西から)
- 5 2号排水溝(南西から)
- 6 2号排水溝上層堆積状況(西から)
- 7 3号排水溝(北西から)
- 8 3号排水溝(南東から)

P L .19

- 1 3号排水溝上層堆積状況(西から)
- 2 3号排水溝上層断面(南東から)
- 3 3号排水溝、4号排水溝(北から)
- 4 3号排水溝、4号排水溝(南東から)
- 5 4号排水溝(北から)
- 6 4号排水溝(南東から)
- 7 1号階段状道構(西から)
- 8 1号階段状道構(南東から)

P L .20

- 1 1号階段状道構、低地部掘り込み(南から)
- 2 1号階段状道構(東から)
- 3 盛土範囲(上空から、天は東)
- 4 盛土範囲(南から)
- 5 盛土範囲(北から)

P L .21

- 1 精査後の盛土範囲1(南から)
- 2 精査後の盛土範囲2(南から)
- 3 盛土範囲上層堆積状況(西半、南から)
- 4 盛土範囲上層堆積状況(東半、南から)
- 5 女塀東辺斜面(上空から、天は北東)
- 6 女塀東辺斜面(北から)
- 7 女塀東辺斜面上層堆積状況(北東から)
- 8 女塀東辺斜面(南東から)

P L .22

前橋市0102遺跡出土遺物

第1章 調査経過と調査の方法

第1節 調査に至る経緯

本書は、令和2年度(一)寺沢川社会資本総合整備(防災・安全) (5か年)事業に伴う埋蔵文化財の整理事業により実施された、平成29年度(一)寺沢川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の調査成果を報告するものである。

寺沢川は、群馬県の県央にそびえる赤城山南面、標高415mほどにある、前橋市淹窪町に立地する寺沢沼周辺に端を発し、南流して前橋市小島田町付近で桃ノ木川に合流する利根川水系の一級河川である。寺沢川中流域の沿川には文教施設等の集積を図る学園都市整備区域が存在している。平成16年に群馬県立前橋工業高校の移転整備が行われた他、県立前橋産業技術専門校、学校法人群馬県美容学園、前橋高等職業訓練校、前橋市立前橋特別支援学校、学校法人未来学園前橋医療福祉専門学校などが開校している。また上流域においては、住宅団地(前橋ロータウン)等の開発・整備も進められている。また国道17号のバイパスである上武道路が開通するなど、本川流域内では一層の開発が進展するものと見込まれ、沿川の治水安全度を向上することが急務とされていた。そのため平成8年度以来、概ね10年に1回程度の発生が予想される洪水を安全に流下させ、洪水による氾濫を防止することを目標として治水工事が進められてきた。

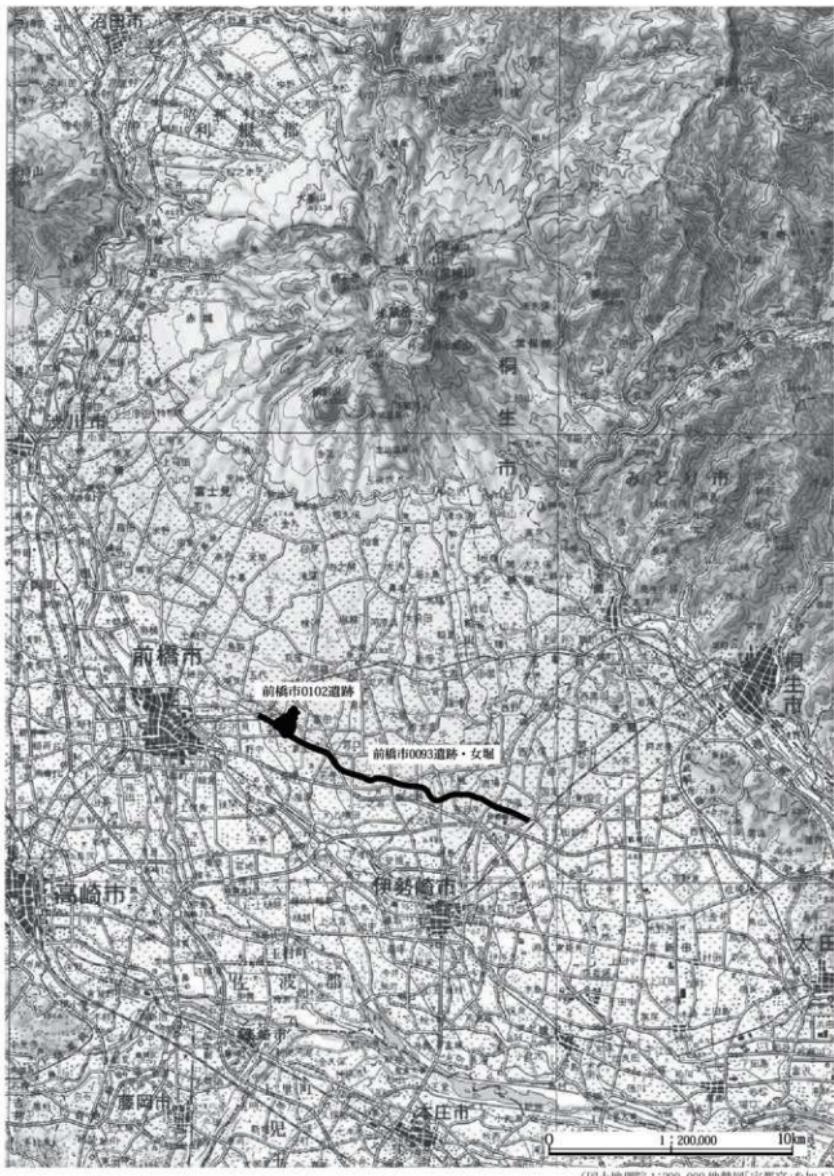
本書で報告する発掘調査の起因事業は、平成30年度に実施された前橋市堀之下町の堀之下新橋を中心とする、学園都市整備事業地区に隣接する地点の河川改修事業である。事業地周辺には前橋市0102遺跡や前橋市0093遺跡といった周知の埋蔵文化財包蔵地や遺跡が存在することから、平成27年1月～2月に群馬県教育委員会文化財保護課による試掘確認調査が行われ、遺構の存在が確認された。この試掘確認調査の結果を踏まえて、前橋土木事務所と群馬県教育委員会文化財保護課による調整が行われ、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団により、平成29年度事業として平成30年1月1日～平成30年3月31日を調査期間として発掘調査を行うこととなった。

第2節 調査の経過と方法

発掘調査は平成30年1月1日～平成30年3月31日に実施された。前橋市堀之下町地内に立地する調査地を、寺沢川左岸市道南を1区、寺沢川左岸市道北を2区、寺沢川右岸市道南を3区(北・南)と設定し、発掘調査を開始した。調査は1区の表土掘削から始まり、調査工程を調整しながら同時進行で各調査区の調査に取り掛かり、その後旧石器の確認調査を行った。予定していた調査面積の調査を終え、現場事務所の撤収、埋め戻しを行った。

調査は、先ず建設機械を用いて表土掘削・排土運搬を行った後、発掘作業員による遺構検出作業、調査担当者による遺構確認、その後発掘作業員による遺構掘削を行った。なお、遺構確認面はローム層で行い、調査面数については1区の1区画を除き1面調査であった。遺構埋没土の観察や写真撮影等は調査担当者が行い、各遺構の上層断面図や遺構平面図、遺構断面図等の図化は測量委託によった。調査区全体の全景撮影は、撮影委託によりドローンを用いて撮影を行った。旧石器の確認調査に際しては、4m×4mのグリッドを設定し、作業員の手作業による掘削で確認を行った。発掘調査終了後は、ダイヤローラーによる30cm転圧を基本とし、建設機械を用いて埋め戻しを行い発掘調査を終了した。

調査地が立地する場所は自動車・歩行者の通行量が多いため、公道に接する場所には安全フェンスを設置し、また建設機械の通り道になる入り口部分には誘導員を配置し安全を考慮した。防塵対策と安全確保を行うため、単管パイプを設置して防塵ネットを張ることで対策を講じた。掘削深度が深いところについては地山掘削作業主任者の指示のもと、安全勾配を確保して掘削を行った。湧水対策として水中ポンプを貸借し対策にあつた。



第1-1図 道路の所在

発掘調査日誌抄録

平成30年

1月5日(金)機材搬入、調査区の設定。

1月9日(火)機材搬入継続、周辺整備及び安全対策。

建設機械による1区表土掘削開始。

1月10日(水)周辺整備を継続、遺構確認開始。

1月11日(木)1号掘立柱建物のピット他調査着手。

1月12日(金)1区南側全景撮影。

1月15日(月)女堀立ち上がり地点を確認。

建設機械による2区表土掘削開始。

2区遺構確認、中世の堀を検出。

1月16日(火)1号溝掘削、調査。

1月17日(水)1区女堀トレンチ掘削。2区遺構確認継続。

1月23日(火)除雪作業。

1月24日(水)1区B混土上面精査。2区土坑掘削。

1月26日(金)1区遺構確認。2区女堀掘削着手。

3区調査区設定。

1月29日(月)1区女堀掘削着手。3区南側トレンチ掘削。

1月30日(火)1区旧石器確認トレンチ設定、掘削。

3区全景撮影。

2月1日(木)3区遺構確認。

2月2日(金)除雪作業。

2月5日(月)排水作業。

2月8日(木)全景撮影の準備。

2月9日(金)ドローンを用いた空中写真撮影。

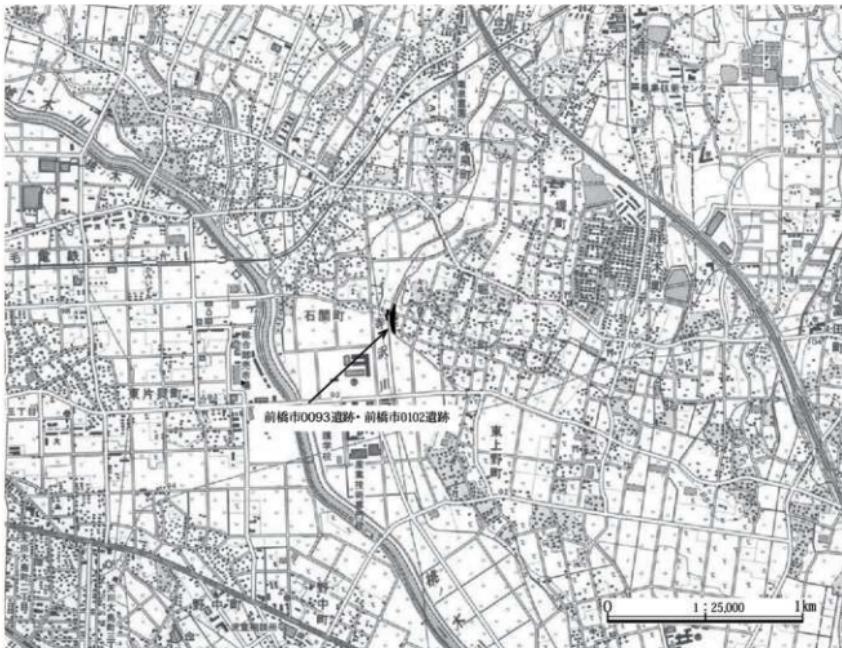
2月13日(火)1区As-B下調査。2区盛土調査。

3区埋め戻し作業。

2月15日(木)1区及び2区全景撮影。

2月19日(月)1区及び2区旧石器確認トレンチ調査。

2月26日(月)8号土坑掘削。



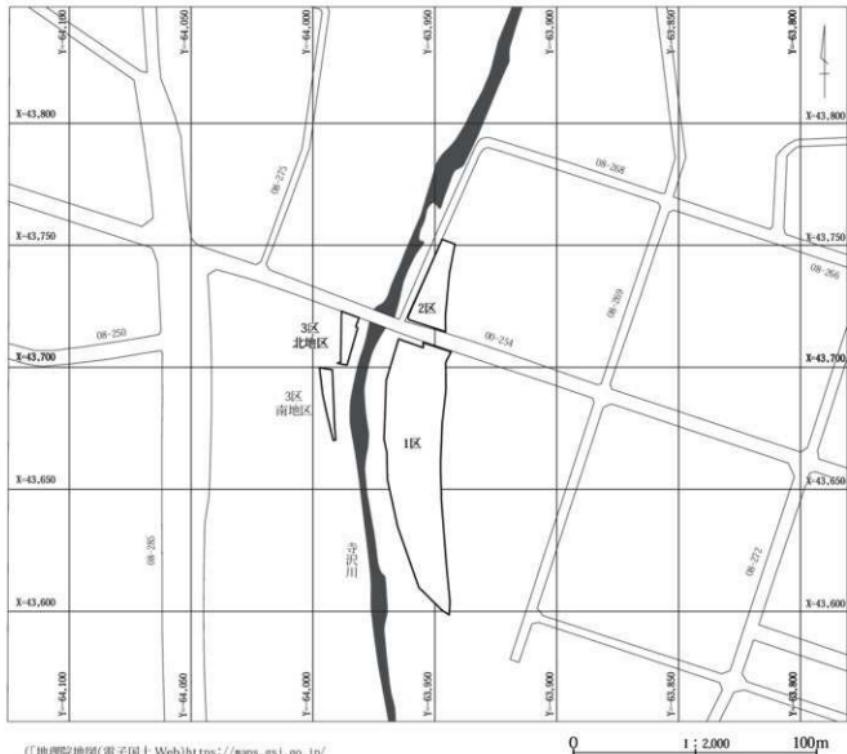
(国土地理院 1:25,000 地形図「大胡」「前橋」を編集・加工)

第1-2図 調査区の所在

第1章 調査経過と調査の方法

3月1日(木)1区及び2区埋め戻し準備。
 3月2日(金)埋め戻し作業開始。
 3月7日(水)埋め戻し継続。環境整備。
 3月9日(金)雨天のため埋め戻し中断、排水作業。
 3月12日(月)埋め戻し再開。

3月16日(金)埋め戻し作業完了。
 3月19日(月)現場撤収準備作業に着手。
 3月22日(木)畠復旧作業開始。
 3月26日(月)現場撤収作業開始。
 3月28日(水)現場撤収作業完了。



(「地理院地図(電子国土 Web)」<https://maps.gsi.go.jp/>
 #18/36.391438/139.121584/base=std&ll=sstd&disp=1&vs=c1j0h0k0l0o0t0z0r0s0m0f1kd=n
 を元に編集・加工)

第1-3図 調査区設定

第2章 周辺の環境

第1節 地理的環境

本調査区は、群馬県前橋市壇之下町に所在する。群馬県の中央部に位置している赤城山から、関東平野北西端にかけて広がる前橋市のほぼ真ん中に位置する。

前橋市は群馬県の中央付近に位置する。北は赤城山の山頂付近(標高1827mの黒檜山の南面)から、南は利根川河畔の下阿内町(標高64m)まで広がるが、市の中央部から南部にかけては海拔100m前後の関東平野の平坦地に立地する。明治14年に県庁所在地となり、明治22年に町制を施行、明治25年には市制を施行、市制の施行は県内で最初の事例である。また明治34年以来近接町村との合併により市域を拡大させてきたが、平成16年に東に隣接する大胡町・宮城村・柏川村、平成21年には北に隣接する富士見村と合併し今日に至っている。

前橋市にはかつて路面電車が活躍していた時期もあるが、現在稼働している鉄道は次の3路線である。前橋市の南部を東西に横切る両毛線(前橋市新前橋駅－栃木県小山駅)、西部を南北に走る上越線(高崎市高崎駅－新潟県宮内駅)のほか、前橋市と東の桐生市を結ぶ上毛電鉄(前橋市中央前橋駅－桐生市西桐生駅)の3路線である。また主要交通路としては従来から、東京都日本橋を起点とし新潟県新潟市に至る国道17号と前橋市を起点とし茨城県水戸市に至る国道50号が存在している。国道17号はかつての五街道の一つである中山道とこれから分岐し北上する三国街道を継承する路線でもある。また南北のアクセス向上のため、国道17号のバイパスとして埼玉県熊谷市と前橋市田口町をつなぐ上武道路が整備され、また高崎市と茨城県ひたちなか市を結ぶ北関東自動車道も開通したことにより、東西のアクセスも改善されている。

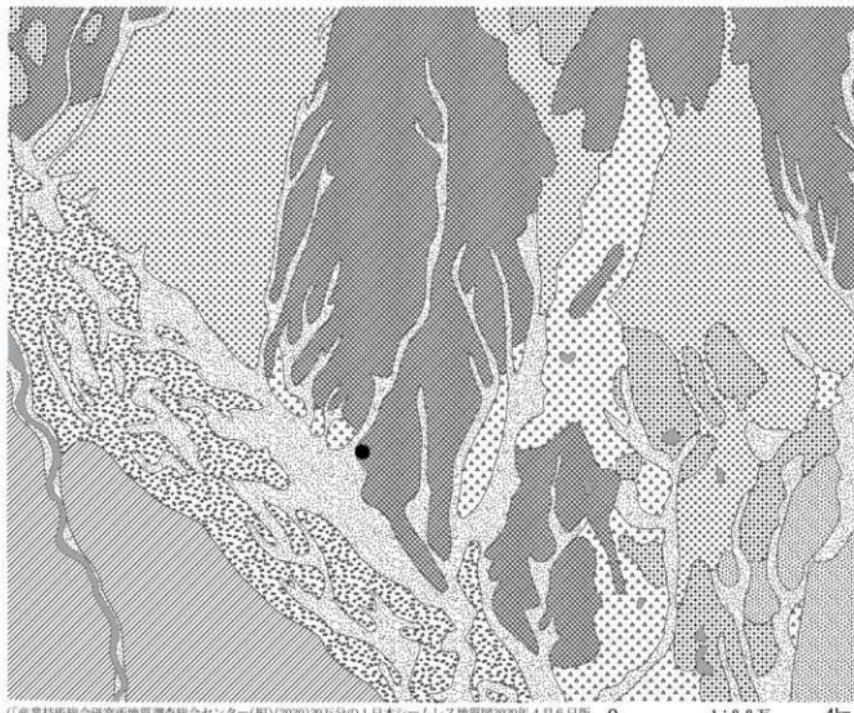
赤城山とその麓を流れる利根川に囲まれた前橋市の地形は北から「赤城火山斜面・赤城南麓斜面」、「広瀬川低地面・広瀬川低地帯」、「前橋台地面」と呼び分けられている。赤城山は底面の径約35×22kmの大型の成層火山であり、国土地理院により「日本の典型地形」の一つとして紹介されている。これによると、赤城山のもつ長大な裾野は、火山麓扇状地、岩屑なだれ堆積面、火碎流

堆積面から構成されており、北麓から西麓にかけては火山麓扇状地が広く展開し、南麓には火碎流台地と泥流丘が存在する。約50～40万年前から始まったとされる赤城山の活動は、古期成層火山形成期、新期成層火山形成期、中央火口丘形成期の三期に区分されている。古期成層火山形成期の岩屑なだれ堆積面は、約20万年前に発生した山体崩落による大規模な岩屑なだれであり、南西麓及び南東麓から東麓に痕跡が残される。岩屑なだれ堆積物としては南東麓の梨木泥流が著名である。また南麓の火碎流台地は新期成層火山形成期の火碎流によるものとされ、大胡火碎流は約7.5万年前の鍋割山の噴火よりもたらされたとされる。本調査区はこの大胡火碎流台地の末端に位置している。なお中央火口丘形成期以降は浸食作用により土砂が山麓に堆積し、扇状地が形成されている。赤城山は標高500m付近を境に山地斜面の傾斜が急変し、これより低いところでは緩やかな山麓となっている。この赤城南麓斜面は赤城白川、藤沢川、寺沢川、荒砥川、神沢川、柏川などの河川が放射線状に流下して丘陵地形を侵食し、西南麓から東南麓にかけて白川扇状地、荒砥川扇状地、柏川扇状地などが形成されている。台地を下刻する河川や湧水などにより丘陵部は樹枝状に開析され、台地と低地が複雑に入り組む起伏にとんだ地形となっている。赤城南麓斜面の南端は、旧利根川により削られ、そうして形成された広瀬川低地帯との境には比高数mから10m程度の崖線が形成されている。

広瀬川低地帯は赤城山南麓崖線と前橋台地の北東側崖線に挟まれた、幅3km程度の地溝状の低地部である。現在の利根川は前橋台地を貫通して流れているが、かつては赤城山麓沿いに流れていたと考えられ、この時の氾濫原が広瀬川低地帯を生じさせたとされる。利根川の川筋は何度か流れを変えたとされるが、約2万年前に発生した榛名山相馬山溶岩ドーム起源の陣場岩屑なだれにより、榛名山麓沿いを流れている川筋が赤城山麓寄りに大きく押し出され、広瀬川低地帯を形成するに至ったと考えられている。広瀬川低地帯に現存する広瀬川や桃ノ木川が旧利根川の川筋のひとつであると想定されている。

利根川が現在の流路に移った経緯については洪水により支流と本流が入れ替わったとする説が有力であるが、掘削や用水といった人為要素が導因となったという考え方もある存在している。なお東遷していた利根川が西遷し現在の流れとなった時期については、概ね15~16世紀頃の出来事と考えられている。

前橋台地は前橋砂礫層と呼ばれる層厚200m以上の砂礫層の上に前橋泥流と呼ばれる岩屑なだれ堆積物が15~20mの厚さで堆積している。なお前橋泥流は浅間山の大規模山体崩壊由来するとされ、その発生時期は一般に2.4万年前とされるが、平成26年に実施された前橋市の調査に基づき2.6万年前とする説もある。



(「産業技術総合研究所地質調査総合センター(編)(2020)20万分の1日本シームレス地質図2020年4月6日版。『産業技術総合研究所地質調査総合センター』を加工して使用)

0 1 : 8.8 万 4km

凡例

| | | | | | |
|------------|--|---|-----------|--|--|
| H_sad | | 堆積岩、新生代 第四紀 完新世 谷底平野・山間盆地・河川・海岸平野堆積物 | Q31_std | | 堆積岩、新生代 第四紀 後期更新世後期 段丘堆積物 |
| H_svd | | 堆積岩、新生代 第四紀 完新世 自然堤防堆積物 | Q3_vis_al | | 火成岩、新生代 第四紀 後期更新世 安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火成岩 |
| Q33_H_sfd | | 堆積岩、新生代 第四紀 後期更新世後期～完新世 扇状地・崖離堆積物 | Q3_v_ad | | 火成岩、新生代 第四紀 後期更新世 火山岩・岩屑なだれ堆積物 |
| Q32-33_std | | 堆積岩、新生代 第四紀 後期更新世中期～後期更新世後期 段丘堆積物 | Q2_vis_al | | 火成岩、新生代 第四紀 チバニアン期 安山岩・玄武岩質安山岩 溶岩・火碎岩 |

第2-1図 調査区周辺の地質

第2節 歴史的環境

本調査区の所在する赤城山南面の地理的環境・歴史的環境については末尾に付した参考資料に詳しいので、本節では調査区周辺の主な遺跡分布図(第2-2図)と一覧表(第2-1表)を掲載し、当地の概要を記載する。なお遺跡分布図に表示した遺跡範囲は「マッピングぐんま遺跡マップ (<https://www2.wagmap.jp/pref-gunma-iseki/Portal>)」に掲示された遺跡区分に基づくが、個々の調査遺跡は分布図の遺跡範囲に内包されるものが大多数を占めるが、この領域・境界をまたぐものもあるため、当該遺跡の遺跡分布図上の掲載番号(図番号)と一覧表内での個々の掲載番号(表番号)を、この順番で遺跡名に統一()内に付記した。なお分布図上で領域をまたぐ場合にあってはその中の一つの番号を記載した。

1 旧石器時代

赤城山南麓は多くの旧石器時代の遺跡が分布している地域として知られているように、調査区の周辺からも当期の遺跡が検出されている。芳賀東部団地遺跡(6-18)や上泉唐ノ堀遺跡(15-54)からは環状ブロック群が確認されている。また亀泉坂上遺跡(24-66)では長野県産の黒曜石を石材とする石刃技法が、富田宮下遺跡(39-91)や富田高石遺跡(38-89)、萱野II遺跡(26-69)などでは、黒色安山岩を主要な石材とする石器製作活動が確認されている。なお長野県産の黒曜石を石材とする尖頭器石器群が富田下大日遺跡(36-87)から、削片系統の細石核が鳥取福蔵寺II遺跡(6-17)から出土しているほか、五代砂留遺跡群(7-43)や上泉武田遺跡(10-48)などでも当期の資料が出土している。

2 縄文時代

この時代の遺跡は小河川支流の台地縁辺部や開析谷の谷頭周辺に立地する傾向にあるとされる。遺跡数のピークは縄文時代前期後半と中期後半にあり、前期についてはやや小規模な集落遺跡が多く、中期は比較的大規模な集落遺跡が分布する傾向が指摘されている。

赤城山麓の草創期遺跡としては、国外ではあるが小島田八日市遺跡、徳丸仲田遺跡、白井北中道遺跡などが知

られているが、調査区周辺では湯気遺跡(1-3)から土器片が検出されている程度である。

早期は草創期と同様の遺跡分布傾向をもつとされる。竪穴建物等の検出例はまだないようだが、萱野II遺跡から土坑が、富田大泉坊B遺跡(40-97)では遺物包含層が確認されている。

多くの遺跡において、諸磯式期の小規模な集落を形成していたとされる前期の遺跡としては、前期前半の遺跡では江木下大日遺跡(37-88)や上泉新田塚遺跡群(15-55)などが存在する。また五代伊勢宮遺跡(7-27)では竪穴建物と土坑が環状に配置された集落の姿が確認されているほか、五代木福I遺跡(7-29)や上泉唐ノ堀遺跡、亀泉坂上遺跡、堤沼上遺跡(22-65)などでは小規模な集落が確認されている。なお芳賀東部団地遺跡では60棟という、この期としては例外的に大規模な集落も確認されている。

前期と比べ、規模の大きな集落が増加するとされる中期であるが、調査区周辺では五代伊勢宮IV遺跡(7-22)・五代伊勢宮V遺跡(7-23)・五代深堀III遺跡(7-40)にまたがり営まれた中期中葉の環状集落が好例であろう。このほか亀泉坂上遺跡や萱野遺跡(26-68)、萱野II遺跡からは小規模な集落が、亀泉西久保II遺跡(14-53)や五代木福II遺跡(7-30)からは配石遺構が検出されている。

後期になると遺跡数は急減し、後期及び晩期に関しては、遺構・遺物とともに検出例は比較的少ない。芳賀西部団地遺跡(1-9)や芳賀東部団地遺跡に検出事例がある程度となる。

3 弥生時代

縄文時代後晩期に続き、弥生時代においても遺跡は減少する傾向にあるとされる。少ないとても比較的の遺跡が多いのは赤城山南東麓の荒砥地区であり、南麓の本調査区周辺では数える程度となる。倉本遺跡(1-2)から中期の竪穴建物、湯気遺跡や富田西原遺跡(38-90)から後期の竪穴建物が検出されている。また富田宮下遺跡からは弥生時代後期末から古墳時代前期にかけての集落が確認されている。なお富田西原遺跡では中期前半の再葬墓と思われる土坑が確認されている。

4 古墳時代

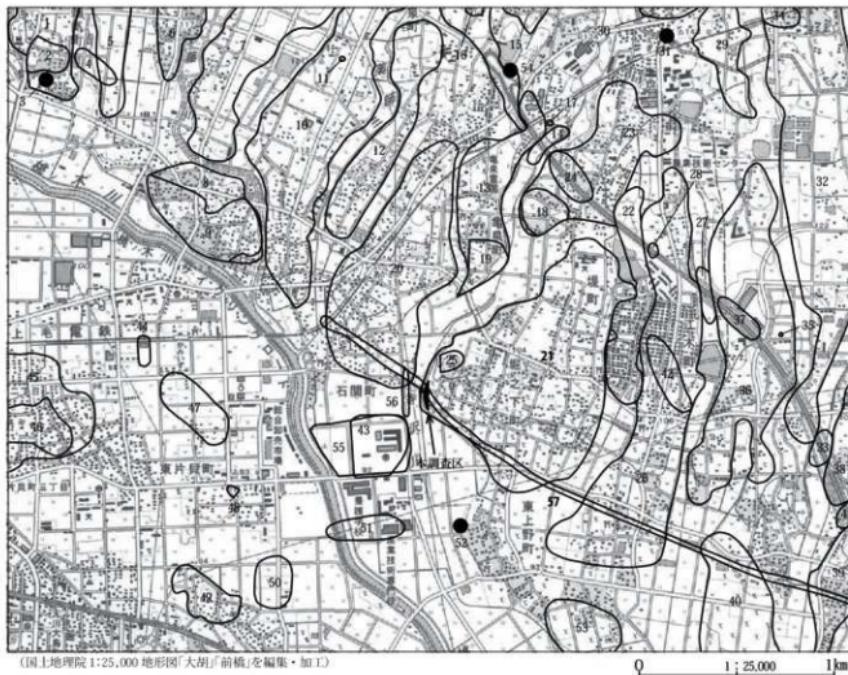
前代まで減少傾向にあった遺跡の数は、古墳時代に入ると急増する。古墳時代前期の遺跡は谷頭周辺や小河川縁辺に立地し、特に小河川とその支流の合流点付近の台地縁辺部に立地する傾向が指摘されている。中期以降になると台地縁辺部にあった遺跡が台地の内部・奥側へと居住域を移していくとされる。またこの時期から新たなる集落を形成するようになり、やがて広瀬川低地帯においても集落が検出されるようになる。なお本調査区が立地する寺沢川をはじめとする桃ノ木川の各支流域では有力古墳が少ないとされる。

4世紀から継続する遺跡としては五代砂留遺跡群や五代江戸屋敷遺跡(7-28)、芳賀東部団地遺跡が知られている。芳賀東部団地遺跡では、前期や中期の集落は台地

の縁辺部に位置し、西側台地では古墳時代後期から居住が始まり、奈良・平安時代まで集落が続くとされる。なお広瀬川低地帯に設けられた集落としては石関西梁瀬遺跡(51-113)や石関西田II遺跡(43-105)が知られている。また富田大泉坊A遺跡(39-96)では当期の水田が確認されており、萱野II遺跡では水田の可能性が指摘されている。また調査区周辺は有力古墳の少ない地域とされるが、正円寺古墳(25-67)や桂荘大塚古墳(48-110)、五代大日塚古墳(4-13)といった前方後円墳、亀泉薬師塚古墳(17-57)や新田塚古墳(16-56)といった円墳のほか、芳賀西部団地遺跡などでは多くの群集墳が確認されている。

5 奈良・平安時代

奈良・平安時代の集落は古墳時代後期と比べると、標



第2-2図 調査区周辺の遺跡

高120m以上ではその数が減少し、標高100～120mの間では沖積地に面した台地縁辺を中心に展開し、標高100m以下では古墳時代の集落から継続する事例が多く見受けられるとしている。古墳時代中期・後期には沖積地に面した台地縁辺にあった居住域が、奈良・平安時代には台地の奥にも拡大していく傾向が指摘されており、また標高150m以上の区域でも集落の形成が確認されている。

古墳時代から継続する集落としては亀泉坂上遺跡や萱野遺跡が知られる。また9世紀を頂点とする第二次新聞集落としては芳賀東部团地遺跡があげられている。なお茶木田遺跡(44-106)に代表される広瀬川低地帯に展開される集落も当期の特徴とされる。

調査区周辺では官衙に類する遺構は未検出であるが、檜峯遺跡(7-37)から奈良三彩の小壺が検出されたほか、富田宮下遺跡や富田下大日遺跡(36-83)、五代竹花遺跡(7-34)、五代砂留遺跡群、五代木福II遺跡などで皇朝十二銭が出土するなどしており、政治・文化面での拠点となる遺跡の発見が期待されている。また赤城山南麓は古代の製鉄地帯としても知られるが、堤沼西III遺跡(21-63)、堀越丁二本松遺跡(30-73)など多くの遺跡で製鉄や鍛冶に係る遺構が検出されている。

6 中世

平安時代末期から続く、社会情勢の変動が著しい時代

第2-1表 遺跡一覧

| 団 | 地図掲載遺跡 | 所在地 | 表 | 表掲載遺跡 | 所在地 | 旧石器 | 礎文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 | 近世 | 摘要 | 文献 |
|-------------|---------|------------------|------------------------------|-------|-----|-----|----|----|----|----|----|----|--------------------|------------|
| 1 前橋市0045遺跡 | 前橋市勝沼町他 | 1 小神明道路群 西田遺跡 | 鳥取町 | ● | ● | | | | | | | | 古墳 | 46 |
| | | 2 小神明道路群 資本遺跡 | 鳥取町 | | ● | | | | ○ | | | | 焼失屋根、中世環濠 | 46 |
| | | 3 小神明道路群 湯気遺跡 | 小神明町 | ○ | ● | ● | ● | | | | | | | 47 |
| | | 4 小神明道路群 | 小神明町 | ● | ● | ● | ○ | | | | | | | 46, 48, 73 |
| | | 5 小神明道路群 九軒遺跡 | 勝沼町、 小神明町 | ● | ● | ● | ○ | | | | | | 中世墓 | 47, 48 |
| | | 6 小神明下田遺跡 | 勝沼町 | ● | ● | ● | ○ | ○ | | | | | 集落、近世環濠 | 45 |
| | | 7 西曲輪遺跡 | 勝沼町 | | ● | | | | | | | | | 66 |
| | | 8 堤遺跡 | 勝沼町 | ○ | ● | | ● | ○ | | | | | 楕先形尖頭器、 燃系文、中世墓 | 13 |
| | | 9 芳賀西部团地遺跡 | 鳥取町、 瑞氣町、 五代町、 小神明町 | ● | | ○ | | ○ | | | | | 古墳 | 56 |
| 2 前橋市0071遺跡 | 前橋市瑞氣町 | 10 進野屋敷 | 瑞氣町 | | | | | ■ | | | | | 中世城館 | 10 |
| 3 瑞氣遺跡 | 前橋市瑞氣町 | 11 濱気遺跡群 | 瑞氣町 | ● | ● | | ○ | | | | | | 方形周溝墓 | 57, 58 |

註 ○遺構・遺物 ●集落 ○古墳 ■城館

第2章 周辺の環境

| 図 | 地図掲載道路 | 所在地 | 表 | 表掲載道路 | 所在地 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 | 近世 | 摘要 | 文献 |
|---|-----------|----------------|----|----------------------|--------------------------------------|-----|----|----|----|----|----|----|--|--|
| 4 | 前橋市0073道路 | 前橋市端氣町 中曲輪他 | 12 | ホーロー環・芳賀10 号墳 | 端氣町 | | | | ○ | | | | 古墳 | 8 |
| | | | 13 | 五代大日塚古墳・芳 賀村第11号墳 | 五代町 | | | | ○ | | | | 6c末～7c前、 前方後円墳 | 8、37、65 |
| 5 | 前橋市0072道路 | 前橋市五代町 大日 | 14 | 大日遺跡 | 五代町 | ● | | | ○ | | | | 縄文集落 | 11 |
| 6 | 前橋市0049道路 | 前橋市五代町 他 | 15 | 鳥取東原遺跡 | 鳥取町 | | ● | | | ○ | | | 近世墓 | 87 |
| | | | 16 | 鳥取福藏寺遺跡 | 鳥取町 | ● | ● | ● | ○ | | | | 集落、古代製鉄遺構 | 88 |
| | | | 17 | 鳥取福藏寺Ⅱ遺跡 | 鳥取町 | ○ | ● | | ● | ● | | | 集落、古代製鉄遺構 | 89 |
| | | | 18 | 芳賀東部団地遺跡 | 五代町、 鳥取町、 勝沼町、 小坂子町、 小瀬町 | ○ | ● | | ● | ● | ○ | | 縄文、古墳、 平安集落、 古墳、古代製鉄遺構、 中近世城郭 | 15、26、 53、54、 55、59、 60、90、91 |
| 7 | 前橋市0055道路 | 前橋市五代町 他 | 19 | 五代伊勢宮Ⅰ遺跡 | 五代町 | | ● | ● | | ○ | | | 古墳、平安集落 | 35 |
| | | | 20 | 五代伊勢宮Ⅱ遺跡 | 五代町 | ● | ● | ● | | ○ | | | 縄文、古墳、平安集落 | 74 |
| | | | 21 | 五代伊勢宮Ⅲ遺跡 | 五代町 | ○ | | | ● | ○ | ○ | | 縄文土坑、平安集落 | 75 |
| | | | 22 | 五代伊勢宮Ⅳ遺跡 | 五代町 | ● | | | ● | | | | 縄文、平安集落 | 75 |
| | | | 23 | 五代伊勢宮Ⅴ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | ○ | ○ | | 縄文、古墳、平安集落、 古墳小石郷 | 77 |
| | | | 24 | 五代伊勢宮Ⅵ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | | ○ | | 縄文、古墳、平安集落、 古代鍛冶遺構 | 76 |
| | | | 25 | 五代伊勢宮Ⅶ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | ● | | | 集落 | 96 |
| | | | 26 | 五代伊勢宮Ⅷ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | | | | | 集落、方形周溝墓 | 96 |
| | | | 27 | 五代伊勢宮遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | | ○ | | 縄文、古墳～平安集落、 近世道 | 84、85 |
| | | | 28 | 五代江戸屋敷遺跡 | 五代町 | ○ | ● | ● | ● | ● | ○ | | 集落、方形周溝墓 | 78 |
| | | | 29 | 五代木福Ⅰ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | ○ | ○ | | 銅鋸、瓦塔 | 35 |
| | | | 30 | 五代木福Ⅱ遺跡 | 五代町 | ○ | ● | ● | | | ○ | | 縄文中期配石遺構 | 80 |
| | | | 31 | 五代木福Ⅲ遺跡 | 五代町 | | ● | ● | ● | ○ | ○ | | 集落、平安鍛冶遺構 | 82 |
| | | | 32 | 五代木福Ⅳ遺跡 | 五代町 | | ● | ● | ● | ○ | | | 古墳、奈良、平安集落 | 81 |
| | | | 33 | 木福遺跡 | 五代町 | ● | ● | ● | ● | | | | 集落、製鉄遺構 | 11 |
| | | | 34 | 五代竹花遺跡 | 五代町 | ● | ● | ● | ● | ○ | | | 集落 | 35 |
| | | | 35 | 五代竹花Ⅱ遺跡 | 五代町 | ● | ● | ● | ● | ○ | | | 集落 | 82 |
| | | | 36 | 五代松峯Ⅱ遺跡 | 五代町 | | ● | | | | | | | 79 |
| | | | 37 | 檜峯遺跡 | 五代町 | | ● | ● | | | | | 集落、奈良三彩 | 43 |
| | | | 38 | 五代深堀Ⅰ遺跡 | 五代町 | ● | | | ● | | ○ | | 集落 | 80、97 |
| | | | 39 | 五代深堀Ⅱ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | ● | ○ | | 集落 | 75 |
| | | | 40 | 五代深堀Ⅲ遺跡 | 五代町 | ● | | | ● | | | | 集落 | 81 |
| | | | 41 | 五代山街道Ⅰ遺跡 | 五代町 | ● | | ● | ● | | | | | 83 |
| | | | 42 | 五代山街道Ⅱ遺跡 | 五代町 | ○ | | | | | | | | 83 |
| | | | 43 | 五代妙留遺跡群 | 五代町、 上泉町 | ○ | ● | | ● | ● | ○ | | 縄文、古墳、平安集落、 古墳墓、中世水田、縄 文前期挖石葺窓塙、平 安鍛冶遺構 | 23、26 |

| 図 | 地図掲載道路 | 所在地 | 表 | 表掲載道路 | 所在地 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 | 近世 | 摘要 | 文献 |
|----|-----------|------------------|----|----------------|--------|-----|----|----|----|----|----|----|---------------------|-------------|
| 8 | 前橋市0091道路 | 前橋市上泉町西久保 | 44 | 西久保遺跡 | 上泉町 | | | | ● | | | | 古墳集落 | 11 |
| 9 | 前橋市0090道路 | 前橋市上泉町宿・前須花1124地 | 45 | 上泉城 | 上泉町 | | | | | ■ | | | 中世城郭 | 67、95 |
| 10 | 前橋市0074道路 | 前橋市上泉町1480-1他 | 46 | 桑原遺跡 | 上泉町 | | | | ● | | | | FA堆積住居跡・水路 | |
| | | | 47 | 杉山Ⅱ遺跡 | 上泉町 | | | | | | | | S62試掘調査 | 61 |
| | | | 48 | 上泉武田遺跡 | 上泉町 | ○ | ● | | ● | ○ | ○ | ○ | 奈良・平安集落。中世城館? | 12、26 |
| 11 | 前橋市0877道路 | 前橋市上泉町1814 | 49 | 桂萱13号墳 | 上泉町 | | | | ○ | | | | 古墳 | 8 |
| 12 | 前橋市0075道路 | 前橋市上泉町 | 50 | 上泉風袋遺跡 | 上泉町 | | ● | | | | | | | 69 |
| | | | 51 | 上泉太郎三前道跡 | 上泉町 | | ● | | ● | | | | 集落 | 38 |
| 13 | 前橋市0098道路 | 前橋市龜泉町 | 52 | 龜泉靈園地内遺跡 | 龜泉町 | | | | ○ | | | | | 11 |
| 14 | 前橋市0820道路 | 前橋市龜泉町西久保 | 53 | 龜泉西久保Ⅱ遺跡 | 龜泉町 | ○ | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 古墳・古代水田。古代集落 | 21 |
| 15 | 前橋市0543道路 | 前橋市上泉町 | 54 | 上泉唐ノ堀遺跡 | 上泉町 | ○ | ● | | ● | ○ | ○ | ○ | 縄文、平安集落 | 18、19、25、26 |
| | | | 55 | 上泉新田塚道路群 | 上泉町 | ○ | ● | | ● | ● | ○ | ○ | 縄文・古墳～平安集落。 | 19、25、26 |
| 16 | 前橋市0076道路 | 前橋市上泉町新田塚 | 56 | 新田塚古墳・桂萱51号墳 | 上泉町 | | | | ○ | | | | 古墳 | |
| 17 | 前橋市0080道路 | 前橋市龜泉町西原 | 57 | 龜泉葉勝塚古墳・桂萱52号墳 | 龜泉町 | | | | ○ | | | | 7c円墳 | 8 |
| 18 | 前橋市0876道路 | 前橋市龜泉町江戸原 | 58 | 江戸原古墳群 | 龜泉町 | | | | ○ | | | | 桂萱76・78・79号墳 | 11 |
| 19 | 前橋市0097道路 | 前橋市龜泉町本郷 | 59 | 龜泉城 | 龜泉町 | | | | | ■ | | | 中世城館 | 10 |
| 20 | 前橋市0092道路 | 前橋市龜泉町他 | 60 | | | ○ | ○ | ○ | | | | | 散布地 | 72 |
| 21 | 前橋市0102道路 | 前橋市堤町他 | 61 | 沼西Ⅰ遺跡 | 堤町 | | | | ● | | | | 平安集落。墨書き土器 | 52 |
| | | | 62 | 沼西Ⅱ遺跡 | 堤町 | | | | ● | | | | 奈良平安集落 | 52 |
| | | | 63 | 堤沼西Ⅲ遺跡 | 堤町 | | | | ● | | | | 觀治工房・鐵津、鍛造剣片 | 86 |
| | | | 64 | 堤沼下遺跡 | 堤町 | ○ | ● | ○ | | | | | 古墳集落。平安水田 | 39 |
| 22 | 前橋市0103道路 | 前橋市堤町 | 65 | 堤沼上遺跡 | 堤町、龜泉町 | ○ | ● | ● | ● | | | | 集落、平安水田 | 25、27 |
| 23 | 前橋市0079道路 | 前橋市堤町他 | 66 | 龜泉坂上遺跡 | 龜泉町 | ○ | ● | ● | ○ | ○ | | | 縄文、古墳集落。 | 20、25 |
| 24 | 前橋市0781道路 | 前橋市堺越町 | 67 | 正円寺古墳・桂萱66号墳 | 堀之下町 | | | | ○ | | | | 古墳・平安水田 | |
| 25 | 前橋市0101道路 | 前橋市堀之下町 | 68 | 置野遺跡 | 江木町 | ● | | ○ | ● | | | | 6c前半前方後円墳 | 37、41 |
| 26 | 前橋市0104道路 | 前橋市江木町 | 69 | 置野Ⅱ遺跡 | 江木町 | ○ | ● | | ● | | | | 縄文、平安集落。7c円墳 | 9 |
| 27 | 前橋市0823道路 | 前橋市江木町 | 70 | 足軽町遺跡 | 堀越町 | ● | ● | ● | ● | | | | 縄文前期中期・奈良、平安集落。7c円墳 | 22 |
| 28 | 前橋市0819道路 | 前橋市江木町 | 71 | 堀越芝山遺跡 | 堀越町 | ● | | ○ | ○ | | | | 芝山古墳 | 5 |
| 30 | 前橋市0182道路 | 前橋市堀越町他 | 72 | 堀越丁二本松B地点遺跡 | 堀越町 | ● | | | ● | | | | 縄文前期後半状耳飾り | 6 |
| | | | 73 | 堀越丁二本松D地点遺跡 | 堀越町 | ● | | | ● | | | | 縄文・平安集落。平安小畿治 | 2 |
| | | | 74 | 柴崎遺跡 | 横沢町 | ○ | | | | | | | 土坑 | 1 |
| | | | 75 | 横沢向山遺跡 | 横沢町 | ● | | ○ | ○ | | | | 縄文土坑・7c古墳 | 2 |
| | | | 76 | 横沢向山遺跡 | 横沢町 | ○ | | ○ | ○ | | | | 7c円墳・大胡町36号墳 | 2 |
| | | | 77 | 横沢向山B地点遺跡 | 横沢町 | ●? | | ○ | ●? | | | | 転用疑 | 3 |
| | | | 78 | 茂木二本松道路 | 茂木町 | ● | | | ○ | | | | 地割れ跡 | 2 |

| 図 | 地図掲載道路 | 所在地 | 表 | 表掲載道路 | 所在地 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 | 近世 | 摘要 | 文献 |
|----|-----------|---------|-----|-----------|--------------|-----|----|----|----|----|----|----|----------------------------------|------------|
| 31 | 勝山道場 | 前橋市堀越町 | 79 | 勝山道場 | 堀越町 | | | | | ■ | | | 中世城館 | 10 |
| 32 | 前橋市0106道路 | 前橋市富田町他 | 80 | 今城道路 | 堀越町 | | | | ● | | | | 奈良集落、帶金糸 | 42 |
| | | | 81 | 富田塗田遺跡 | 富田町 | | ● | ● | ● | ■ | | | 縄文、古墳、平安集落、平安城館、平安水田 | 24, 29 |
| 33 | 前橋市0677道路 | 前橋市富田町 | | | | | | | | | | | | |
| 34 | 前橋市0078道路 | 前橋市堀越町他 | 82 | 勝山城 | 勝山町 | | | | | ■ | | | 中世城館 | 95 |
| 35 | 前橋市0881道路 | 前橋市富田町 | | | | | | | ○ | | | | | |
| 36 | 前橋市0105道路 | 前橋市江木町他 | 83 | ローズタウン遺跡群 | 富田町 | ● | | | ● | | | | 古墳周囲 集落 | 94 |
| | | | 84 | ローズタウン遺跡群 | 富田下大日Ⅰ遺跡 | ● | ● | ● | ● | | | | 集落 | 92 |
| | | | 85 | ローズタウン遺跡群 | 富田下大日Ⅱ遺跡 | ● | ● | ● | ● | | | | 集落 | 93 |
| | | | 86 | ローズタウン遺跡群 | 富田下大日Ⅳ遺跡 | ● | ● | ● | ● | | | | 集落 | 36 |
| | | | 87 | 富田下大日遺跡 | 富田町 | ○ | ● | ● | ● | ● | | | 縄文、古墳、平安集落、 古墳、平安水田 | 24, 29 |
| | | | 88 | 江木下大日遺跡 | 江木町 | ○ | ● | ● | ● | ● | | | 縄文、古墳～平安集落、 水田? | 17, 24 |
| 37 | 前橋市0900道路 | 前橋市江木町 | | | | | | | | | | | | |
| 38 | 前橋市0864道路 | 前橋市富田町 | 89 | 富田高石遺跡 | 富田町 | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | 古墳集落、古代道状遺 構、古墳 | 24, 30 |
| | | | 90 | 富田西原遺跡 | 富田町 | ○ | | | ● | ○ | ○ | ○ | 古墳集落、平安水田 | 24, 31 |
| 39 | 前橋市0246道路 | 前橋市富田町 | 91 | 富田宮下遺跡 | 富田町 | ○ | ● | ● | ● | ● | ● | ○ | 縄文、古墳～近世集落、 平安水田、中世墓、 近世寺院 | 24, 28, 32 |
| | | | 92 | 富田遺跡群 | 富田上・前遺跡B・C・X | 富田町 | | | ○ | ● | ○ | | 集落、古墳、女塚 | 49 |
| | | | 93 | 東原遺跡 | 富田町 | | ● | ● | ● | ○ | ○ | | 縄文～古墳集落、 古墳、中世墓 | 50 |
| | | | 94 | 富田宮田遺跡 | 富田町 | | ○ | | ● | ○ | ○ | ● | 古墳、近世集落、古墳、 平安水田 | 28 |
| | | | 95 | 富田細田遺跡 | 富田町 | | ○ | | ● | ○ | ○ | ○ | 9c水田、B下水田 | 32 |
| | | | 96 | 富田大泉坊A遺跡 | 富田町 | | | | ● | ● | ● | ● | 弥生～中世集落、古墳、 平安、近世水田 | 28 |
| | | | 97 | 富田大泉坊B遺跡 | 富田町 | | ● | | ● | ● | | | 縄文、奈良、平安、中 世集落、平安水田、中 世墓 | 28 |
| 40 | 前橋市0244道路 | 前橋市富田町他 | 98 | 木舟遺跡 | 富田町 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 縄文土坑 | 66 |
| | | | 99 | 宮田遺跡 | 富田町 | | | | ● | ● | | | 818年噴砂痕 | 33 |
| | | | 100 | 富田新井遺跡 | 富田町 | | ○ | | ● | ○ | | ○ | B下水田 | 14, 28 |
| | | | 101 | 江木水地遺跡 | 江木町 | | | | ○ | ○ | | | | 70 |
| 41 | 前橋市0899道路 | 前橋市富田町 | 102 | 富田西原遺跡 | 富田町 | ○ | | ● | ○ | ● | ● | | 平安水田 | 31 |
| 42 | 前橋市0844道路 | 前橋市江木町 | 103 | 柱萱69号墳 | 江木町 | | | | ○ | | | | | 8 |
| | | | 104 | 萱野遺跡 | 江木町 | | ● | | ● | | | | 方形刻溝墓 | 9 |
| 43 | 前橋市0237道路 | 前橋市石岡町 | 105 | 石岡西田Ⅱ遺跡 | 石岡町 | | ○ | ● | ○ | ○ | ○ | ○ | 古墳道、平安集落・水 田 | 16 |
| 44 | 前橋市0094道路 | 前橋市上泉町 | 106 | 茶木田遺跡 | 上泉町 | | | | ● | ○ | | | 集落 | 51 |
| 45 | 前橋市0096道路 | 前橋市西片貝町 | 107 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | 集落 | 71 |
| 46 | 前橋市0089道路 | 前橋市東片貝町 | 108 | 片貝城 | 西片貝町 | | | | | | ■ | | 中世城館 | 10 |
| 47 | 前橋市0095道路 | 前橋市東片貝町 | 109 | | | | ○ | | ○ | ○ | | | 散布地 | 72 |

| 図 | 地図掲載道路 | 所在地 | 表 | 表掲載道路 | 所在地 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 古代 | 中世 | 近世 | 摘要 | 文献 |
|----|-----------|---------|-----|-----------------------|------|-----|----|----|----|----|----|--------------|----|----|
| 48 | 前橋市0241道路 | 前橋市東片貝町 | 110 | 片貝神社古墳・桂賀大塚古墳・桂賀村第9号墳 | 東片貝町 | | | | ◎ | | | 6c後前方後円墳 | 8 | |
| 49 | 前橋市0238道路 | 前橋市野中町 | 111 | 野中南深造構群 | 野中町 | | | | | ● | | 中世集落 | 10 | |
| 50 | 前橋市0927道路 | 前橋市野中町 | 112 | | | | | | | | | 散布地 | 72 | |
| 51 | 前橋市0239道路 | 前橋市石闇町他 | 113 | 石闇西柴瀬道路 | 石闇町 | | ● | ● | | | | 古墳、奈良集落 | 34 | |
| | | | 114 | 西片貝源田島道路 | 西片貝町 | | | | ○ | | | 墓 | 34 | |
| 52 | 木瀬村10号古墳 | 前橋市東上野町 | 115 | 木瀬村10号古墳 | 東上野町 | | ○ | | | | | 古墳 | 8 | |
| 53 | 前橋市0245道路 | 前橋市女塚町 | 116 | | | | ○ | ○ | | | | 散布地 | 72 | |
| 54 | 萩原南田道路 | 前橋市萩原町 | 117 | 萩原南田遺跡 | 萩原町 | ○ | | ● | ○ | ○ | | 平安水田 | 21 | |
| 55 | 前橋市0099道路 | 前橋市石闇町 | | | | | ● | | | | | | 68 | |
| 56 | 前橋市0100道路 | 前橋市石闇町 | 118 | 石闇西田道路 | 石闇町 | | ○ | | | | | 奈良集落、平安水田、女塚 | 7 | |
| 57 | 前橋市0093道路 | 前橋市石闇町他 | 119 | 富田遺跡群 富田中前道路A区 | 富田町 | | | | ○ | | | 女塚 | 49 | |
| | | | 120 | 石闇女塚遺跡 | 石闇町 | | | | ○ | | | 女塚 | 62 | |
| | | | 121 | 堀之下女塚道路 | 堀之下町 | | | | ○ | | | 女塚 | 63 | |
| | | | 122 | 堀之下女塚Ⅱ道路 | 江木町 | | | | ○ | | | 女塚 | 64 | |

文献リスト

- 1 大胡町教育委員会1994「大胡西北部道路群」：乙西尾引道路・西天神道路・柴崎道路】
- 2 大胡町教育委員会1999「大胡西北部道路群5：堀越丁二本松道路・横沢向田道路・横沢向山道路・浅木二本松道路】
- 3 大胡町教育委員会2001「大胡西北部道路群6：横沢向山B地点道路】
- 4 大胡町誌編纂委員会1976「大胡町誌】
- 5 大胡町教育委員会1996「堀越芝山道路】
- 6 大胡町教育委員会2002「堀越丁二本松B地点道路・大胡神社前道路・養林寺前道路】
- 7 技研測量設計株式会社2007「石闇西田道路Ⅲ】
- 8 群馬県1933「上毛古墳総覧】
- 9 群馬県企業局1999「萱野道路・下田中道路・矢場道路】
- 10 群馬県教育委員会1989「群馬県の中世城跡】
- 11 群馬県文化財保護協会1974「群馬県道路地図】
- 12 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「上泉武道跡一縄文時代で隣接】
- 13 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「堤道路】
- 14 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2016「富田新井道路(前橋市0244道路)】
- 15 公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2013「芳賀東部团地道路】
- 16 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2002「石闇西田Ⅱ道路】
- 17 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「江木下大日道路】
- 18 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「上泉唐ノ堀道路】
- 19 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2011「上泉唐ノ堀道路・上泉新田道路群】
- 20 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「亀泉坂上道路】
- 21 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「亀泉坂西久保山道路・萩原南田道路】
- 22 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2007「萱野田道路】
- 23 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「五代竹坂道路群】
- 24 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「上武道路・旧石器時代道路群(1)】
- 25 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「上武道路・旧石器時代道路群(2)】
- 26 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2012「上武道路・旧石器時代道路群(3)】
- 27 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2008「堤沼上道路】
- 28 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2009「富田新井道路・富田大泉坊B道路・富田大泉坊A道路・富田宮田道路・富田宮下道路】
- 29 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「富田津田道路・富田下大日道路】
- 30 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「富田高石道路】
- 31 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2010「富田西原道路】
- 32 財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団2006「富田細田道路・富田宮下道路】
- 33 山武考古学研究所1996「群馬県前橋市 宮田道路発掘調査報告書】
- 34 山武考古学研究所1996「群馬県前橋市 石闇西柴瀬道路・西片貝源田島道路】
- 35 山武考古学研究所2001「五代竹坂道路・五代木福I道路・五代伊勢宮II道路】
- 36 山武考古学研究所2002「ローズタウン道路群 富田下大日IV道路】
- 37 市史編さん委員会1971「前橋市史 第1巻】
- 38 スナガ環境測設株式会社1998「上泉太郎三前道路】
- 39 スナガ環境測設株式会社2000「堤沼下道路】
- 40 強多郡誌編纂委員会1958「強多郡誌】
- 41 日本考古学学会1963「日本考古学年報 10】
- 42 前橋市教育委員会1992「今城遺跡】
- 43 前橋市教育委員会1981「槍峯道路】
- 44 前橋市教育委員会1973「亀泉町薬師塚古墳】
- 45 前橋市教育委員会1983「小神明道路群】
- 46 前橋市教育委員会1984「小神明道路群II】
- 47 前橋市教育委員会1986「小神明道路群IV】

- 48 前橋市教育委員会1987「小神明道跡群V」
 49 前橋市教育委員会1982「富田道跡群・西大室道跡群」
 50 前橋文化財研究会1980「富田道跡群・西大室道跡群・清里南部道跡群」
 51 前橋市教育委員会1985「茶木本道跡」
 52 前橋市教育委員会1992「沼西Ⅰ道跡・沼西Ⅱ道跡」
 53 前橋市教育委員会1984「芳賀團地道跡第1巻、芳賀東部团地道跡群
 1」
 54 前橋市教育委員会1988「芳賀團地道跡第2巻、芳賀東部团地道跡群
 2」
 55 前橋市教育委員会1990「芳賀團地道跡第3巻、芳賀東部团地道跡群
 3」
 56 前橋市教育委員会1991「芳賀團地道跡群第4巻芳賀西部团地道路」
 57 前橋市教育委員会1983「端氣道跡群1」
 58 前橋市教育委員会1984「端氣道跡群2」
 59 前橋市教育委員会1977「文化財調査報告書 第7集」
 60 前橋市教育委員会1978「文化財調査報告書 第8集」
 61 前橋市教育委員会1988「文化財調査報告書 第18集」
 62 前橋市教育委員会1993「文化財調査報告書 第23集」
 63 前橋市教育委員会1996「文化財調査報告書 第25集」
 64 前橋市教育委員会1996「文化財調査報告書 第26集」
 65 前橋市教育委員会2005「文化財調査報告書 第35集」
 66 前橋市教育委員会1995「平成6年度 市内道跡発掘調査報告書」
 67 前橋市教育委員会1996「平成7年度 市内道跡発掘調査報告書」
 68 前橋市教育委員会2000「平成11年度 市内道跡発掘調査報告書」
 69 前橋市教育委員会2004「平成15年度 市内道跡発掘調査報告書」
 70 前橋市教育委員会2006「平成17年度 市内道跡発掘調査報告書」
 71 前橋市教育委員会2011「平成22年度 市内道跡発掘調査報告書」
 72 前橋市教育委員会2013「前橋市道跡分布地図ー市内道跡詳細分布調査報告書」
 73 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1988「小神明道跡群」
 74 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002「五代伊勢宮Ⅱ道跡」
 75 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002「五代伊勢宮Ⅲ道跡・五代深堀Ⅱ道跡・五代中原Ⅰ道跡・五代伊勢宮Ⅰ道跡」
 76 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002「五代伊勢宮Ⅳ道跡・五代中原Ⅱ道跡」
 77 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003「五代伊勢宮Ⅴ道跡」
 78 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004「五代江戸屋敷道跡」
 79 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998「五代松塚Ⅱ道跡」
 80 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2001「五代木福Ⅱ道跡・五代深堀Ⅰ道跡」
 81 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2005「五代木福Ⅳ道跡・五代深堀Ⅲ道跡」
 82 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004「五代竹花Ⅱ道跡・五代木福Ⅲ道跡」
 83 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2004「五代中原Ⅲ道跡・五代山街道Ⅰ道跡・五代山街道Ⅱ道跡」
 84 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2007「五代南部工業團地道跡群 五代伊勢宮道跡(1)」
 85 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2009「五代南部工業團地道跡群 五代伊勢宮道跡(2)」
 86 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2003「堤沼Ⅲ道跡」
 87 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998「鳥取東原道跡」
 88 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1998「鳥取福藏寺道跡」
 89 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1999「鳥取福藏寺Ⅱ道跡」
 90 前橋市埋蔵文化財発掘調査団1996「芳賀東部团地道跡」
 91 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2005「芳賀東部团地道跡」
 92 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000「ローズタウン道跡群 富田下大日Ⅰ道跡」
 93 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2000「ローズタウン道跡群 富田下大日Ⅱ道跡」
 94 前橋市埋蔵文化財発掘調査団2002「ローズタウン道跡群 富田下大日Ⅲ道跡」
 95 山崎一1971「蔚郡古城址の研究 上巻」
 96 有限会社毛野考古学研究所2018「五代伊勢宮Ⅶ・Ⅷ道跡」
 97 有限会社毛野考古学研究所2015「五代深堀Ⅰ道跡No. 2」

第3節 遺跡の概要と基本土層

1 遺跡の概要

本調査区は前橋市0102遺跡の西端の一画を占めるが、同時にまた前橋市0093遺跡の西端寄りの一画でもある。この二つの遺跡に内包される本調査区は、群馬県前橋市堀之下町に所在する。堀之下町は、標高1828mの赤城山山頂付近から関東平野北西端にかけて広がる前橋市の、中央部やや南寄りの標高約90~117m地点に位置する。また本調査区から北東に100mほど離れた地点には、古墳時代後期の築造とされる全長65mほどの前方後円墳である正円寺古墳(前橋市0101遺跡)が存在する。

前橋市0102遺跡は、赤城山中腹から南流し広瀬川低地帯で桃ノ木川に合流する寺沢川の左岸に位置しており、市立桂荳東小学校を北端とし、前橋市堤町から同堀之下町にかけて広がる遺跡である。これまでに桂荳東小西遺跡、沼西Ⅰ遺跡、沼西Ⅱ遺跡や堤沼西Ⅲ遺跡など、遺跡北端の桂荳東小学校周辺での発掘調査事例が多い遺跡ではあるが、古墳時代や平安時代の集落のほかに平安時代の水田なども検出されている。今回の発掘調査では、古墳時代の掘立柱建物2棟、平安時代の水田1か所、中世の溝1条などのほか、流路状遺構1条、土坑8基、ピット7基、盛上遺構2基が検出されている。

前橋市0093遺跡は前橋市上泉町から、前橋市の東南に位置する伊勢崎市田部井町にかけて、赤城山南麓の標高95mラインに沿って掘られた全長約13kmの未完の堀である女堀の、前橋市域部分に与えられた名称である。女堀の発掘調査は荒砥南部圃場整備事業に伴う昭和54年の前橋市東大室町での発掘調査を嚆矢とし、以後飯土井町、二之宮町、荒口町と一連の発掘調査が行われたほか、昭和56年には前橋市土地改良事業(富田南部・西大室)に伴い富田町でも発掘調査が行われた。また伊勢崎市域部分についても、昭和54年に今井南部土地改良事業に伴う発掘調査、昭和60年には下触土地改良事業に伴う発掘調査が佐波郡赤堀村下触(当時)で行われている。こうして得られた発掘調査成果をもとに昭和58年10月、前橋市5箇所・赤堀町1箇所が国指定史跡となり、赤堀地区については平成9年と平成28年に史跡の追加指定を受けてい

る。なお、平成12年から15年にかけて国道17号(上武道路)の改築工事に伴い荒口町で、平成18年には市道改良工事に伴い石関町でそれぞれ発掘調査が行われ、新たな知見が蓄積されてきている。本調査区は平成18年に発掘調査が行われた寺沢川右岸の石関西田遺跡Ⅲと寺沢川を間に挟み隣り合っている。また平成6年に発掘調査が行われた、寺沢川左岸に位置する堀之下女振遺跡の西半に隣接する地点を発掘調査地としている。今回の発掘調査では、女堀の西南壁と盛土遺構が検出された。

2 基本土層

本調査区は大胡火碎流堆積面上の台地と、旧利根川の広瀬川低地帯との境である崖線沿いに位置する。また調査区は台地を南北に開析する寺沢川の両岸を含むこともあり、台地部である左岸側の1・2区と低地部である右岸側の3区とでは上層堆積の様相を異にしている。概観するなら、右岸にある3区は寺沢川の河川堆積物を基盤とし、左岸にある1・2区は赤城火山由來の堆積物を基盤としている。なお調査時点での台地部と川筋との比高はおよそ3~4mである。

寺沢川右岸の3区南地区は調査区が狭小なためAs-B層までの検出であったが、その直上近くまで往年の土地改良事業の影響が及んでいる。同じく3区の北地区は寺沢川の旧河床に相当していると思われ、土地改良に由来する擾乱層の下から黒色粘質土層と砂礫層が確認されている。寺沢川旧河道左岸に位置する石関西田遺跡ⅢのB2地区の基本層序によれば、As-B層の下位から検出された黒褐色粘質土はAs-B下水田耕作土とされており、3区北地区で検出された粘質土もまた同様に水田に関係する土壤と推測される。

左岸・台地部の基本土層として模式図(第2-3図)を提示した。模式図は発掘調査時に得られた基本土層と調査区内に点在するいくつかの遺構から得られた層序や試掘調査時のデータなどを組み合わせたものであり、提示した各層がすべて含まれる地点は確認されていない。生憎なことに台地部にも共通して言えることは、低地部同様に土地改良の影響がAs-B面近くまで及んでいるということである。なお模式図Ⅸ層から下の層序は、発掘調査時に1区南部から得られた基本土層を踏襲している。なお、あくまでも参考資料に過ぎないのであるが、本調

査区の立地する台地の上流側に位置する堤沼西田遺跡の基本層序と、寺沢川をはさみ対岸に位置する石関西田遺跡ⅢB2区の基本層序を模式化して付した。

台地部基本土層模式図

| |
|-----------------|
| I 表土 |
| II 土地改良時の埋土・擾乱 |
| III 昭和期の水田耕土 |
| IV 黒褐色土 |
| V As-Bを含む黒褐色土 |
| VI As-B |
| VII As-Cを含む黒色土 |
| VIII 暗褐色土 |
| IX にぶい黄褐色土 |
| X 浅黄褐色土 |
| X' やや黒味の強い浅黄褐色土 |
| X'' 褐色味の強い浅黄褐色土 |
| XI 褐灰色土 |
| XII 灰黄褐色土 |

参考資料

石関西田遺跡Ⅲ B2区

| |
|----------------------------|
| I 表土 |
| III 褐灰色土(下層は鉄分沈殿層) |
| VI 黒褐色土(褐色洪流水砂を含む) |
| VIII オリーブ黒色土、洪流水層混土層 |
| IX 黒褐色土、As-B混土 |
| X As-Kk一次堆積層 |
| XI 黒褐色土、As-KkとAs-Bの間層 |
| XIII 灰赤色土、As-B一次堆積層上位の灰層 |
| XIV 褐灰色~褐色軽石層、As-B一次堆積層 |
| XV 黒褐色粘質土、As-B下水田耕作土 |
| XVI 818(弘仁9)年の地震に伴う洪流水層 |
| XVII 黑褐色土、As-C、Hr-FAを微量含む |
| XVIII 黑褐色土、As-C、Hr-FAを少量含む |

(参照 前田和明2007「IV. 基本層序」「石関西田遺跡Ⅲ」前橋市埋蔵文化財発掘調査会pp.10)

堤沼西田遺跡基本層序

| |
|--|
| I 表土 |
| II 暗褐色土層 ローム粒10%、As-C・Hr-FP5%、燒土粒・炭化物をわずか含む。 |
| III 黒褐色土層 As-C20%、Hr-FP・ローム粒5%、炭化物をわずかに含む。 |
| IV 褐色土層 ローム粒10%、As-C5%を含む。 |
| V 黄褐色土層 ソフトローム層。 |
| VI 明黄褐色土層 ハードローム層。 |

(参照 平野浩志・小林和美2002「IV. 縮序」「堤沼西田遺跡」前橋市埋蔵文化財発掘調査会pp.9)

第2-3図 基本土層1



I区南端。1 [KX28Y48グリット]

I にぶい黄褐色土(10YR5/3)粘性あり。II 刹近邊に ϕ 5mm程の粒子がある。

II 浅黄褐色土(10YR8/4)少量の鉄分凝集塊あり、砂質ある火山灰土の可能性あり。(BP多い)

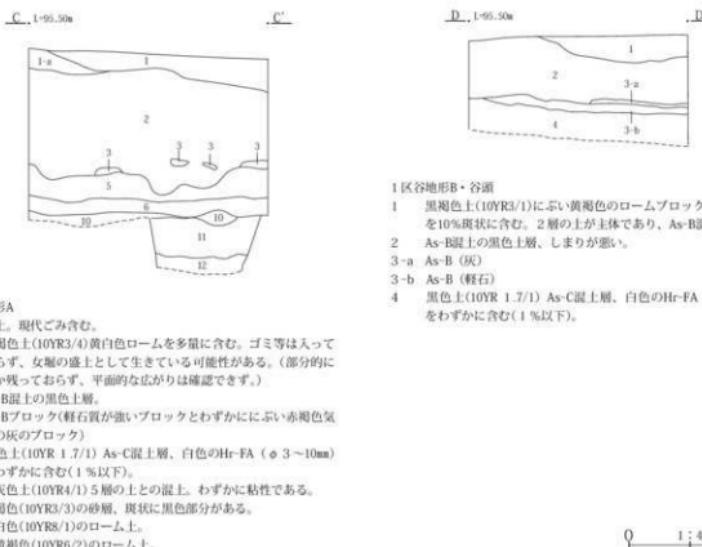
III IIと同質だが、やや黒味ある。(BP多い)

IV IIと同質だが、鉄分の凝集が多いため褐色味が強い。少量の灰白色粒子(ϕ 2~5mm)を含む。

IIより粘質度高い。(暗色帶)

V 褐灰色土(10YR4/1)微細~ ϕ 5mmの灰白色粒を含む。(暗色帶)VI 灰黃褐色土(10YR8/2) \pm 1mmと ϕ 5mmの灰白色粒子を微量含む。やや粘質の火山灰土。(暗色帶)

VII 灰黃褐色土(10YR6/2) VIに近似するが夾雜物少なく、シルト質上面に鉄分の凝集跡。



1 区谷地形A

1 表上。現代ごみ含む。

1-a 喀褐色土(10YR3/4) 黄白色ロームを多量に含む。ゴミ等は入っておらず、女籠の盛土として生きている可能性がある。(部分的にしか残っておらず、平面的な広がりは確認できず。)

2 As-B混土の黑色土層。

3 As-Bブロック(軽石質が強いブロックとわずかにぶい赤褐色氣味の灰のブロック)

5 黒色土(10YR 1.7/1) As-C混土層、白色のHr-FA (ϕ 3~10mm)をわずかに含む(1%以下)。

6 褐灰色土(10YR4/1) 5層の土との混土。わずかに粘性である。

10 喀褐色(10YR8/3)の砂層、斑状に黑色部分がある。

11 灰白色(10YR8/1)のローム土。

12 灰黃褐色土(10YR6/2)のローム土。

1 区谷地形B・谷頭

1 黒褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色のロームブロック(ϕ 10~3mm)を10%程度に含む。2層の上部であり、As-B混土上である。

2 As-B混土上の黒色土層、しまりが悪い。

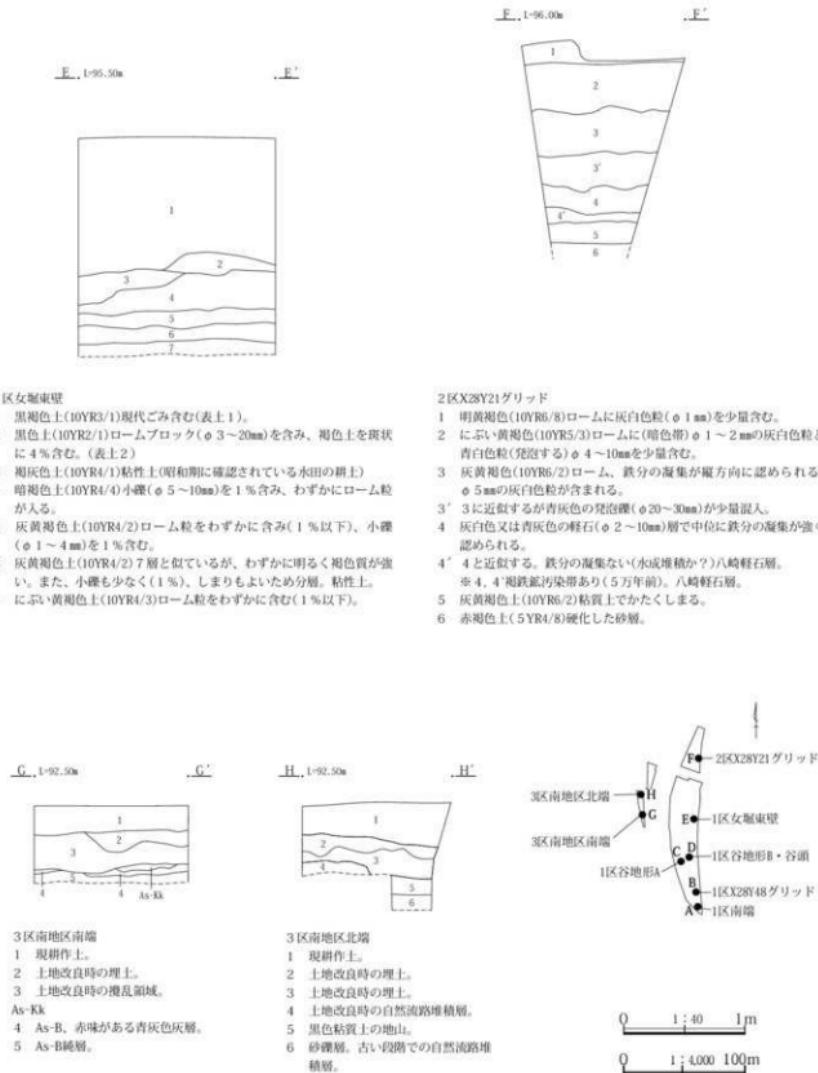
3-a As-B (灰)

3-b As-B (軽石)

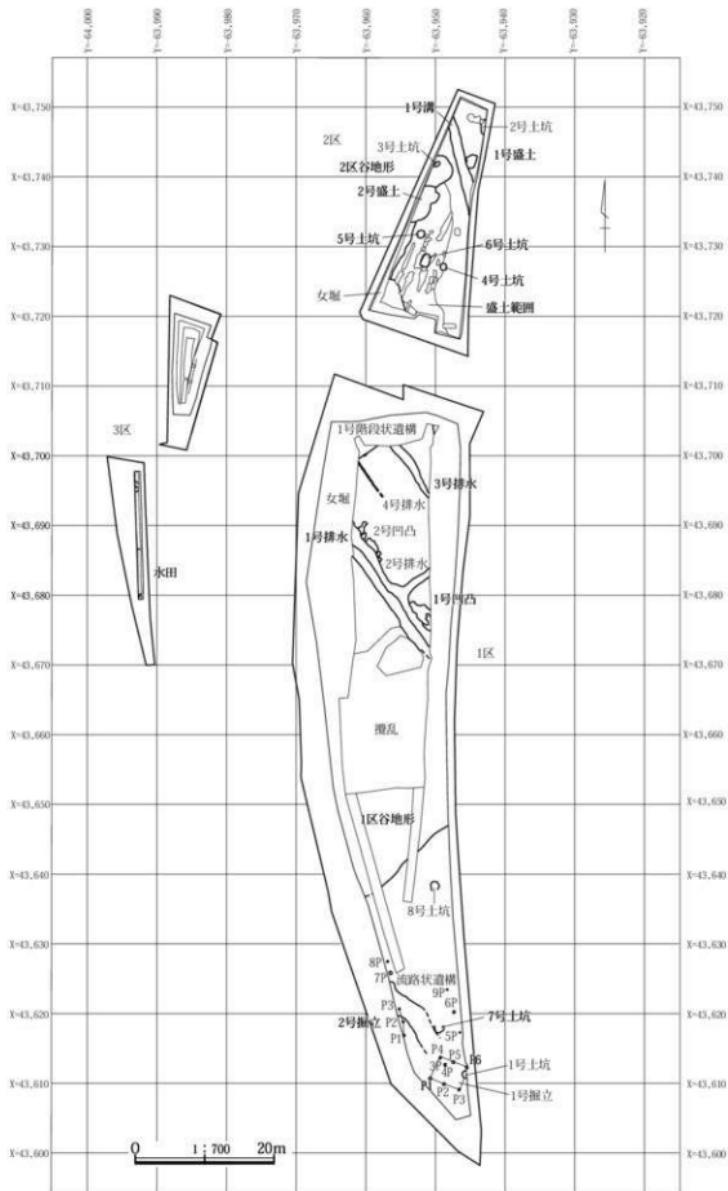
4 黒色土(10YR 1.7/1) As-C混土層、白色のHr-FA (ϕ 3~10mm)をわずかに含む(1%以下)。

0 1:40 1m

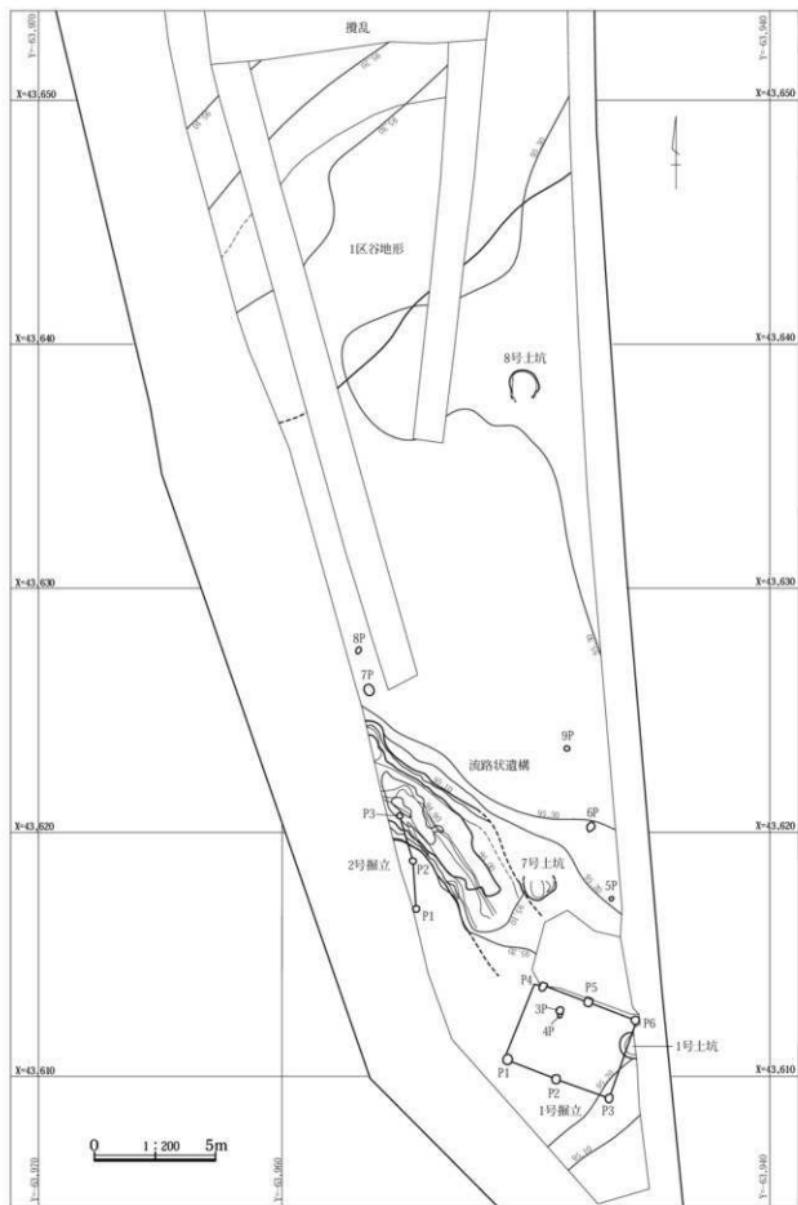
第2-4図 基本土層2



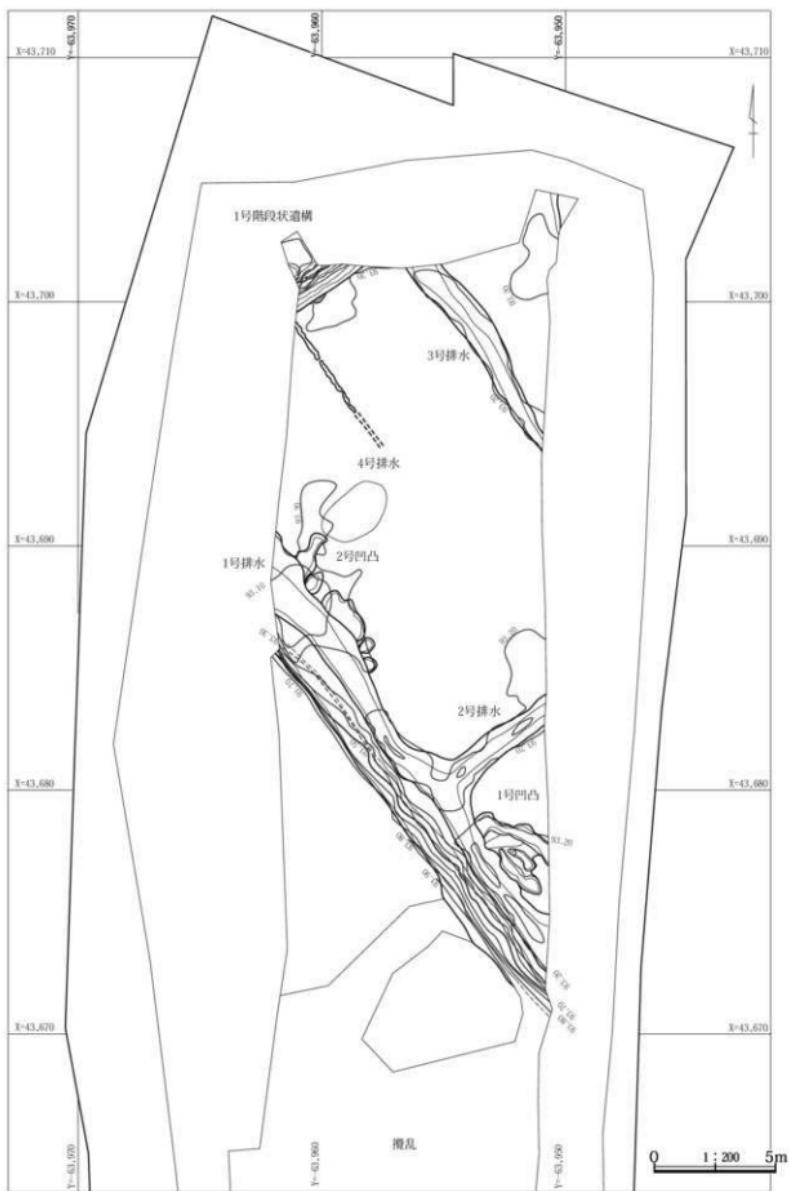
第2-5図 基本土層3



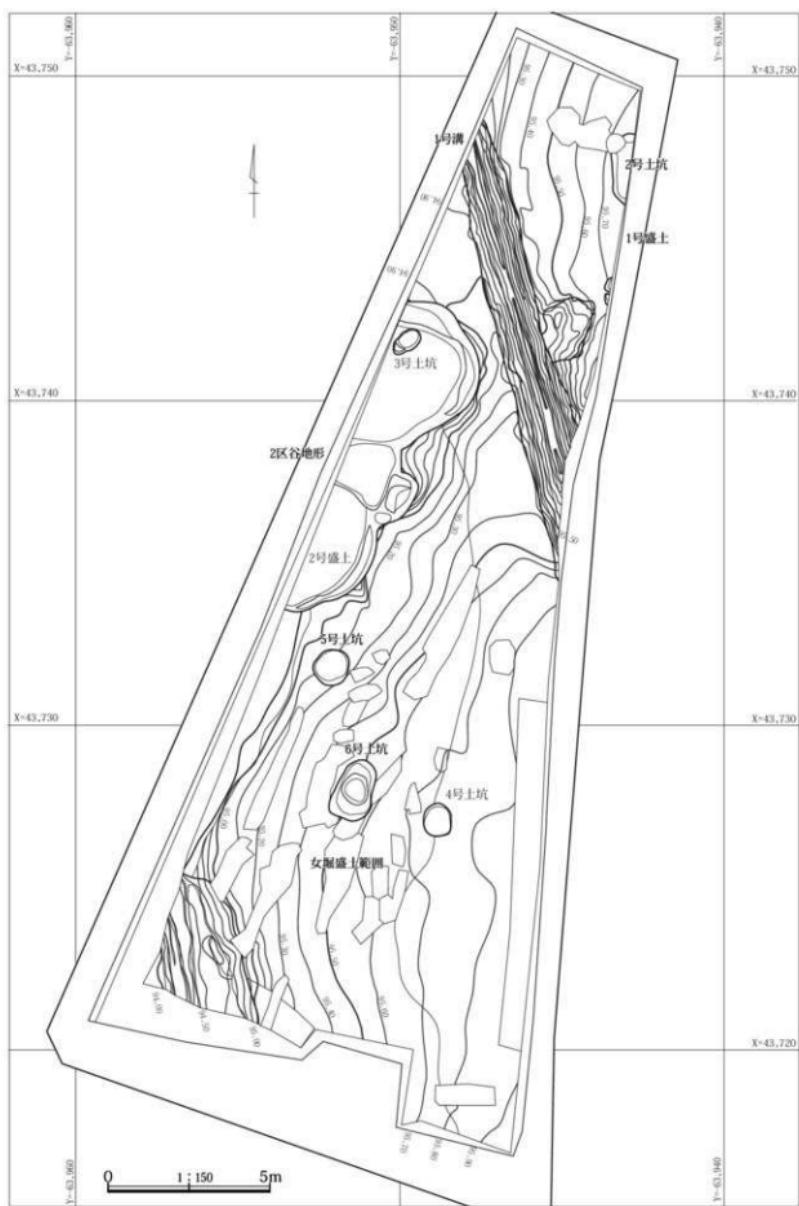
第2-6図 1~3区全体図



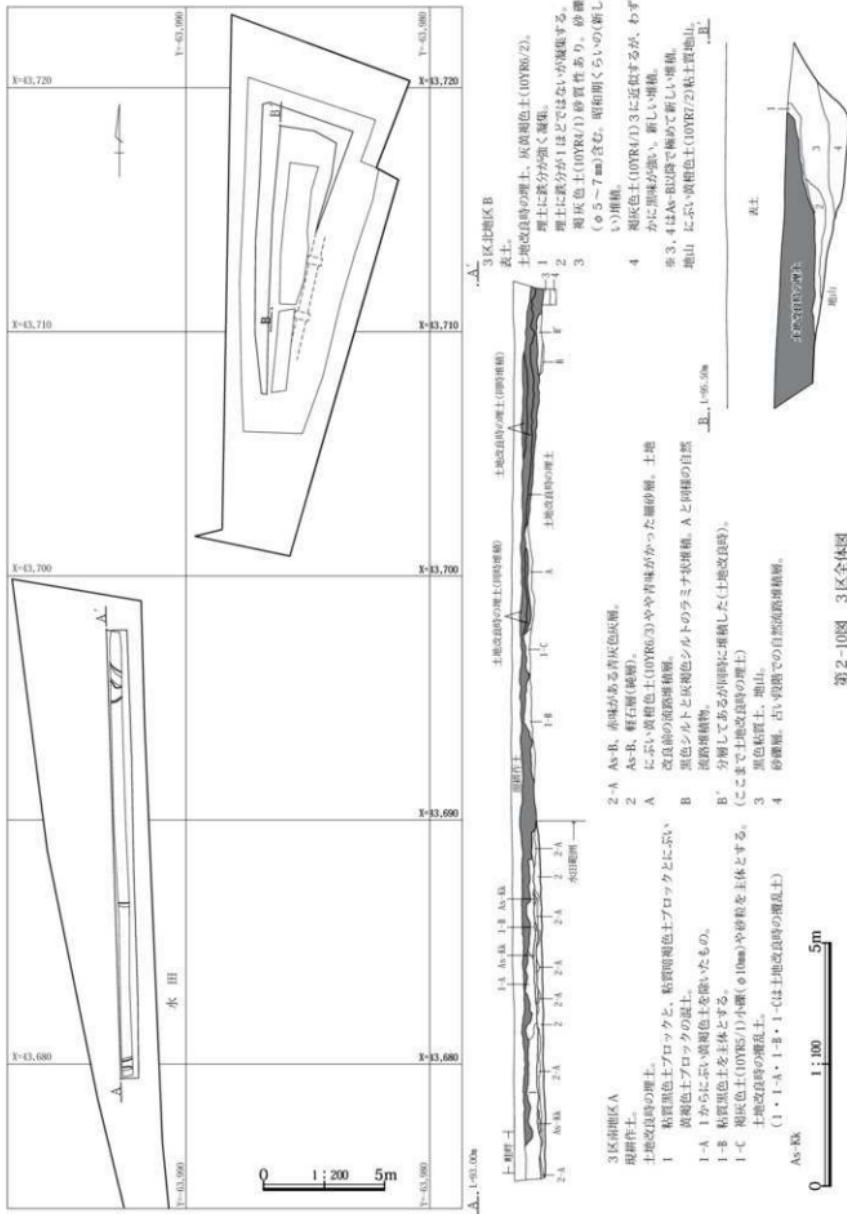
第2-7図 1区全体図(南半)



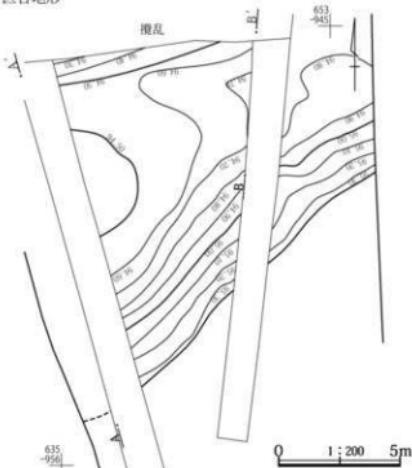
第2-8図 1区全体図(北半)



第2-9図 2区全体図

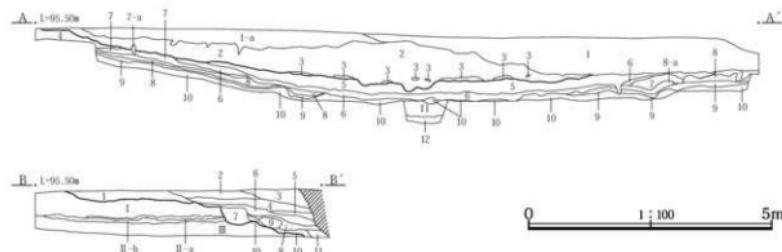


1区谷地形



1区谷地形A

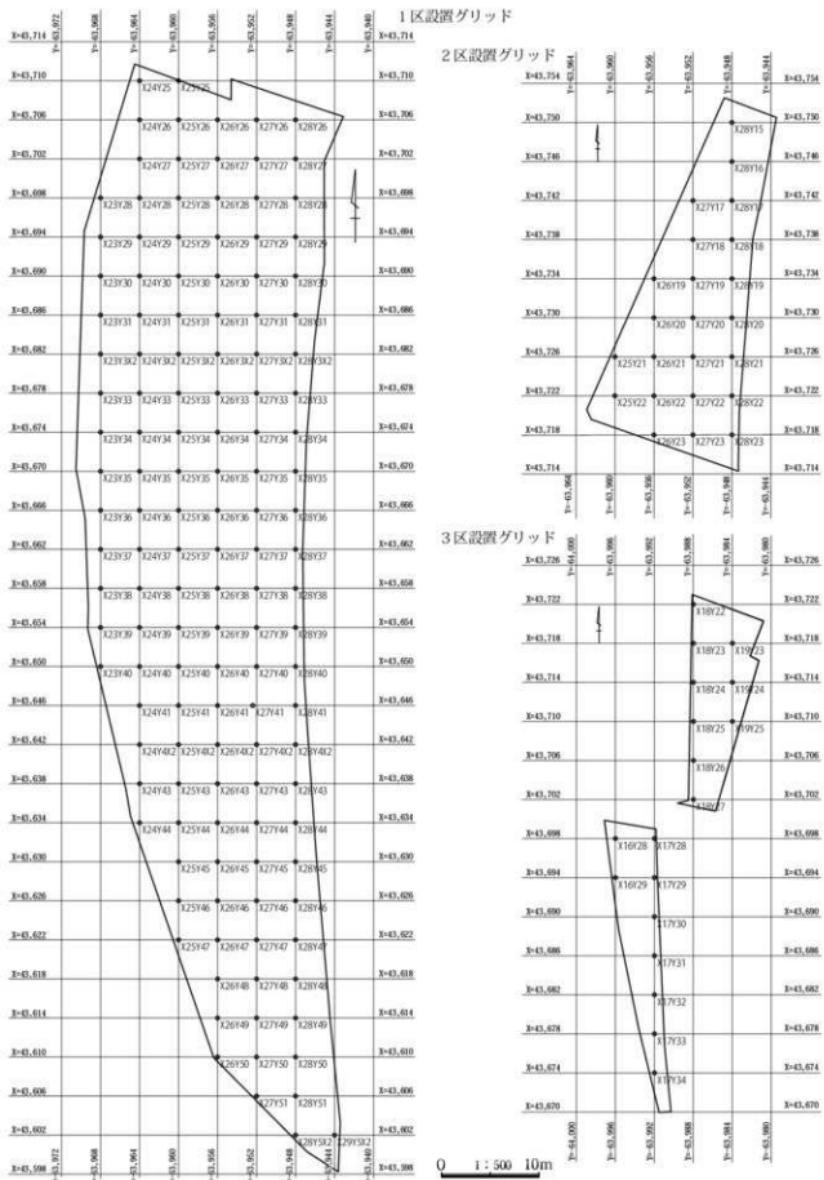
- 1 表土。現代ごみ含む。
- 1-a 暗褐色土(10YR3/4)黄白色ロームを多量に含む。ゴミ等は入っておらず、女唄の盛土として生きている可能性がある。(部分的にしか残っておらず、平面的な広がりは確認できず。)
- 2 As-B混土の黒色土層。
- 3 As-Bブロック(軽石質が強いブロックとわずかにぶい赤褐色気味の灰のブロック)。
- 4 暗褐色土(10YR3/4)しまりがよい。
- 5 黒色土(10YR 1.7/1)As-C混土層、白色のHr-FA (ϕ 3~10mm)をわずか(1%以下)に含む。
- 6 褐灰色土(10YR4/1)5層との混土。わずかに粘性である。
- 7 灰白色のローム土(10YR7/1)部分的に酸化鉄分の影響で明黄褐色の部分あり。
- 7-a 7に小礫の混入したもの。
- 8 灰黃褐色(10YR4/2)のシルト層。
- 8-a 8層と7層の混土。(8層の土が主体)
- 9 灰白色のローム土(10YR8/1)部分的に酸化鉄分の影響で明黄褐色の部分あり。
- 10 暗褐色の砂層(10YR3/3)斑状に黒色部分がある。
- 11 灰白色のローム土(10YR8/1)
- 12 灰黃褐色のローム土(10YR6/2)



1区谷地形B

- 1 黒褐色土(10YR3/1)にぶい黄褐色のロームブロック(ϕ 10~3mm)を10%斑状に含む。1層の土が主体であり、As-B混土である。
- 2 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒・ロームブロック(ϕ 3~20mm)を斑状に10%含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒、ロームブロック(ϕ 3~30mm)を20%含む。黒色土との混土である。2層に比べ、ロームの量が多く、黒色土を含むため分層。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)ローム粒、ロームブロック(ϕ 3~10mm)を10%、黒色土ブロックは、Ⅲ層の土である。3層に比べ暗く、ロームの量も少ないため分層。
- 5 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒、ロームブロック(ϕ 10~30mm)を20%、黒色土ブロック(Ⅲ層 ϕ 5~10mm)を1%斑状に含む。4層に比べロームの量が多く、明るいため分層。
- 6 暗褐色土(10YR3/4)ローム粒、ロームブロック(ϕ 5~30mm)を10%、黒色土ブロック(Ⅲ層 ϕ 5~10mm)を3%含む。5層に比べてロームの量が少なく、暗褐色土が主体のため分層。
- 7 黒褐色土(10YR2/2)黒色土ブロック(ϕ 3~10mm)を1%含み、ローム粒を少量(1%以下)含む。
- 8 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒、ロームブロック(ϕ 5~10mm)を15%含む。6層に比べ、わずかに明るくロームの量が多いため分層。
- 9 Ⅲ層の土がブロック状に入る。
- 10 暗褐色土(10YR3/3)黒色土を斑状に10%含み、ローム粒、ロームブロックを5%含む。11層に比べて暗い。
- 11 暗褐色土(10YR4/3)黒色土ブロック(ϕ 3mm)1%含み、ローム粒、ロームブロック(ϕ 3~5mm)を10%含む。8層に比べて褐色質が強く、暗褐色土が主体のため分層。
- I As-B混土の黒色土層、しまりが悪い(谷地形Aの2層)。
- II-a As-Bの灰層(谷地形Aの3層)。
- II-b As-Bの軽石層(谷地形Aの3層)。
- III 黒色土(10YR 1.7/1)As-C混土層、白色のHr-FA (ϕ 3~10mm)をわずか(1%以下)に含む(谷地形Aの5層)。

第2-11図 1区谷地形



第2-12図 グリッド設定

第3章 確認された遺構と遺物

第1節 前橋市0102遺跡

第1項 調査区の概要

本調査区からは、掘立柱建物2棟、溝1条、流路状遺構1条、水田1か所、土坑8基、ピット7基、盛土遺構2基が検出された。

各遺構は女堀(前橋市0093遺跡)を間に挟み、その南北と西の3地点から出土している。水田は、寺沢川右岸の低地部、旧河道域と思われる3区で確認されており、台地上となる他の区からは検出されていない。掘立柱建物と流路状遺構は寺沢川左岸の台地先端付近にある平坦な一画からの出土であり、台地斜面となる上流側の2区からは検出されなかった。盛土遺構と溝は上流側の2区から検出されており、他の区からは検出されていない。溝は断面逆台形状の薬研堀であり、寺沢川の河岸段丘から生じた台地斜面を横切り、斜面を上下に区分するように位置している。なお土坑は寺沢川左岸台地の南北から検出されているが、ピットは南側の台地先端部からの検出のみである。

第2項 遺構と遺物

1 挖立柱建物

寺沢川左岸の1区南端から、2棟の掘立柱建物が検出されている。このうち1棟は1辺のみの検出である。棟

方向が相違するとと思われる2棟ではあるが、建物の柱穴を覆う埋没土はいずれも同質の土であり、それぞれの埋没時期に大差ないと推測される。

(1) 1号掘立柱建物(第3-1-1図、PL. 3)

位置 X=43,608~43,614、Y=-63,945~ -63,951、寺沢川左岸台地上の1区南端に位置する。

形状等 平面形が長円形ないし割丸方形を呈するピット6基が検出されている。なお、ピットを覆う埋没土の状況から、柱穴の残存状態は至って良好なものと推察される。

規模 桁行4.52m、梁行3.36m、15.2m²

桁行方位(度) N-69-W

本体構造 1間×2間の東西棟、桁行柱間平均2.13m、梁行柱間平均3.44mの掘立柱建物が確認された。

埋没土 柱穴からは、掘り方と思われる埋土が確認され、柱穴6基中の5基が As-C混土に覆われている。

重複 建物南辺の位置に1号土坑が存在する。

遺物 図化には至らなかったが、P 1埋没土から繩文土器片と内黒土器片、P 2、P 3、P 5埋没土から土師器片が検出されている。P 3、P 5は古墳時代前期の甕が含まれる。

第3-1-1表 1号掘立柱建物柱間

| | 桁行柱間 | | | 梁行柱間 | | | 桁行 | | | | |
|------|------|---|------|------|----|---|------|---|----|---|------|
| | P4 | — | 2.01 | — | P5 | — | 2.08 | — | P6 | — | 4.08 |
| 梁行柱間 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| | 3.37 | — | — | — | — | — | 3.51 | — | — | — | 3.45 |
| | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| P1 | — | — | 2.15 | — | P2 | — | 2.28 | — | P3 | — | 4.43 |
| 梁間 | 3.37 | — | — | — | — | — | 3.51 | — | — | — | 3.45 |

第3-1-2表 1号掘立柱建物ピット

| | ピット1 | ピット2 | ピット3 | ピット4 | ピット5 | ピット6 |
|---------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|
| 位置 | X=43610~43611 Y=-63,950~-63,951 | X=43609~43611 Y=-63,948~-63,949 | X=43608~43610 Y=-63,946~-63,947 | X=43613~43614 Y=-63,949~-63,949 | X=43612~43614 Y=-63,947~-63,948 | X=43612~43613 Y=-63,945~-63,946 |
| 規模(m) | 長 0.43 短 0.40 深 0.45 | 長 0.36 短 0.35 深 0.44 | 長 0.37 短 0.32 深 0.53 | (0.37) 長 0.28 短 0.46 | (0.38) 長 0.36 短 0.60 | 0.33 0.32 0.45 |
| 平面形 | 長円形 | 圓丸方形 | 長円形 | 長円形か | 長円形か | 圓丸方形 |
| 主軸方位(度) | N-11-W | N-5-W | N-16-E | N-29-E | N-25-E | N-5-W |
| 遺物 | 土師器、繩文土器 | 土師器 | 土師器 | 土師器 | 土師器 | |
| 旧名称 | | | | | | |

第3章 確認された遺構と遺物

所見 本遺構の年代は、調査所見によれば埋没土から古墳時代に比定されている。最終的に埋没した時期は1号土坑と大差はないが、その新旧は判然としない。

備考 本遺構は調査区境界に隣接するため、1間×3間以上の間取りの可能性も否定しえない。

(2) 2号掘立柱建物(第3-1-2図、PL. 4)

位置 X=43.616～43.621、Y=63.954～63.956、寺沢川左岸台地上の1区南端の西辺沿いに位置する。

形状等 一列に並んだ浅いピット3基が検出されている。

規模 ピット間隔は1.93mと2.01m、平均1.97mを測る。

桁行方位(度) ピット列の軸線はN-10-W。

本体構造 後述する。

埋没土 柱穴はAs-C混土により埋没している。

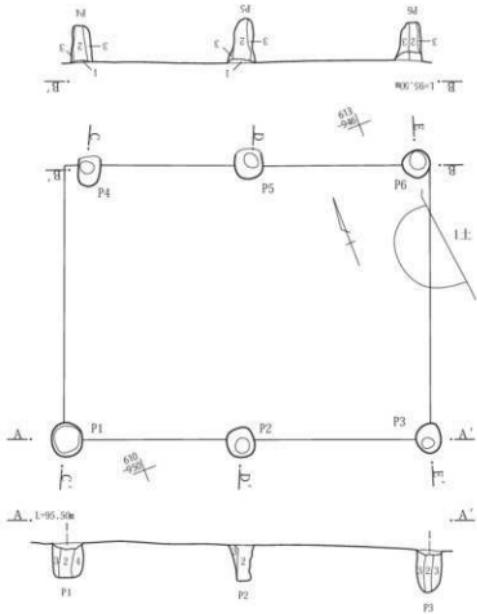
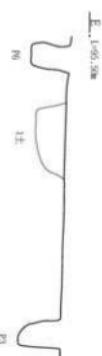
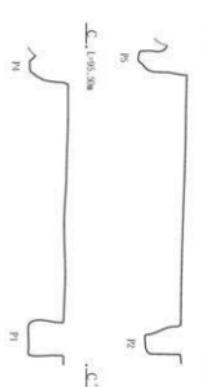
重複 P3は流路状遺構の領域に位置するが、その上位に位置しており、切りあい関係はない。

遺物 資料化には至らなかったが、P1から土師器片が検出されている。

所見 本遺構の年代は、調査所見によれば埋没土から古墳時代に比定されている。本遺構は一列に並ぶピット3基が確認されたのみであり、建物のいずれの辺を構成するかは判然としがたいが、調査区境界に隣接する柱列の位置関係も含め、南北棟掘立柱建物の東辺が検出されたと推測される。桁行方位(度) N-4-W、南北棟1間×2間以上の建物が予想される。

備考 P3の調査時点での名称は10号ピット。

1号掘立柱建物



- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(ϕ 1～2 mm)、ローム粒をそれぞれ少量(1%)含む。
- 2 黒色土(10YR1.7/1)1層とはほぼ同質であるが、1層よりもしまりが悪い。また、黒色味が強い。(柱底)
- 3 黑褐色土(10YR3/1)ローム粒、ロームブロック(ϕ 3～10mm)を10%含む。(埋土)
- 4 黑褐色土(10YR3/1)3と同じであるが、ロームの量が少ない。(埋土)

第3-1-1図 1号掘立柱建物

第3-1-3表 2号掘立柱建物柱間

| | 柱間相間 | | | 柱間相間 | | 柱間 |
|------|------|----------|----|----------|----|--------|
| 柱間柱間 | P3 | - 1.93 - | P2 | - 2.01 - | P1 | - 3.89 |
| 裏側 | | | | | | |

第3-1-4表 2号掘立柱建物ピット

| | ピット1 | ピット2 | ピット3 | |
|---------|------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 位置 | X=43616～43617 Y= -63954～ -63955 | X=43618～43619 Y= -63954～ -63955 | X=43620～43621 Y= -63955～ -63956 | |
| 規模(m) | 長 短 深 | 0.30 0.27 0.22 | 0.29 0.26 0.13 | 0.25 0.23 0.18 |
| 平面形 | 円形 | 偏円形 | 偏円形 | |
| 主軸方位(度) | N-41-E | N-63-W | N-25-W | |
| 遺物 | 土器 | | | |
| 目名 | | | P10 | |

2 溝

本調査区からは調査区の南端と北端から、それぞれ1条の溝が検出されている。北端から検出された溝は断面薬研状の人工の溝であり、南端から検出された溝は自然流路と推測される溝である。

(1) 1号溝(第3-1-3図、PL. 4～6)

位置 X=43,734～43,749、Y= -63,944～ -63,949、2区北端に位置する。寺沢川左岸の台地の際、寺沢川に西面する斜面の中程に位置する。

形状等 北微西から南微東に調査区を一直線に横切る、断面逆台形の薬研堀が確認された。台地際の斜面に位置する地形なりに、川寄りの西辺よりも東辺側が一段高くなっている。また溝の法面には、その深さの半ばより上の位置に犬走り状の段が存在する。この段は溝の南側で著しく、北に向かうほどあいまいとなる。

規模 (14.41) × 1.33～1.81 × 0.41～0.82m。底面平坦部の幅0.32～0.39m、溝北端の底面標高94.50m、溝南端の底面標高94.46m、標高差0.04mを測る。

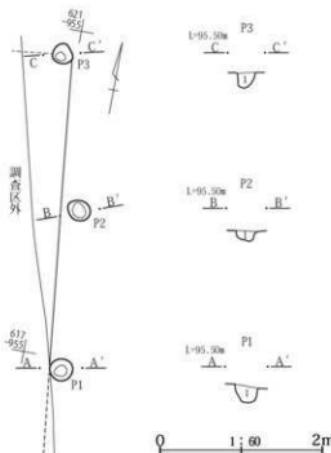
走行方位(度) N-14-W

埋没土 にぶい黄褐色のローム粒子を主体とする、にぶい黄褐色土に覆われる。

重複 なし。ただし、東辺中央付近に埋め戻し跡と思われる関連遺構を伴う(後述)。

遺物 資料化には至らなかったが、底面から凹み石、埋没土からは繩文土器片、土器片、打製石斧などが出土

2号掘立柱建物



1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(φ 1～2mm, As-Cか)とローム粒をそれぞれ少量(1%以下)含む。

第3-1-2図 2号掘立柱建物

している。

所見 本遺構の年代は、調査所見に基づけば中世に比定される。溝の北側は、調査時点では幅3m程の道1本隔てて川岸にいたっている。当時の崖線は現在よりも西に位置していたと推測されるのであるが、今回確認された北端からさほど遠くない地点に溝の終端あるいは屈曲点が存在したと推察される。

a 1号溝関連遺構(第3-1-3図、PL. 5, 6)

位置 X=43,741～43,744、Y= -63,944～ -63,946、1号溝東辺中央付近に位置する。

形状等 平面形は不整形であるが、断面からは東西二段の平坦面が確認される。

規模 1.91 × 1.74m

主軸方位(度) N-61-E

埋没土 西寄りの下段はローム粒とロームブロックの混土からなる黒褐色土で覆われ、東寄りの上段はローム粒とロームブロックを多く含む、にぶい黄褐色土に覆われる。

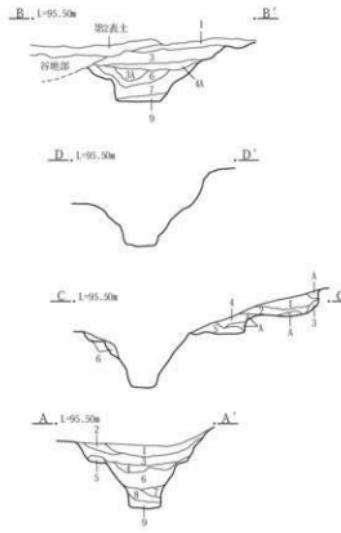
重複 なし。1号溝と接する。

1号溝



1号溝A・B

- 1 明黄褐色土(10YR6/6)しまりなし。ローム粒を主体とする。少量のロームブロック(ϕ 3~10mm)を含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4)しまりなし。1に近似するが黒味が強い。
- 3 褐灰色土(10VR5/1)しまりあり。シルト質で一部ロームブロック(ϕ 20mm)を含む。
- 3A 3に近似する。鉄分の凝集塊が認められる。(シルト質上でブロック状に堆積)
- 4 にぶい黄褐色土(10YR5/3)灰黄褐色ロームブロック(ϕ 5~30mm)を多く含む。人為的に埋め戻されたか?
- 4A 4に近似するが灰黄褐色ロームブロックの混入少ない。
- 5 3と灰黄褐色ロームブロック(ϕ 30~60mm)の混上。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR6/4)しまりなし。ロームを主体とする。ロームブロック(ϕ 5~10mm)が少量混入する。
- 7 灰黄褐色土(10YR6/2)しまりなし。地山の灰黄褐色ロームの二次堆積土を主体とする。
- 8 褐灰色土(10YR4/1)ローム粒(ϕ 1~2mm)の混入あり。
- 9 にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまりなし。にぶい黄褐色のローム粒子を主体とする。



1号溝連遺構C

- A にぶい黄褐色土(10YR7/4)ロームブロック。
- 1 黒褐色土(10YR3/1)を主体とするが焼土ブロック(ϕ 10~30mm)を多く含む。暗褐色粒(ϕ 10mm前後)の混入あり。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR5/4)ローム粒(ϕ 1~1mm)、ロームブロック(ϕ 20mm)を多く含む。焼土粒の混入あり。
- 3 2にぶい黄褐色ロームブロックが混入。
- 4 2に近似する。燒土粒、ブロックの混入多い。
- 5 黑褐色土(10YR3/1)とローム粒(微細)、ロームブロック(ϕ 10~20mm)の混上。
- 6 にぶい黄褐色土(10YR6/4)1号溝の6に対応。ローム粒(ϕ 2~5mm)の混入多い。

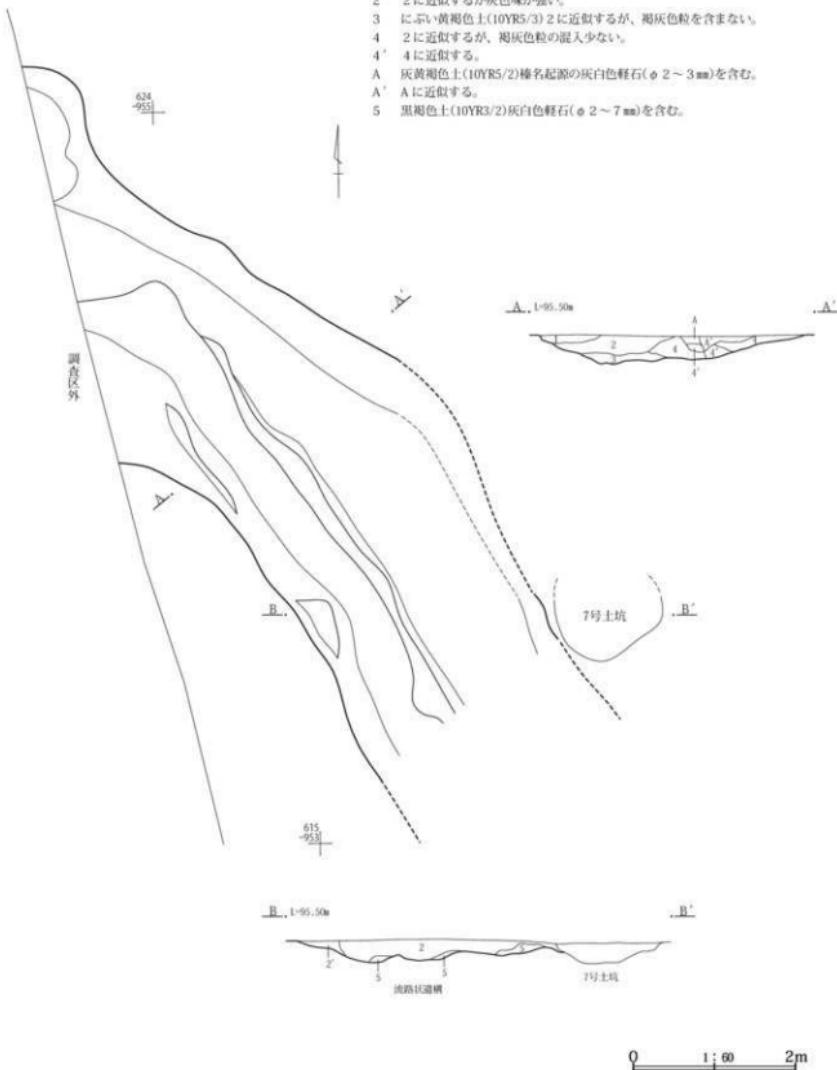
0 1:60 2m

第3-1-3図 1号溝

流路状遺構

流路状遺構 A・B

- 1 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ϕ 2～7 mmの榛名起源の灰白色軽石を多く含む。砂質性に富む。 ϕ 10～20mmの褐色色の軽石を少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土(10YR5/3)かたくしまる砂質上で褐灰色粒(ϕ 2～3 mm)を含む。
 - 2' 2に近似するが、灰色味が強い。
 - 3 にぶい黄褐色土(10YR5/2)に近似するが、褐灰色粒を含まない。
 - 4 2に近似するが、褐灰色粒の混入少ない。
 - 4' 4に近似する。
- A 灰黃褐色土(10YR5/2)榛名起源の灰白色軽石(ϕ 2～3 mm)を含む。
- A' Aに近似する。
- 5 黒褐色土(10YR3/2)灰白色軽石(ϕ 2～7 mm)を含む。



第3-1-4図 流路状遺構

第3章 確認された遺構と遺物

遺物 資料化には至らなかったが、埋没土から縄文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明である。調査所見によれば、整地した痕跡あるいは倒木痕とされる。

(2) 流路状遺構(第3-1-4図、PL. 6)

位置 X=43,615～43,625、Y=-63,949～-63,957、寺沢川左岸台地上の1区南端西辺沿いに位置する。

形状等 南東から北西に、やや弧を描きながら北流する。

規模 (10.89)×2.88×0.20～0.43m、遺構南端での底面標高95.02m、遺構北端での底面標高94.77m、標高差0.25mを測る。

走行方位(度) N-47-W

埋没土 固く綿まる砂質の、ぶい黄褐色土に覆われる。

重複 7号土坑、2号掘立柱建物に隣接するが、そのいずれとも切りあいはない。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は不明であるが、7号土坑、2号掘立柱建物に先行する。本遺構埋没後に7号土坑と2号掘立柱建物が設けられたと推測される。

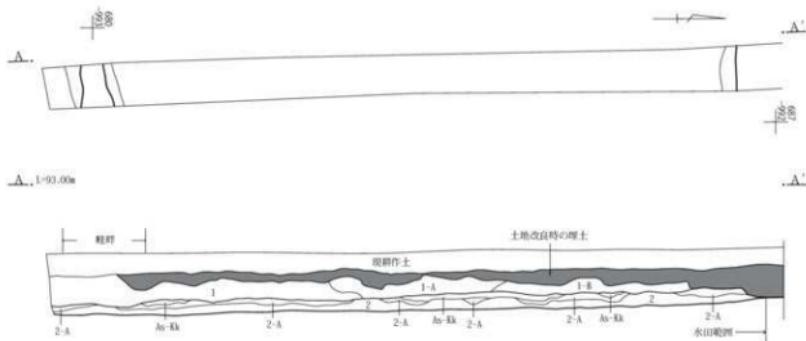
3 水田

寺沢川右岸の3区南地区から水田が検出されている。3区南地区は狭小な範囲を調査対象とするため、トレンド調査を行うにとどまり、水田区画の地割や畦畔の走行方向など、遺構の詳細は得られていない。平成18年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと実施された発掘調査によって、本調査地点の西に50m程離れた場所(石関西田遺跡)からAs-B下の水田35区画が検出されており、本遺構もこれらに連なるものと推測される。

(1) 3区水田(第3-1-5図、PL. 7, 8)

位置 X=43,679～43,687、Y=-63,992～-63,993、寺沢川右岸の3区南地区南半に位置する。

水田



現耕作土。

土地改良時の埋土。

1 粘質黒色土ブロックと、粘質暗褐色土ブロックとに
ぶい黄褐色土ブロックの混上。

1-A 1からぶい黄褐色土を除いたもの。

1-B 粘質黒色土を主体とする。
(1・1-A・1-Bは土地改良時の埋土)

As-Kk

2-A As-B、赤味がある青灰色灰層。

2 As-B、軽石層(純層)。

0 1:50 1m

第3-1-5図 水田

形状等 As-B堆積の下から、小畔と考えられる2cm程度の高まり1条が検出されている。

規模 小畔(0.44)×0.50×0.02m、水田域の確認長7.25mを測る。

主軸方位(度) 確認長を得た軸線はN-75-E。

埋没土 As-B

重複 なし。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は、遺構面の上にAs-Bが一面に堆積していることから、平安時代(12世紀初頭)に比定される。またAs-B層の直上からAs-Kkが検出される地点も多く、噴火被害に伴い耕作放棄されたものと推測される。なお、国土地理院所蔵の1947年に撮影された空中写真に調査区の位置を当ててみると、3区は河川改修前の寺沢川左岸に位置しており、上述した水田群の中でも、前橋市埋蔵文化財発掘調査団2007「石関西田遺跡Ⅲ」で報告されている、寺沢川旧河道左岸に位置するB2区やA6区から検出された水田に連なるものと推測される。

4 土坑

寺沢川左岸台地上の1区から3基、その北に位置する2区から5基が検出されており、低地部の3区からは検出されていない。なお1区の土坑はいずれも1区南半からの出土である。

(1) 1号土坑(第3-1-6図、PL. 8)

位置 X=43,610～43,612、Y=-63,945～-63,947、寺沢川左岸台地上の1区南端に位置する。

形状等 遺構東半が調査範囲外に及び平面形は不明である。底面は凸曲する。

規模 1.07×(0.65)×0.42m

主軸方位(度) N-8-W

埋没土 底部は黄白色ロームブロック、白色軽石を含む黒褐色土に覆われる。なお最上位の埋没土は、白色軽石とローム粒を含む黒色土である。

重複 1号掘立柱建物の南辺と位置を同じくする。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は、調査所見によれば埋没土から古墳時代に比定されている。最上位の埋没土が同質な土質のため、最終的に埋没した時期は1号掘立柱建物と同時

期と推測されるが、1号掘立柱建物との新旧や從属関係などは不明である。

(2) 2号土坑(第3-1-7図、PL. 8)

位置 X=43,746～43,749、Y=-63,942～-63,944、寺沢川左岸台地斜面の2区北端の東辺に位置する。

形状等 遺構東半が調査範囲外に及び平面形は不明である。底面は平坦である。

規模 2.22×(0.65)×0.31m

主軸方位(度) N-3-E

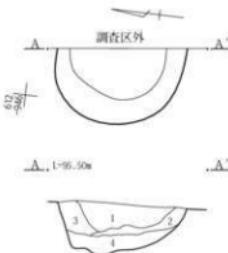
埋没土 底部は明黄褐色と褐灰色のロームブロックを含む黒褐色土に覆われる。

重複 1号盛土遺構に覆われる。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から縄文土器片と土師器片が出土している。

所見 ロームの二次堆積とされる灰黄褐色土を地山とする本遺構の年代は、調査所見によると縄文時代に比定される。

1号土坑



- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(As-Cか)、ローム粒を少量含む(1%以下)。しまりはよい。
- 2 黒褐色土(10YR3/2)1層の上をブロック状に3%含む。白色軽石(As-Cか)、ローム粒を少量含む(1%以下)。
- 3 明黄褐色土(10YR3/3)ローム粒、ロームブロック(ø 1～3mm)を1%含む。
- 4 黑褐色土(10YR3/2)黄白色ロームブロック(ø 2～10mm)を10%含み、白色軽石(ø 1～3mm)を2%含む。しまりが悪くくずれやすい。

0 1:40 1m

第3-1-6図 1号土坑

第3章 確認された遺構と遺物

(3) 3号土坑(第3-1-7, 16図, PL. 8, 9, 22)

位置 X=43,741～43,742, Y=−63,949～−63,951、寺沢川左岸台地斜面の2区北半の西辺寄りに位置する。

形状等 平面形は長円形を呈する。底面は平坦である。

規模 1.01×0.59×0.20m

主軸方位(度) N-49-E

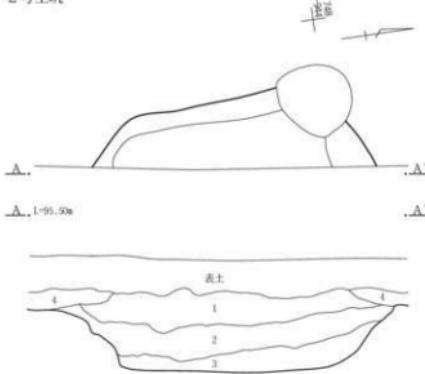
埋没土 微細なローム粒を含む黒褐色土に覆われる。

重複 なし。

遺物 須恵器甕(1)が横倒しになり、押しつぶされ割砕けた状態で出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物から平安時代に比定される。検出された場所は女堀盛土範囲の北に位置する谷地形の北半である。本遺構はこの谷地形を覆うD層(第3-1-13図)を掘りこんでおり、また検出された土坑の深さと出土した遺物の大きさを勘案すれば、遺構本来の開口面は遺構検出面よりもさらに上位に及ぶ可能性も否定しえない。

2号土坑



2号土坑

表土

- 1 黒褐色土(10YR3/1)白色軽石(φ 1～2mm)、ローム粒(φ 2～3mm)を少量含み、暗褐色土ブロック(φ 30～50mm)を下位に多く含む。灰白色粒(φ 2～3mm)を少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ローム粒(微細)を多く含む。灰白色粒を少量(φ 1～2mm)含む。
- 3 黒褐色土(10YR3/1)に明黄褐、褐灰色ロームブロック(φ 10～40mm)を多く含む。しまりあり。縄文土坑か?
- 4 黒褐色土(10YR3/2)ローム粒(微細)、ロームブロック(φ 2～30mm)、黒色土ブロックが混在する。盛土と考えられる。

(4) 4号土坑(第3-1-8, 16図, PL. 9, 22)

位置 X=43,726～43,728, Y=−63,948～−63,950、寺沢川左岸台地斜面の2区中央付近に位置する。

形状等 平面形は橢円形を呈し、断面は袋状を呈する。

規模 1.01×0.87×0.31m

主軸方位(度) N-10-E

埋没土 ローム粒を含む暗褐色土に覆われる。

重複 遺構西半が前橋市0093遺跡盛土範囲(本章2節2項)と重なる。

遺物 底面近くから縄文時代前期諸磯b式の土器片(2)が出土しているほか、図化には至らなかったが底面からは複数の磨り跡が認められる石、また埋没土からは縄文土器片のほか黒曜石の破片も出土している。

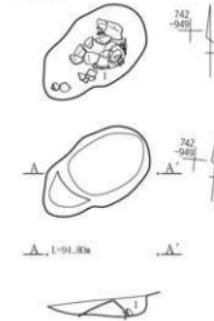
所見 本遺構の年代は、出土遺物から縄文時代に比定される。前橋市0093遺跡盛土範囲に先行する。

(5) 5号土坑(第3-1-8図, PL. 9)

位置 X=43,731～43,733, Y=−63,951～−63,953、寺沢川左岸台地斜面の2区中央西辺寄りに位置する。

形状等 平面形は偏円形を呈する。底面には傾きが存在し、西側が低くなっている。

3号土坑



3号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/2)しまりあり。微細のローム粒を少量含む。

0 1:40 1m

第3-1-7図 2号土坑、3号土坑

規模 $1.16 \times 1.07 \times 0.28m$

主軸方位(度) N-25-E

埋没土 微細な灰白色粒を含む、にぶい黄褐色土に覆われる。

重複 前橋市0093遺跡盛土範囲(本章2節2項)の上位に位置する。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から繩文土器片や打製石斧などが出土している。

所見 本遺構の年代は、調査所見によれば現代の遺構である可能性が指摘されている。前橋市0093遺跡盛土範囲より新しい。

(6) 6号土坑(第3-1-8図、PL.9)

位置 X=43,727~43,729、Y=63,950~63,953、寺沢川左岸台地斜面の2区中央付近に位置する。

形状等 平面形は長円形を呈する。断面は逆凸字状を呈

する。

規模 $1.90 \times 1.24 \times 0.41m$

主軸方位(度) N-27-E

埋没土 底部に灰白色粘土粒子と灰白色粒を含む、にぶい黄褐色土が存在する。

重複 前橋市0093遺跡盛土範囲(本章2節2項)の下位に位置する。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から繩文土器片と弥生時代後期樽式鉢と思われる破片が出土している。

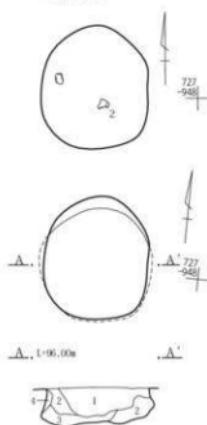
所見 本遺構の年代は、出土遺物から弥生時代後期以降に比定される。前橋市0093遺跡盛土範囲に先行する。

(7) 7号土坑(第3-1-9図、PL.10)

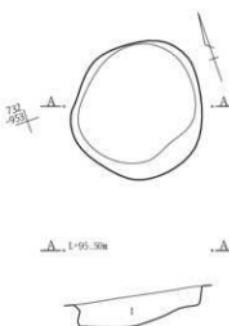
位置 X=43,617~43,619、Y=63,948~63,951、寺沢川左岸台地上の1区南端付近に位置する。

形状等 平面形は不明である。底面は湾曲する。

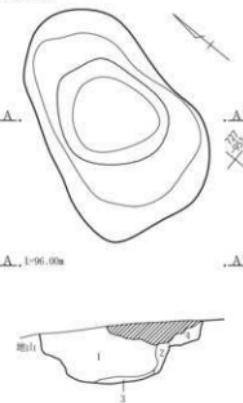
4号土坑



5号土坑



6号土坑



5号土坑

- 1 にぶい黄褐色土(10YR5/3)微細の灰白色粒を少量含む。φ 2mmのローム粒、炭化物を少量含む。
2 明褐色土(10YR3/3) 1にローム粒(φ 2~5mm)を多く加えたもの。崩落か
3 明褐色土(10YR3/3)ローム粒を含む。
4 2にロームブロック(φ 30mm)を加えたもの

6号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)しまりあり。φ 2~4mmの灰白色粒子を含む。
2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)灰白色粘土粒子を含み粘性あり。
3 黑褐色土(10YR3/2)灰白色粒(φ 2mm)を少量含む粘質土。
4 にぶい黄褐色土(10YR5/4)灰白色粘土粒子(微細)、灰白色粒(φ 1~2mm)を少量含む。粘性あり。

地山 灰灰色粘土

0 1:40 1m

第3-1-8図 4~6号土坑

第3章 確認された遺構と遺物

規模 $1.31 \times (1.11) \times 0.29m$

主軸方位(度) N-82-E

埋没土 灰黄褐色土に覆われる。

重複 流路状遺構に隣接するが切りあい関係はない。

遺物 検出されていない。

所見 固く締まる砂質の、にぶい黄褐色土を地山とする。本遺構の年代は不明であるが、地山と埋没土から古代以前に帰属する可能性が認められる。

(8) 8号土坑(第3-1-9図、PL10)

位置 X=43.637～43.639、Y=-63.949～-63.951、寺沢川

左岸台地上の1区南半東辺寄りに位置する。

形状等 平面形は不明である。底面は平坦である。

規模 $(1.36) \times 1.26 \times 0.28m$

主軸方位(度) N-21-E

埋没土 灰白色粒を含む黒褐色土に覆われる。

重複 なし。

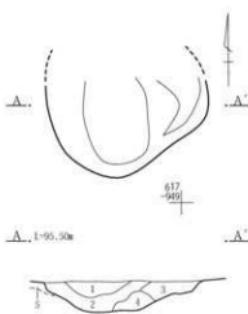
遺物 圓化には至らなかったが、埋没土から縄文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は不明であるが、埋没土と出土遺物から縄文時代に帰属する可能性が認められる。

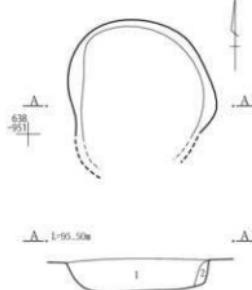
第3-1-5表 土坑一覧

| | 1号土坑 | 2号土坑 | 3号土坑 | 4号土坑 | 5号土坑 | 6号土坑 | 7号土坑 | 8号土坑 |
|---------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 位置 | X=43610～43612 Y=-63945～-63947 | X=43746～43749 Y=-63942～-63944 | X=43741～43742 Y=-63949～-63944 | X=43726～43728 Y=-63948～-63951 | X=43731～43733 Y=-63951～-63950 | X=43727～43729 Y=-63950～-63953 | X=43617～43619 Y=-63948～-63951 | X=43637～43639 Y=-63949～-63951 |
| 規模(m) | 長 1.07 短 (0.65) 深 0.42 | 2.22 (0.65) 0.31 | 1.01 0.59 0.20 | 1.01 0.87 0.31 | 1.16 1.07 0.28 | 1.90 1.24 0.41 | 1.31 (1.11) 0.29 | (1.36) 1.26 0.28 |
| 平面形 | 不明 | 不明 | 長円形 | 圓丸形 | 偏円形 | 長円形 | 不明 | 不明 |
| 断面形 | 底部凸曲 | 底部平坦 | 底部平坦 | 袋状 | 底部傾斜 | 逆凸字状 | 底部凸曲 | 底部平坦 |
| 主軸方位(度) | N-8-W | N-3-E | N-49-E | N-10-E | N-25-E | N-27-E | N-82-E | N-21-E |
| 出土遺物 | 縄文土器、土師器 | 須恵器 | 縄文土器 | 縄文土器 | 縄文土器、土師器 | 縄文土器 | 縄文土器 | 縄文土器 |

7号土坑



8号土坑



7号土坑

- 灰黄褐色土(10YR4/2)少量の褐灰色軽石($\phi 2 \sim 5mm$)を含む。
- 灰黄褐色土(10YR4/2)軽石の混入少ない。
- 1に近似する。軽石の混入多い。
- 暗褐色土(10YR3/3) $\phi 2 \sim 7mm$ の褐灰色軽石の混入多い。
- にぶい灰褐色土(10YR5/3)かたくしまる砂質土で褐灰色粒($\phi 2 \sim 3mm$)を含む。

8号土坑

- 黒褐色土(10YR3/2) $\phi 1 \sim 2mm$ の灰白色粒を含む。やや粘質でしまりあり。壁際はローム粒、ロームブロックの混入あり。褐色味ある。
- 1に近似する。ローム粒、ロームブロック(微細 $\phi 10mm$)の混入多い。



第3-1-9図 7号土坑、8号土坑

5 ピット

7基のピットが確認されているが、いずれも1区南半から検出されており、他の区からは検出されていない。なお調査所見によれば、5号ピット・6号ピット・9号ピットの3基がピット列を構成する可能性が指摘されているが、6号ピットの埋没土が他と相違し、やや古い様相を示すと思われるため、それぞれ個別に単体としてここに提示した。

(1) 3号・4号ピット(第3-1-10図、PL.10)

a 3号ピット

位置 X=43,612～43,613、Y=-63,948～-63,949、寺沢川左岸台地上の1区南端に位置する。4号ピットと重複する。

形状等 平面形は略円形を呈する。底部のみの検出である。

規模 0.32×0.31×0.09m

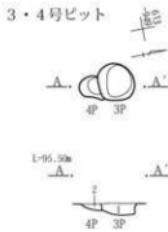
主軸方位(度) N-37-E

埋没土 白色軽石とローム粒を含む黒色土に覆われる。

重複 4号ピット北半を掘りこむ。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は不明であるが、埋没土から古墳時代に帰属する可能性が認められる。4号ピットより新しい。



3号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(φ 1～2mm, As-Cか)とローム粒をそれぞれ少量(1%以下)含む。4Pを切る。

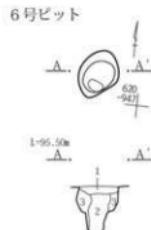
4号ピット

- 2 噴褐色土(10YR3/3)ローム粒を少量含む(1%以下)。3Pに切られる。



5号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(φ 1～2mm, As-Cか)とローム粒をそれぞれ少量(1%以下)含む。



6号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(φ 1～2mm, ローム粒をそれぞれ少量(1%以下)含む)。
- 2 黒色土(10YR1.7/1)1層とほぼ同質であるが、1層と比較しまりが悪い。また、黒色味が強い。(柱庭)
- 3 黑褐色土(10YR3/1)ローム粒、ロームブロック(φ 3～10mm)を10%含む。

第3-1-10図 3～6号ピット

第3章 確認された遺構と遺物

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は不明であるが、埋没土から古墳時代に帰属する可能性が認められる。

(3) 6号ピット(第3-1-10図、PL.11)

位置 X=43,620～43,621、Y=-63,947～-63,948、寺沢川左岸台地上の1区南端東辺寄りに位置する。

形状等 平面形は長円形を呈する。逆凸字状の断面を有する。

規模 0.43×0.32×0.83m

主軸方位(度) N-23-E

埋没土 白色軽石とローム粒を含む黒色土に覆われる。

重複 なし。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は不明であるが、1号掘立柱建物のピットと同様の埋没状態であり、古墳時代に帰属する可能性が認められる。

(4) 7号ピット(第3-1-11、16図、PL.11,22)

位置 X=43,625～43,627、Y=-63,956～-63,957、寺沢川左岸台地上の1区南端寄りの西辺沿いに位置する。

形状等 平面形は長円形を呈する。底部のみの検出である。

規模 0.47×0.40×0.19m

主軸方位(度) N-26-W

埋没土 白色軽石とローム粒を含む黒色土に覆われる。

重複 なし。

遺物 埋没土から土師器壺形土器(3)が出土したほか、図化には至らなかったが土師器高杯脚部、S字状口縁甕が出土している。

所見 本遺構の年代は、出土遺物と埋没土から古墳時代に帰属する可能性が認められる。

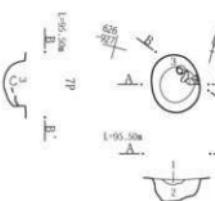
(5) 8号ピット(第3-1-11図、PL.11)

位置 X=43,627～43,628、Y=-63,956～-63,957、寺沢川

第3-1-6表 ピット一覧

| | 3号ピット | 4号ピット | 5号ピット | 6号ピット | 7号ピット | 8号ピット | 9号ピット |
|---------|--|--|--|--|--|--|--|
| 位置 | X=43612～ 43613 Y=-63948～ -63949 | X=43612～ 43613 Y=-63948～ -63949 | X=43617～ 43618 Y=-63946～ -63949 | X=43620～ 43621 Y=-63947～ -63948 | X=43625～ 43627 Y=-63956～ -63957 | X=43627～ 43628 Y=-63956～ -63957 | X=43623～ 43624 Y=-63948～ -63949 |
| 規模(m) | 長 0.32 短 0.31 深 0.09 | (0.23) | 0.19 0.18 0.04 | 0.43 0.32 0.28 | 0.47 0.40 0.19 | 0.30 0.25 0.11 | 0.24 0.22 0.13 |
| 平面形 | 略円形 底部のみ | 不明 底部のみ | 偏円形 U字状 | 長円形 逆凸字状 | 長円形 底部のみ | 長円形 底部のみ | 略円形 底部のみ |
| 主軸方位(度) | N-38-E | N-37-E | N-43-E | N-23-E | N-26-W | N-32-E | N-64-E |
| 出土遺物 | | | | | 土師器壺形土器、 S字甕 | | 土師器 |

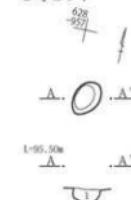
7号ピット



7号ピット

- 1 黒色土(10YR1.7/1)白色軽石(As-Cか)を少量含む(1%以下)。
- 2 黒褐色土(10YR2/1)白色軽石(As-Cか)、ローム粒をそれぞれ1%含む。

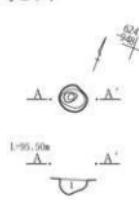
8号ピット



8号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(φ 1～2mm, As-Cか)とローム粒をそれぞれ少量(1%以下)含む。

9号ピット



9号ピット

- 1 黒色土(10YR2/1)白色軽石(φ 1～2mm, As-Cか)とローム粒をそれぞれ少量(1%以下)含む。



第3-1-11図 7～9号ピット

左岸台地上の1区南端寄りの東辺沿いに位置する。

形状等 平面形は長円形を呈する。底部のみの検出である。

規模 $0.30 \times 0.25 \times 0.11\text{m}$

主軸方位(度) N-32-E

埋没土 白色軽石とローム粒を含む黒色土に覆われる。

重複 なし。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は不明であるが、埋没土から古墳時代に帰属する可能性が認められる。

(6) 9号ビット(第3-1-11図、PL.11)

位置 X=43,623～43,624、Y=-63,948～-63,949、寺沢川左岸台地上の1区南端の東辺寄りに位置する。

形状等 平面形は略円形を呈する。底部のみの検出である。

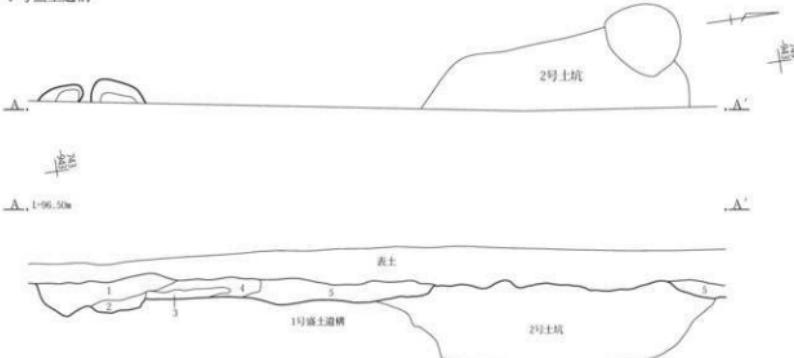
規模 $0.24 \times 0.22 \times 0.13\text{m}$

主軸方位(度) N-64-E

埋没土 白色軽石とローム粒を含む黒色土に覆われる。

重複 なし。

1号盛土遺構



表土

1 灰黄褐色土(10YR5/2)と黒褐色土、ロームブロック($\phi 2 \sim 30\text{mm}$)の混上。

2 5層に近似。明黄褐色ローム粒、ロームブロックが混入。

3 灰黄褐色土(10YR5/2)2号土坑埋没土と同質の土を主体とする黒色土まじりの混上。

4 灰黄褐色土(10YR6/2)ローム二次堆積土。

5 黑褐色土(10YR3/2)ローム粒(微細)、ロームブロック($\phi 2 \sim 30\text{mm}$)、黒色土ブロックが混在する盛土と考えられる。

0 1:40 1m

第3-1-12図 1号盛土遺構

第3章 確認された遺構と遺物

左岸台地斜面の2区北端の東辺沿いに位置する。

形状等 東西の広がりは確認されていない。

規模 南北の確認長5.61mを測る。

主軸方位(度) 計測された南北長の軸線はN-10-E。

埋没土 表土の直下に位置する。

重複 2号土坑を埋め立てる。

遺物 検出されていない。

所見 本遺構の年代は不明である。1号溝の位置する台地斜面の上位に位置しており、1号溝の北東に広がる斜面を保護・養生するために設けられたと推察される。2号土坑より新しい。

(2) 2号盛土遺構(第3-1-13図、PL12)

位置 X=43,733～43,739、Y=-63,949～-63,954、寺沢川

左岸台地斜面の2区西辺中央付近に位置する。

形状等 西半が調査範囲外に及ぶため不明である。

規模 $6.07 \times (3.02) \times 0.24 \sim 0.42\text{m}$

主軸方位(度) N-26-E

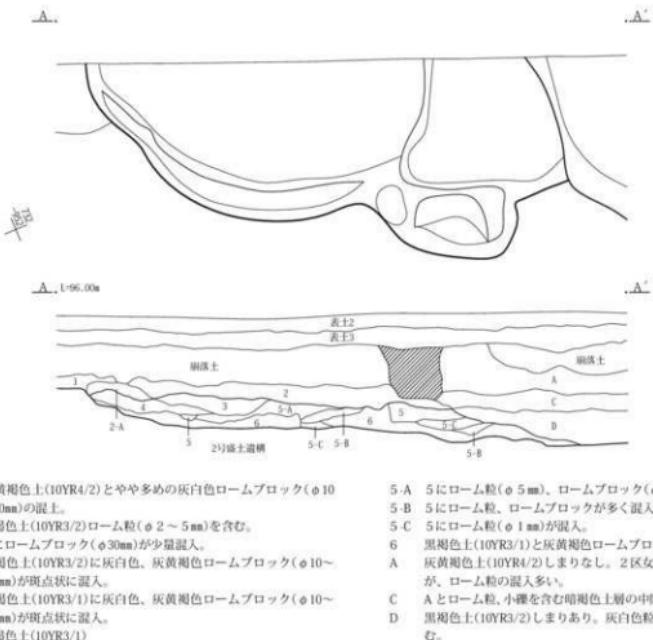
埋没土 3号土坑地山である灰白色粒を含む黒褐色土層の下位に位置し、ローム粒を含む黒褐色土に覆われる。

重複 女塚盛土範囲の下位に位置する。

遺物 資料化には至らなかったが、出土位置不明の縄文土器片が出土している。

所見 本遺構の年代は、3号土坑の地山の下位に位置することから、平安時代以前に比定される。女塚盛土範囲に先行する。川沿いの台地縁辺の、風水害などにより歴形状にえぐられた地点に対して補修・整地作業を施し、斜面を養生したものと推察される。

2号盛土遺構



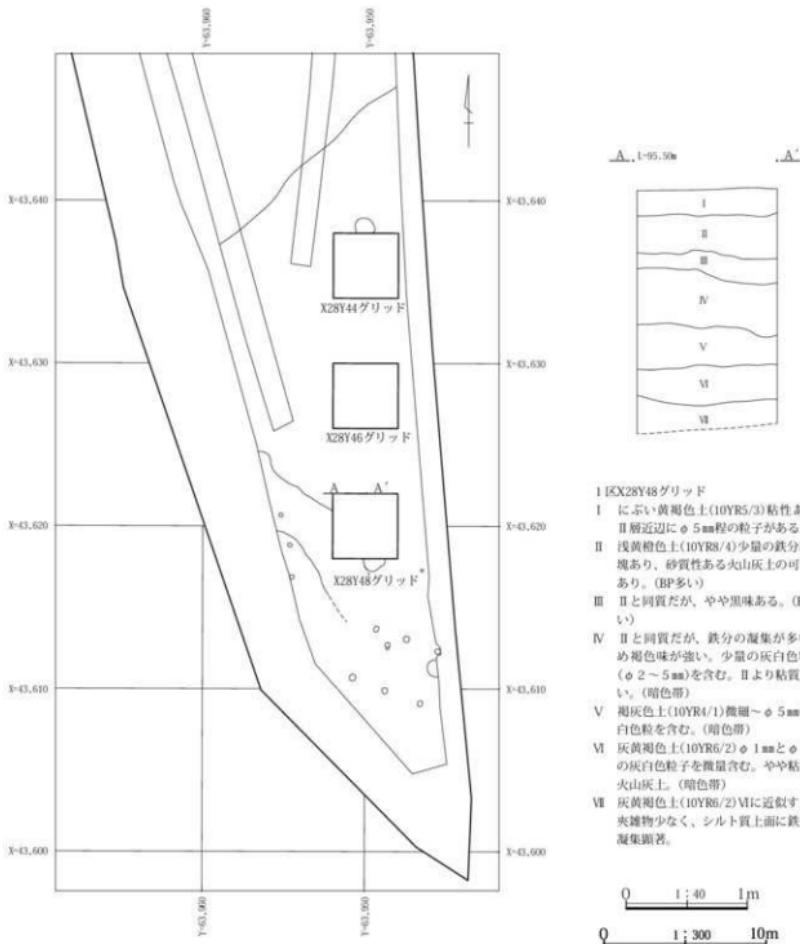
第3-1-13図 2号盛土遺構

(3) グリッド調査(第3-1-14,15図、PL.12)

遺構・遺物の検出された遺構検出面(1面)の下位の状況を確認するために、1区に3か所、2区に2か所、それぞれ4m四方のグリッドを設定し調査を進めた。なお、3区は調査範囲が狭小のため、1面下位の調査は見合わ

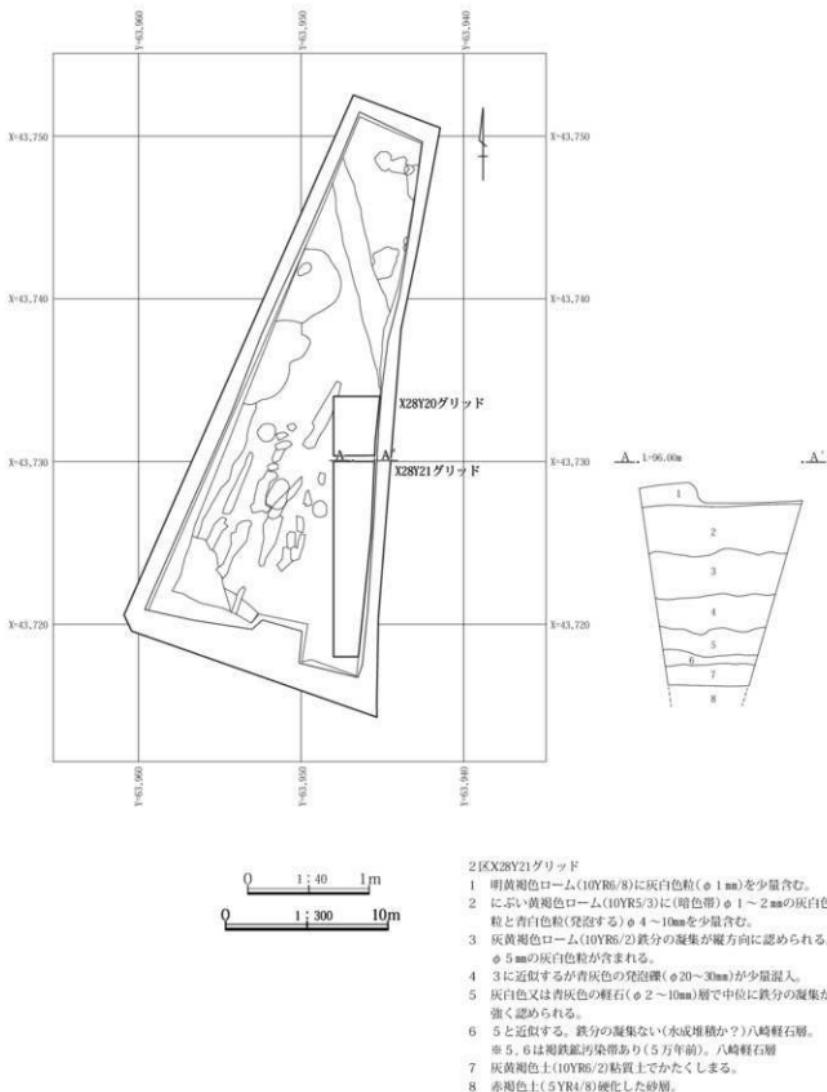
せた。

2区の南側グリッドから人為的加工の施された礫が検出されたので、その調査範囲を南北に拡張して更に調査を進めたが、遺構は検出されなかった。



第3-1-14図 1区グリッド配置

2区グリッド配置



第3-1-15図 2区グリッド配置

第3項 出土遺物

資料化し下記に掲載した遺物は4点にとどまるが、未掲載とした遺物は重量にして6kgを超えており、この中で、黒曜石の剥片を含めた石器類を除いた4.7kg中の57%が縄文土器、39%が土師器、3%が中世以降の遺物であり、弥生土器、須恵器はそれぞれ1%未満にとどまった。

土器類の過半を占めた縄文土器のあらかたは前期後半の諸磯b式に属する土器であり、このほか諸磯c式や、中期、後期に属すると思われる土器片も散見された。中期や後期を含む土器片の多くは1区B混土層上面や2区谷地形からの出土であった。谷地形の埋没土はその層位に

より崖上からの崩落あるいは客土と考えられる。谷地形出土の遺物はその出土層位と出土地点が不明であり、また出土地の性格からして、元々客体的な遺物となることもあり資料化を見合せた。なお谷地形からは貝殻施文を模した土器片も検出されている。

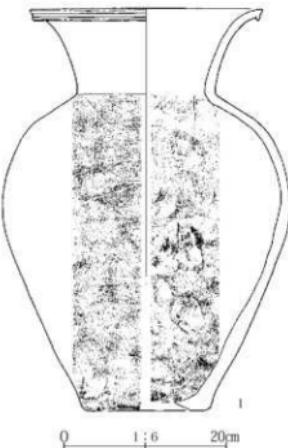
弥生土器は1区B混土層上面と6号土坑からの出土であるがいずれも竪見町式の遺物である。

1号溝から全長13cm程度の直方体の凹み石が出土しているが、遺構の時期とそぐわぬ遺物のため掲載を見合せた。なお出土した打製石斧は概ね全長10cm程度のものであり、土器の組成とそぐわないという指摘を得た。谷地形出土遺物の由来・出自が単一ではない傍証といえようか。

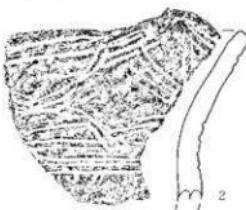
第3-1-7表 遺物観察表

| 種 類 Pl. No. | 器 種 No. | 種 類 器 種 | 出土位置 残 存 率 | 計測値 | | | 胎土/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備 考 |
|-----------------------|---------------|------------------|---------------------------------|----------------|----------------|----------------|--------------------|--|--------|
| | | | | 口 底 | 高 度 | 重 量 | | | |
| 第3-1-16 図 Pl.22 | 1 | 須恵器 甕 | 2区3号土坑 底面、 2区谷地形 略完形 | 口 底 14.1 | 高 度 6500 | 重 量 48.3 | 細砂粒/底部不良/ 灰色 | 輪穂整形。内面に刃口のない切き締めの痕跡、外面は口 縁部より返しの線に輪穂痕残るも、体部は水削整形によ るものか輪穂痕不明。なお腹部外表面はヘラ削除後に弱い擦 で、外部的に擦目が残る。底部中央部欠損。鉄分付着か胴 部外曲変。 | |
| 第3-1-16 図 Pl.22 | 2 | 縄文土器 深鉢 | 2区4号土坑 底:4cm 口縁~制部 1/6 | | | 重 量 66 | 細砂/良好/黒茶 褐色 | 上部外反し四突起の波状口縁、器表は革葉輪磨する。 体部横位二重沈線で区切り、上位に二重沈線による粗い施 文。 | 諸磯b式 |
| 第3-1-16 図 Pl.22 | 3 | 土師器 小型壺 | 1区7号セト 底:6~10cm 略完形 | | | 重 量 116 | 細砂粒/良好/明黄 褐色 | 内外部とも指おさえ。表面や摩耗・劣化し、体部剥離多し。 手捏ね土器、S字型腹部片と共に | |
| 第3-1-16 図 Pl.22 | 4 | 土師器 器台 | 1区6号土層 上面 脚部小片 | | | 重 量 18 | 細砂粒/良好/赤褐 色 | 透かし一部残存。外面は精緻。内面はまばらにヘラ撫で。 外反する脚部端部はほぼ垂直に研磨整形。 | |

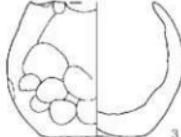
3号土坑



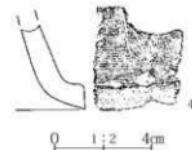
4号土坑



7号ピット



遺構外



第3-1-16図 出土遺物

第3-1-8表 木根遺跡

| 区 | 出土遺構 | 繩文土器 | | 弥生土器 | | 土器器(左片、右片) | | 須恵器(左片、右片) | | 陶器・磁器 | | 片 | | その他 | | 打製石斧 | | その他石器 | |
|---|------------|------|------|------|----|------------|------|------------|-----|-------|---|---|----|-----|----|------|-----|-------|------|
| | | 片 | 片 | 片 | 片 | 大 | 中 | 小 | 中 | 小 | 片 | 片 | 点 | 点 | 点 | 点 | 点 | 点 | |
| 1 | 1号縫合柱建物 | 1 | 11 | 1 | 3 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 2号縫合柱建物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 8号土坑 | 1 | 9 | | | 5 | 40 | 2 | 34 | | | | | | | | | | |
| 1 | 7号ピット | | | | | 1 | 18 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 9号ピット | | | | | 1 | 7 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 228Y47ダリツF | | | | | 1 | 7 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 228Y49ダリツF | | | | | 2 | 10 | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 確認トレース | | | | | 1 | 15 | 1 | 33 | | | | | | | | | | |
| 1 | 縄織土上層 | 54 | 567 | 4 | 23 | 59 | 376 | 2 | 64 | | | 1 | 3 | | | | | | |
| 1 | -活 | 3 | 39 | | | 28 | 210 | 1 | 11 | | | | | | | | 2 | 95 | |
| 1 | 覆土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 表土 | 4 | 89 | | | 11 | 10 | 1 | 30 | 1 | 3 | 1 | 10 | 1 | 5 | | | | |
| 2 | 1号溝 | 3 | 45 | | | 1 | 17 | | | | | | | | | | 1 | 18 | 2 |
| 2 | 1号縫合通溝 | 3 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | (60) |
| 2 | 2号土坑 | 4 | 39 | | | 3 | 20 | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 3号土坑 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 4号土坑 | 17 | 283 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 69 | |
| 2 | 5号土坑 | 8 | 123 | | | 4 | 74 | | | | | | | | | | 1 | 95 | |
| 2 | 6号土坑 | 5 | 30 | 1 | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 谷地形 | 184 | 1272 | | | 60 | 580 | 3 | 70 | | | 2 | 26 | 1 | 83 | 10 | 637 | | |
| 2 | 228Y20ダリツF | 3 | 60 | | | | | | | | | 1 | 17 | | | | | | |
| 2 | 228Y21ダリツF | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 5 | |
| 2 | -活 | 5 | 78 | | | 1 | 11 | | | | | | | | | | 2 | 560 | |
| 2 | 覆土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 表土 | 4 | 31 | | | 3 | 15 | | | | | | | | | | | | |
| | 小計 | 299 | 2801 | 5 | 27 | 188 | 1619 | 11 | 243 | 1 | 3 | 2 | 13 | 4 | 48 | 1 | 83 | 14 | 945 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1774 |

注 土器器、須恵器の大小は想定器形の大小に基づく。小は杯・瓶・皿など、中は高杯・小型壺など、大は壺・羽釜・壺など。
左 破片点数、右 破片重量

第2節 前橋市0093遺跡

第1項 調査区の概要

前橋市0093遺跡は、赤城山南麓を東西約13kmにわたり穿たれた女堀の、前橋市域に含まれる部分を指し示す遺跡名称である。今回検出された遺構は、女堀の西半である前橋市に所在する部分の中でも西端に近い一画に位置している。

本遺構は、その西辺と掘りこまれた底面および東辺の一部が、寺沢川左岸の台地上にある1区の北半と、市道を挟んでその北に位置する2区の南半から検出された。遺構の大部分は1区からの検出であり、旧利根川により削られた台地縁辺沿いに、北西から南東に伸びる様子がうかがわれる。また北側の2区からは、掘削により生じた排土の置き場である盛土が検出されている。

堀の南側からも盛土が検出されると予想され、1区谷地形からAs-B混土の盛土状の層が確認されたが、堀から20m以上離れ、間に広い擾乱区画を挟むため、盛土としての取り扱いは見合わせた。深いところでは地表下2m近くまで擾乱が及んでいる場所も存在している。今回確認された遺構範囲は、概ね堀底まで深さにして1mに満たない部分であり、またその直上まで昭和期の水田耕土が及んでいる。盛土の有無を判定する際の指標となるべき部位は既に削平され、失われてしまったと考えられる。

掘りこまれた底面から、排水溝と目された、堀本体に並行する向きと交差する向きの二種類の溝が検出されている。また検出された堀の北端からは階段状に掘りくぼめられた一画も検出されている。

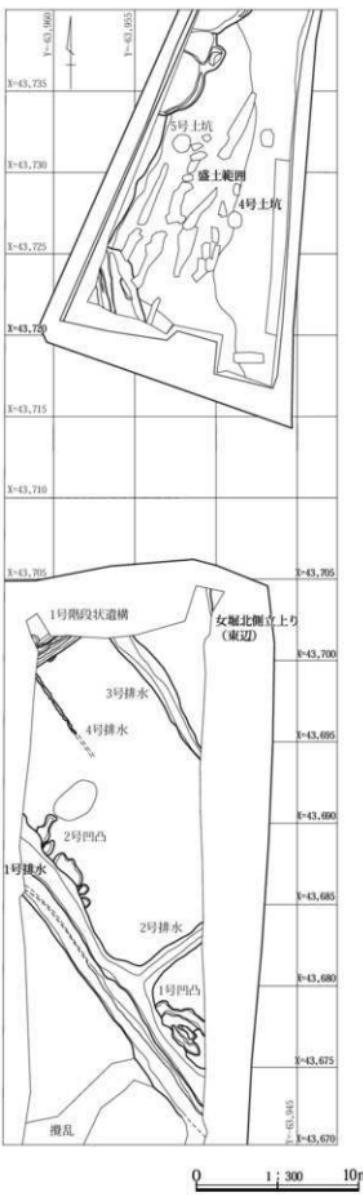
本遺構の細部については、掘りこまれた掘削部分と、そこから搬出された排土により作成された盛土部分とに区分し、次項に記載する。

第2項 遺構と遺物

1 挖削部分(第3-2-1~6,10図、PL14~21)

位置 X=43,670~43,726、Y=63,949~63,963、寺沢川左岸の調査区北半に位置する。

形状等 遺構は昭和期の水田耕土に覆われ、堀の底面近



第3-2-1図 女堀全体図

第3章 確認された遺構と遺物

くが残されるのみであるが、直線に伸びる西辺と平坦に整地された底面、東辺の立ち上がり点が1区北半で確認されている。西辺には西壁と堀底との境に、西辺に沿って排水溝が設けられており、殊に西辺南半は壁と底との区分が明確ではないが、概ね西辺から1m程度東によつたあたりが西壁の下端と推測される。2区からは東辺の立ち上がり部分は確認されていないが、階段状に成形された斜面が検出されている。

規模 $(48.11) \times (21.17) \times 0.51 \sim 1.60\text{m}$ 、堀底 $(21.68) \times 20.60 \times 0.51 \sim 0.64\text{m}$ 、(1区)女堀北西端底面標高93.20m、女堀北東端底面標高93.20m、女堀南東端底面標高93.24m、(2区)女堀北端最深部標高93.92m、堀底西辺の標高差0.04mを測る。

走行方位(度) N-36-W

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土に覆われる。

付帯遺構 排水溝4条、階段状の遺構1基。付帯遺構については後述する。

重複 なし。

遺物 堀底近くから古瀬戸折縁深皿(1)が出土したほか、資料化にはいたらなかったが、埋没土の中から黒曜石やチャートの破片、繩文土器片、土師器片や須恵器の破片などが出土している。

所見 本遺構の年代を確定する資料は得られていない。なお、女堀西辺の走行方位はN-36-Wであるが、東辺の立ち上がり地点である1区北東端と、堀北側の盛土範囲手前の推定東辺斜面とされる2区南西端を結ぶ線の傾きはN-25-Wとなり、西辺よりも北に11度ほど開くことになる。また2区南西端から検出された、推定東辺斜面下部に存在する平坦部分の標高93.92mは、1区で検出されている堀底面の標高よりも0.7mほど高いものであり、同一の面とはしがたい。いずれにしても今回の調査で確認できなかった1区東辺とその延長線は、2区南西端よりも南を指すと推察される。

(1) 1号排水溝(第3-2-2~5図、PL.16~18)

位置 X=43,674~43,691、Y=-63,950~-63,962、女堀西辺沿いに位置する。

形状等 溝幅は不定であり、溝東辺は波打ちながらも堀西辺沿いに位置する。また溝底部の形状も一様ではなく、壁際が高く堀の内側に向かい階段状に張り出し、溝

の最深部は溝の西辺側に位置している。なお西辺を含め各段の際には掘削に用いた工具の痕跡が残されたままであり、堀底面とは異なり乱雑なままで整形はされていない。

規模 $(20.75) \times 0.83 \sim 1.93 \times 0.02 \sim 0.16\text{m}$ 、北端底面標高93.03m、南端底面標高93.09m、標高差0.06mを測る。

走行方位(度) N-27-W

埋没土 ロームブロック、ローム粒を含むにぶい黄褐色土に覆われる。

付帯遺構 用途・経緯等不明であるが、浅くはあるが、一段深く掘りこぼめられた箇所が、溝東辺沿いに数か所確認されており、後述する。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から繩文土器や石器、土師器の破片が出土している。

所見 堀に落ち込む雨水等の処理を意図したものと推測される。

a 1号四凸(第3-2-2, 5図、PL.17)

位置 X=43,674~43,679、Y=-63,950~-63,954、1号排水溝東辺南半に位置する。

形状等 足形に類似した、形状不定の小さな窪みが乱雑に集まる一画が検出された。

規模 $4.06 \times 1.99 \times 0.03 \sim 0.07\text{m}$

主軸方位(度) N-40-W

埋没土 ローム粒をわずかに含む、にぶい黄褐色土に覆われる。

重複 なし。

遺物 検出されていない。

b 2号四凸(第3-2-2, 3図、PL.17~18)

位置 X=43,684~43,691、Y=-63,957~-63,962、1号排水溝東辺北半に位置する。

形状等 1号排水溝東辺沿いに連る、浅い窪み5か所が確認された。

規模 $5.68 \times 2.07 \times 0.01 \sim 0.09\text{m}$

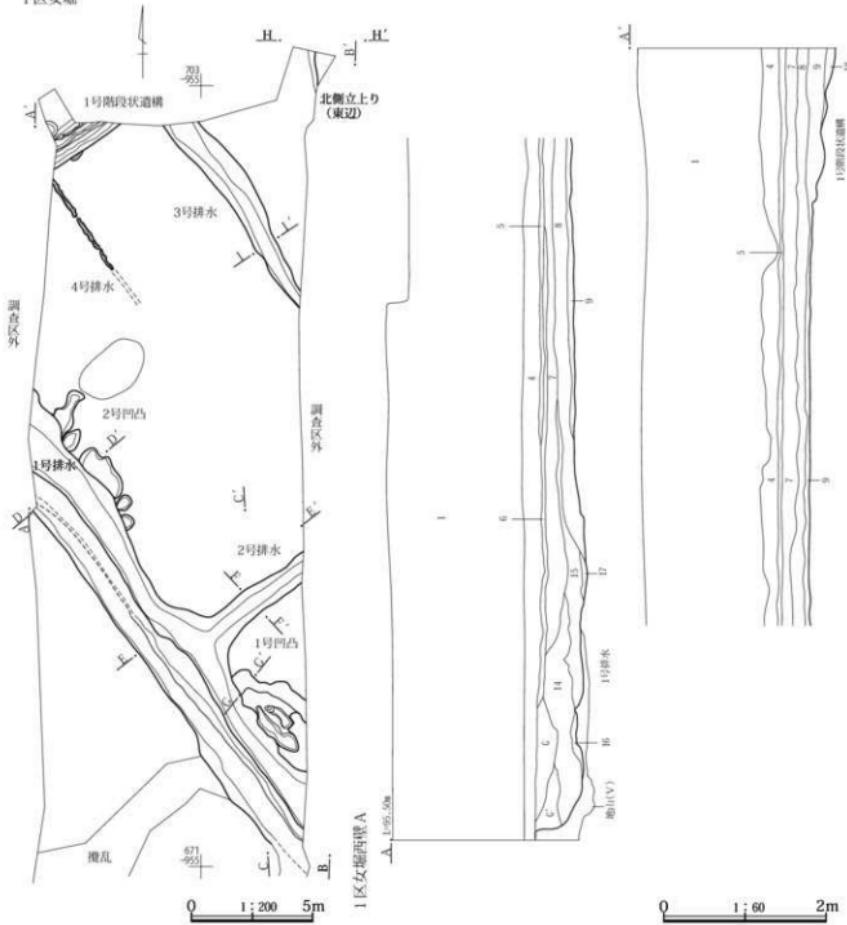
主軸方位(度) N-35-W

埋没土 ロームブロック、砂質味の強い黒色土ブロックを含む黒褐色土に覆われる。

重複 なし。

遺物 検出されていない。

1区女堀



1区女堀西壁A

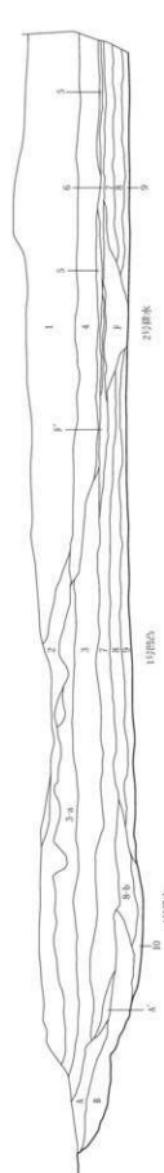
- 1 黒褐色土(10YR3/1)現代ごみ含む。(表土上)
- 2 黄褐色土(10YR4/1)粘性土(昭和期に確認されている水田の耕土)
- 3 黄褐色土(10YR4/2)粘性土
- 4 黄褐色土(10YR5/6)離化鉄分の影響を受ける。主体は黄褐色土である。粘性土。5層土としまりや土質は似ている。
- 5 黄褐色土(10YR4/2)ローム粒をわずか(1%以下)に含み、小礫($\phi 1\sim4\text{ mm}$)を1%含む。
- 6 黄褐色土(10YR4/2)7層と似ているが、わずかに明るく褐色味が強い。また、小礫も少なく(1%)。しまりもよいため分層。粘性土。
- 7 にふい黄褐色土(10YR4/3)ローム粒をわずか(1%以下)に含む。
- 8 黑褐色土(10YR2/3)灰白色粘土ローム($\phi 5\sim30\text{ mm}$)を含む。粘性あり。(1号排水溝埋没土)

- 14 14に多量の灰白色粘土ロームブロックを含む。(1号排水溝埋没土)
- 16 にふい黄褐色土(10YR5/3)の砂層。(1号排水溝埋没土)
- 17 にふい黄褐色土(10YR4/3)ロームブロック($\phi 3\sim10\text{ mm}$)、ローム粒を含む。10層とはほぼ同質である。(1号排水溝覆土)
- 18 黒褐色土(10YR3/1)ロームブロック($\phi 3\sim10\text{ mm}$)を含む。粘性土。(1号排水溝状遺構)
- G にふい黄褐色のローム土(10YR4/3)が主体。白色ロームブロックを含む。 $(\phi 1\sim3\text{ cm})$ 10%含む。(盛土崩落土と考えられる。)
- C' C' と同質であるが、白色ロームに加えて、褐色ローム粒を含むため分層。(盛土と考えられる。)
- V 灰白色(10YR1/2)の砂層。(地山)

第3-2-2図 1区女堀1

女塚南側立上り C

C. 1:50,000



女塚南側立上り C

- 1 黒褐色土(0YR3/1)現代ごみを含む。(底土+1)
- 2 黒色土(0YR2/1)ロームブロック(φ 3~20mm)を含み、褐色土を含むに4%含む。(底土+2)
- 3 褐褐色土(0YR4/1)小礫(φ 5~10mm)を1%含み、わずかにロームが入る。
- 3-a 褐色土(0YR4/4)基本的には3層の土だが、褐色が強いため分層。
- 4 褐灰色土(0YR4/1)粘性土。雨露時に確認されている水田の跡土。
- 5 灰褐色土(0YR4/2)粘性土。
- 6 黄褐色土(0YR4/2)腐化泥分の影響を受ける。主体は黄褐色である。粘性土。5層土となりや土質は似ている。
- 7 灰褐色土(0YR4/2)ロームをわずか(1%以下)に含み、小礫(φ 1~4mm)を1%含む。
- 8 灰褐色土(0YR4/2)7と同じであるが、わずかに明るく褐色地が強い。また、小礫も少なくて(1%)、しまりよいいため分層。粘性土。
- 8-b 8に比べて、聞く、ローム粒を含まないため分層。
- 9 にぶい黄褐色土(0YR4/3)ローム粘をわずか(1%以下)に含む。
- 10 にぶい黄褐色土(0YR4/3)9と同じであるが、ロームブロック(3~10mm)、ロームの量が多いため分層。(1号排水溝覆土)9層と層位はほぼ同じ層と想える。
- A 黄褐色土(0YR3/1)ローム粘。黄褐色ロームブロック(φ 1~3mm)を10%含む。(削落土と考えられる。)
- A' Aよりロームの量が少ないため分層。(削落土と考えられる。)
- B 黄褐色土(0YR3/1)A層に比べて、黄褐色のロームの量が多い(40%)。(削落土と考えられる。)
- F Fに比べて、褐褐色土が主体であり、ロームブロックの量が少ない。(F. F層は7層出物に新たに削落された部分の遺構と考えられ、下層に存在する2号排水溝は別のものである。)

女塚北側立上り(東辺) H

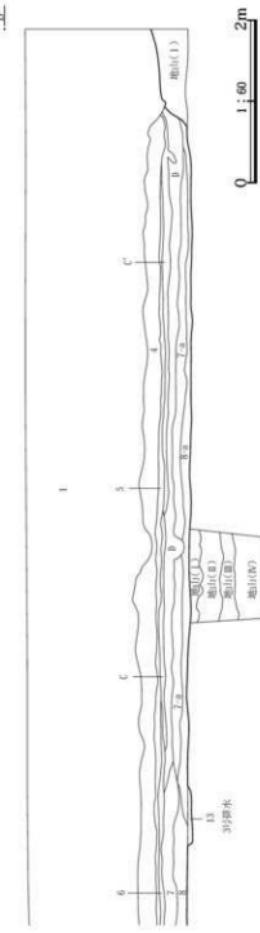
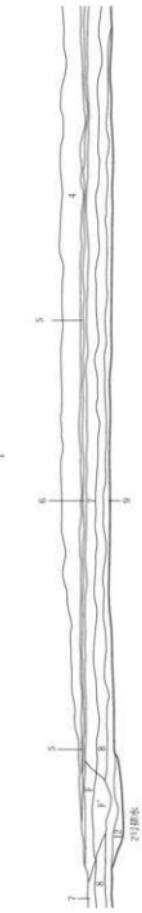
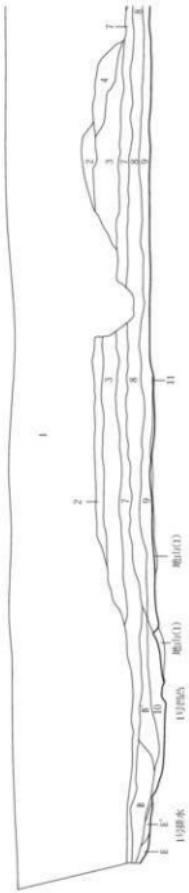


- 女塚北側立上り(東辺) H
- 1 黒褐色土(0YR2/2)ローム粘。
- 2 黄褐色土(0YR2/2)ローム粘。
- 3 質味の強い黒色土ブロック(φ 1~3mm)を含む。(底土の削落土と考えられる。)
- 4 地山にぶい黄褐色のローム土。
- 5 (0YR2/2)ブロック層に下層の土が入る(5%)。

0 1:60 2m

第3-2-3図 1区女塚2

1区女塙壁B
R.L. 109.5m



第3-2-4図 1区塙3

第3章 確認された遺構と遺物



第3-2-5図 1区女塚

(2) 2号排水溝(第3-2-2~5図、PL.18)

位置 X=43,679~43,684、Y=63.950~63.955、1号排水溝から分岐し、女堀西辺と交差方向に位置する。

形状等 1号排水溝から分岐する。分岐点においてその底面は1号排水溝よりも低い。

規模 (4.68)×0.86~1.09×0.07~0.21m、西端底面標

高93.07m、東端底面標高93.07m、標高差0.00mを測る。

走行方位(度) N-53-E

埋没土 明黄褐色ロームブロックを含む暗褐色土に覆われる。

付帯遺構 なし。

重複 1号排水溝から分岐する。

遺物 検出されていない。

所見 1号排水溝および堀底部の排水を意図したものと推測される。調査区東壁断面を一瞥すると、2号排水溝の上位に溝状の断面が確認できるが、この断面は女堀が埋没する過程で生じたものであり、調査所見に述べられているように第7層を地山とする遺構である。

(3) 3号排水溝(第3-2-2, 4, 5図、PL.18~19)

位置 X=43,694~43,702、Y=63.951~63.957、女堀西辺と平行に、堀中央やや東辺寄りに位置する。

形状等 上流の南端の幅よりも下流の北端の幅が広く、やや蛇行する。

規模 (9.01)×0.49~1.31×0.04~0.12m、南端底面標高93.19m、北端底面標高93.12m、標高差0.07mを測る。

走行方位(度) N-25-W

埋没土 ローム粒とロームブロックを含む褐灰色土に覆われる。

付帯遺構 なし。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から弥生土器片、須恵器片や土師器片のほか、刀子ないしは工具に類似した鉄片が出土している。

所見 堀底部の排水を意図したものと推測される。溝北端側の標高が低くなってしまっており、後述の1号階段状遺構で確認された低地部へと水を落とすことを意図したものと推察される。

(4) 4号排水溝(第3-2-2図、PL.19)

位置 X=43,694~43,700、Y=63.957~63.962、女堀北端の中央やや西辺寄りに位置する。

形状等 幅の狭い工具による掘削痕が連なって、女堀西辺に平行な細くて浅いV字状の溝を構成する遺構が確認された。

規模 6.21×0.10~0.19×0.04~0.09m、南端底面標高93.22m、北端底面標高93.21m、標高差0.01mを測る。

走行方位(度) N-26-W

埋没土 ローム粒をわずかに含む、にぶい黄褐色土に覆われる。

付帯遺構 なし。

重複 なし。

遺物 検出されていない。

所見 堀底面の大部分は標高93.20m前後であるが、本遺構周辺の標高は93.25~93.35mとなっており、他と比べると0.1m程度標高の高い一画となっている。調査所見に基づき本遺構を排水溝に区分したが、堀底を掘りくぼめ平らに整地していく際の指標・基準として作成された、掘削目安の遺構である可能性も想起される。

(5) 1号階段状遺構(第3-2-2, 6図、PL.19~20)

位置 X=43,699~43,702、Y=63.958~63.962、女堀北端に位置する。

形状等 女堀底面の北端から検出された階段状の遺構であり、階段部より北側は標高92.90m前後であり、女堀底面よりも0.3m程度深くなっている。階段部は東西に伸びるステップ様の2条の浅い溝からなり、溝の北辺には堤状の盛り上がりが存在する。上段の溝底面と下段の溝底面の標高はほぼ同じであるが、上段北辺端部と下段北辺端部の標高差は0.05mを測る。

規模 3.35×1.09×0.33m

主軸方位(度) N-55-E

付帯遺構 なし。

重複 なし。

遺物 図化には至らなかったが、埋没土から縄文土器片や土師器片が出土している。

所見 階段部の下段より上の部分には女堀埋没土最下層が及んでおり、階段状遺構は掘削工事終了後に埋没したと推測される。下段より低い部分はこれと異なる土質の

土により覆われており、工事終了以前の時点で埋没したものと推測される。なお、前述した1号排水溝と3号排水溝は共に溝北端側の標高が低くなってしまい、北側への排水を意図したと推測される。南側から北側への水抜きを行うに際しての受け皿こそが、堀北端に位置する階段状遺構の低地部であるとすれば、当該遺構は今回確認された部分よりも広い範囲に及ぶものと推測される。掘削工事中に降りたまる雨水などを寺沢川に落とし、作業環境を保全するための対策の一つと推察される。

a 上段の溝

規模 $(3.14) \times 0.43 \sim 0.52 \times 0.02 \sim 0.07\text{m}$ 、東端部底面標高93.13m、西端部底面標高93.12m、標高差0.01m、女堀底面と溝底部の標高差0.14mを測る。

走行方位(度) N-57-E

埋没土 ローム粒をわずかに含むにぶい黄褐色土に覆われる。

b 下段の溝

規模 $(2.08) \times 0.21 \sim 0.35 \times 0.03\text{m}$ 、東端部底面標高93.12m、西端部底面標高93.01m、標高差0.11m、上段北辺端部と溝底部の標高差0.06mを測る。

走行方位(度) N-57-E

埋没土 ロームブロックを含む黒褐色土に覆われる。

2 盛土範囲(第3-2-7～9図、PL.20～21)

位置 X=43,722～43,740、Y=-63,948～-63,957、2区南半、寺沢川左岸の台地斜面に位置し、女堀東辺斜面と接する。

形状等 西面する台地斜面に沿い、南北約18.1m、東西約7.1mほどの範囲から、盛土と思われる地形が確認された。なお、この範囲の下位には前橋市0102遺跡の2号盛土遺構(本章1節2項)が含まれている。

規模 $18.10 \times 7.10 \times 0.16 \sim 0.42\text{m}$

主軸方位(度) N-17-E

埋没土 時期・詳細等不明の崩落土に覆われる。

付帯遺構 なし。

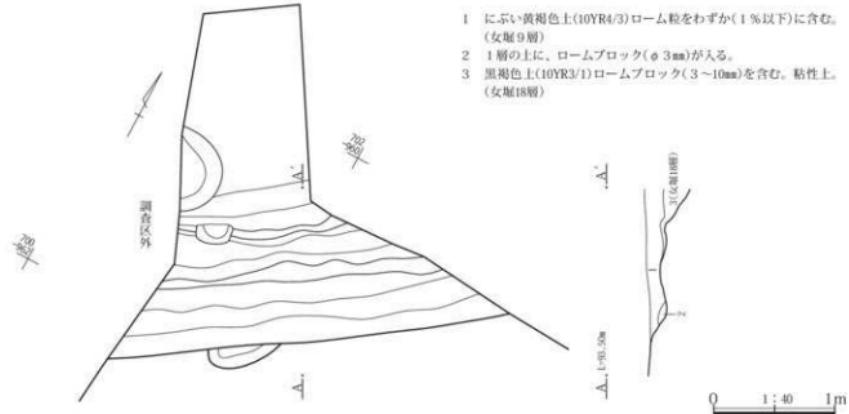
重複 前橋市0102遺跡5号土坑(本章1節2項)。なお前橋市0102遺跡の2号盛土遺構、4号土坑、6号土坑(本章1節2項)に対しては上位に位置する。

遺物 図化には至らなかったが、遺構周辺から縄文土器片や陶器片が出土している。

所見 本遺構の年代を特定する資料は得られていないが、前橋市0102遺跡2号盛土遺構の上位に位置する為、平安時代以降に帰属する。前橋市0102遺跡の2号盛土遺構、4号土坑、6号土坑より新しく、5号土坑に先行する。

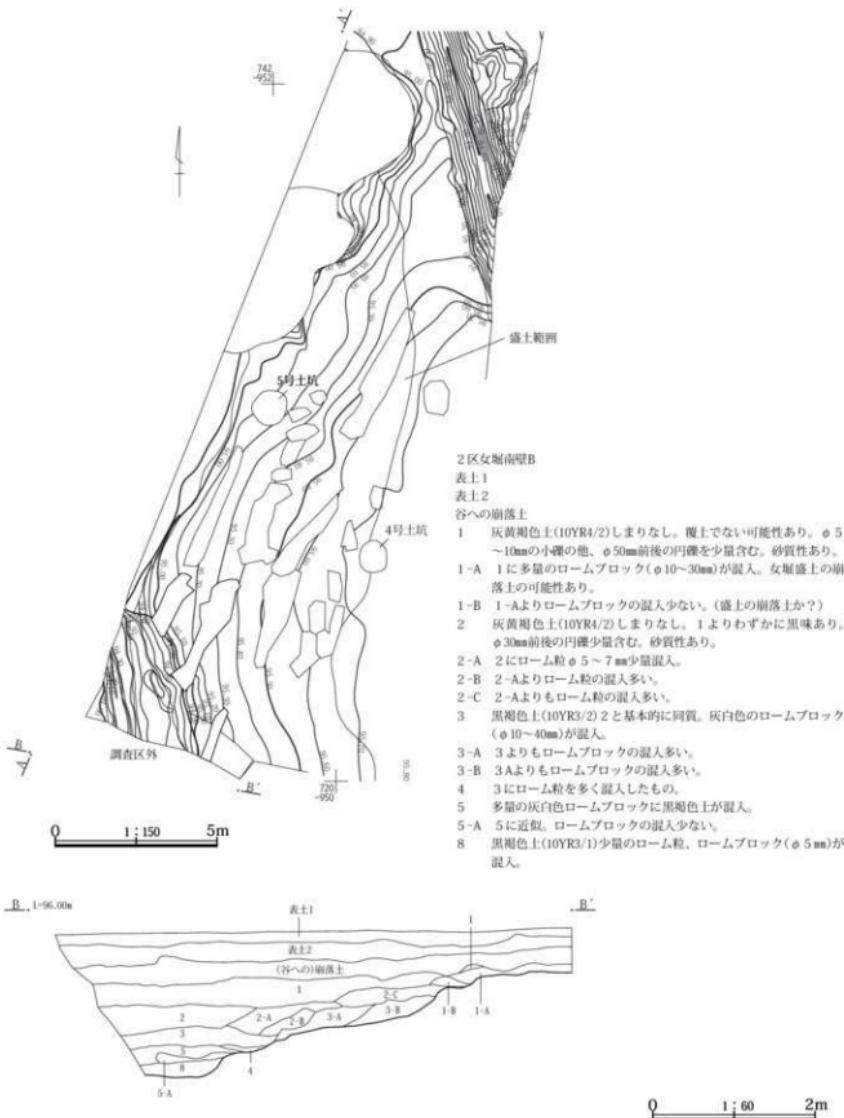
備考 本遺構の帰属年代は特定しえなかつたが、発掘調査時の調査所見に基づき、本遺構を女堀間連遺構として本項に掲載した。

女堀1号階段状遺構



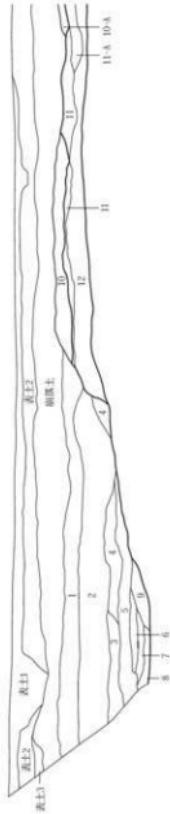
第3-2-6図 1区女堀5

女塙北端部



第3-2-7図 2区女塙1

2区塙西壁・盛土範囲

 Δ , 1:60,000

2区塙西壁・盛土範囲
表土1
表土2

表土3
谷への削落土

- 1 水黄褐色土(0YR4/2)となりなし。面上でない可溶性があり。φ 5~10mmの小礫の他、φ 50mm前後の円礫を少額含む。鉱質性あり。
- 2 水黄褐色土(0YR4/2)となりなし。よりわざかに黒味あり。φ 30mm前後の円礫を少額含む。鉱質性あり。
- 3 黒褐色土(10YR3/2)と基岩間に隙間。灰白色のロームブロック(φ 10~40mm)が混入。
- 4 3の黒褐色土に多くの灰白色ロームブロック(φ 20~50mm)が混入。
- 5 多量の灰白色ロームブロックに黒褐色土が混入。
- 6 水黄褐色土(0YR4/2)灰白色ローム粘、ロームブロック(φ 10~30mm)が含まれる。
- 7 6に近似。ローム粘、ロームブロックの混入多い。
- 8 黑褐色土(10YR3/1)少量のローム粘、ロームブロック(φ 5mmが混入)。
- 9 8に多量のローム粘、ロームブロック(φ 30~40mmが混入)。
- 10 水黄褐色土(0YR4/2)少量のロームブロック(φ 20~30mm)が混入。面上でない可溶性あり。
- 10-A 10に近似。ロームブロックの混入少。



2区塙西壁・盛土範囲
表土1
表土2

表土3
谷への削落土



2区塙西壁・盛土範囲
表土1
表土2

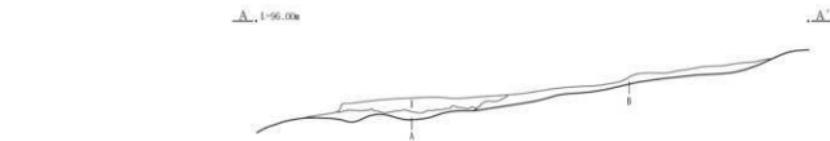
表土3
谷への削落土

- 11 灰黃褐色土(0YR4/2)と多量の灰白色ロームブロック(φ 10~30mm)の混入。
- 11-A ロームブロックの混入に泥が混在。
- 11-B 11-Aよりロームブロックの混入多い。
- 12 黑褐色土(10YR3/2)や灰白色ロームブロック(φ 10~30mm)が混入。
- 13 11に近似。灰白色ロームブロック(φ 20mm)の混入や少。
- 14 黑褐色土(10YR3/2)ローム粘(φ 1~5mm)を含む。
- 14-A 14にロームブロック(φ 30mm)が少量混入。

地形

- A 灰黃褐色土(0YR4/2)しかりなし。1に近似するが、ローム粘の混入多い。
- B 黑褐色土(10YR3/3)しまりなし。ローム粘(φ 2 mm)、小礫(φ 5~10mm)の混入あり。
- C AとBの中间的な混入。しまりなし。
- D 黑褐色土(10YR3/2)しかりなし。灰白色粘(φ 2~5mm)を少量含む。

女堀盛土範囲



女堀盛土範囲 A

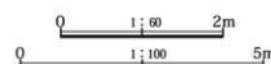
1 灰黄褐色土(10YR4/2)灰白色ローム質土
ブロック(φ10~30mm)を含む。女堀盛土と
考えられる。

- A ラミナ状の細砂層。
B ローム質の砂層。水性堆積か?



女堀盛土範囲 B

1 にぶい灰褐色土(10YR4/3)ロームで
二次堆積か?盛土の可能性あり。

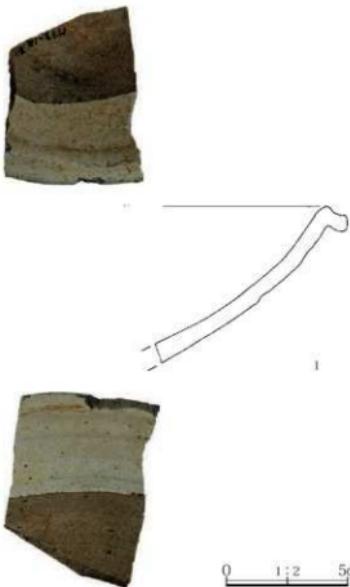


第3-2-9図 2区女堀3

第3項 出土遺物

右に掲載した遺物は女塼の堀底から2cmほど浮いて検出された陶器片である。遺物出土地点の土層断面は未確認であるが、出土地点から3m程度離れた2地点での埋没土最下層の層厚は7.5cmと8.7cmであり、最下層の埋没土(ローム粒をわずかに含むにぶい黄褐色土)に含まれる遺物と推察される。

出土位置が特定された遺物1点のみの掲載であるが、掲載にいたらなかった土器類も72点966gほど検出されている。このうち重量比にして7割は繩文土器の小片であり、重量比2割の土師器がこれに続いている。弥生土器や須恵器、陶器・磁器はそれぞれ数%にとどまる。繩文土器の多くは諸磯b式を主体とする竹管文系の小片である。なお検出された弥生土器は樽式期の壺片と高杯片であり、土師器のうちの1/3ほどは古墳時代前期に属する小片である。



第3-2-10図 出土遺物



遺物検出状況(西から)

第3-2-1表 遺物観察表

| 種 団 Pl. No. | No. | 種 類 器 類 | 出土位置 残 存 率 | 計測値 | 胎上/焼成/色調 石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備 考 | |
|----------------|-----|---------------------------|-----------------------------|-----|--------------------|------------------|--|----------------------|
| 第3-2-10 図 | 1 | 古瀬戸 ¹⁾ 折縁深皿 | II区女塼 底+2cm 口縁-体部1/12 | | 重 66 | 夾雜物微量/不良/ 明灰色 | 焼成不良のため灰釉が色抜けして白色化している。口縁端 部の造作はなるく、段差不明瞭。折縁口縁の内面に片口状 の深い窪みが認められる。 | 古瀬戸後期 様式N期古 段階 |

第3-2-2表 未測量遺物

| 区 | 出土遺物 | 陶文土器 | | | 先生土器 | | | 土器原(左L', 右R) | | | 須地原(左L', 右R) | | | 陶器・磁器 | | | 打製石斧 | | | その他石器 | | | 金属製品 | | | | |
|---|----------|------|-----|---|------|----|-----|--------------|----|---|--------------|---|----|-------|---|---|------|---|---|-------|---|---|------|---|---|---|---|
| | | 片 | 瓦 | 片 | 大 | 5 | 63 | 小 | 大 | 中 | 6 | 1 | 15 | 小 | 中 | 片 | 瓦 | 点 | 瓦 | 2 | 4 | 石 | 瓦 | 8 | 石 | 8 | 8 |
| 1 | 女施1 1号水滴 | 9 | 200 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 女施3 1号水滴 | | | 1 | 4 | 3 | 34 | | | 1 | 15 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 女施5 1号水滴 | | | 3 | 42 | | 3 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | 女施圓土 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 女施 | 9 | 124 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 女施落土圓明 | 13 | 115 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 女施圓土 | 11 | 190 | 2 | 29 | 5 | 118 | 1 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 小計 | 45 | 671 | 3 | 33 | 16 | 203 | 1 | 10 | 1 | 15 | 1 | 6 | | | | | | | | | | | | | | |

註 土師器、須地器の大小は總形の大小に基づく。小は杯・碗・皿など、中は瓶・小壺など、大は甕・斗笠・壺など。
左 破片点数、右 瓦片重量

第4章　まとめ

1 調査区周辺の旧地形について

本調査区周辺は土地改良のほか、河川改修や道路・橋梁敷設などによる地形変更の影響を大きく受けた土地であり、その変化のほどは撮影時期の異なる空撮写真を見比べることで明らかとなる。1961年時点(写真2)では既に寺沢川の河道は現在の河道と同じ位置に移されているが、1974年時点(写真1)では確認できなくなっている調査区以南の旧河道の痕跡はまだその形状・位置等を確認することができている。この河川改修により、寺沢川の新しい河道は調査区のある台地直下を流れることとなる。調査区の立地する台地の裾野部分や下段の段丘部分などを削りこんで新たに流路を開削したと推測され、1号溝や女堀の西端の先は存在していたとしてもこの時点で消滅したと推察される。また、それまで女堀推定ラインの南側に位置していた堀之下橋(以下、橋)も女堀推定ラインの北側へと移設され、ここから東に至る道もまた女堀推定ラインの南側から北側へ移設されている。なお、調査区3区北地区の土層断面(第2-10図)からは南側に向けて高まっていく地勢が読み取れるが、調査区3区北地区南端付近に移設前の古い橋のたもとが存在したと推

察される。

調査区の中で、女堀が検出された場所は長らく窪地であったようだが、1980年時点では既に埋め立てられ周囲と高低差のない土地となり現在に至っている。この窪地(以下、窪地)が確認できるのは1974年の写真(写真1)までである。前述したように、1961年時点では女堀推定ラインの北側にあって橋から緩やかに弧を描きながら南東に伸びていた道は、1974年には橋から東南東へ一直線に伸びるように付け替えられ、これに合わせてか窪地の南端も拡張されているようである。

1947年時点(写真3)での橋から東へ伸びる道は、前述したように橋の位置自体も現在と異なるため、窪地の南40m付近までは女堀推定ラインの南側に位置しており、このあたりから女堀推定ラインを横切り、窪地の南55m付近で女堀推定ラインの北側へとわたっている。なおここから先、東へ延びる女堀推定ライン沿いの道は1961年時点でも道として存在しているが、1974年時点では土地改良に基づくものが消滅している。また、1947年時点では東西2段・2区画の水田の東区画であったと思われる窪地は、1961年時点ではその面積が拡張されている。河道の移設を行った河川改修後に残された西区画の一部と東区画を一区画にまとめたと推測される。



矢印の先に調査地

<https://maps.gsi.go.jp/map-lib-api/contentsImageDisplay.do?specificationId=1007417&isDetail=true>

撮影計画機関 国土地理院 撮影年月日 1974/12/31(昭49)

国土地理院 CKT7418-C28-20の一部を掲載



矢印の先に調査地

<https://maps.gsi.go.jp/map-l1b-api/contents/imageDisplay.do?specifyLocationId=429511&isDetail=true>
撮影計画機関 国土地理院 撮影年月日 1961/07/26(昭36)
国土地理院 黙T614-C4-17の一部を掲載



矢印の先に調査地

<https://maps.gsi.go.jp/contents/imageDisplay.do?specifyLocationId=77216&isDetail=true>
撮影計画機関 来軍 撮影年月日 1947/10/29(昭22)
国土地理院 USA R408-No1-34の一部を掲載

2 1947年写真と女堀

写真4は1947年の空撮写真と調査区全体図の合成を試みたものである。道路の敷設状況が現在に近い1980年の空撮写真と調査区設定図(第1~3図)を用いて1980年写真と全体図との相対位置のすり合わせを行なったのち、1980年写真と1974年写真、1974年写真と1961年写真、1961年写真と1947年写真と順次重ね合わせて相互のずれを比較照合し、最終的に1947年写真と全体図の位置合わせを行なった。空撮写真個々の傾き補正やレンズの歪曲補正も行っておらず、写真の縮尺精度や位置合わせの精度なども目視レベルの調整である。遺構図としての精度には至っておらず、あくまでも概要把握の資料にとどまるため、以下推論として記載する。

1947年時点の窪地は前述したように東西2区画の東側の区画であり、東西合わせた区画自体は調査区外への広がりを持っている。この2区画のうちの東側の区画が今回検出された女堀と重なっており、女堀の形状を伝える地割と考えられる。調査区外を含めると、この東側の区画は鉤形をなしており、方形の本体部分の西辺北部に小

さな方形が張り付いた形状ともいえる。検出された女堀はこの東側の区画の本体部分の下位に位置し、女堀西辺(写真4⑤)はこの東側区画本体部の南西部分にある。また検出された女堀北側立ち上がり点(写真4③)は東側区画の北東部に該当する。また検出された1号階段状遺構(写真4⑥)は東側区画の北辺(東西2区画の境界)に該当する。なお写真4②は試掘調査に際して確認された女堀東側立ち上がり点であり、東側区画東辺に相当する位置から検出されている。1号階段状遺構の北側は南側より一段低い別区画となっている点などを踏まえると、1947年時点の窪地には女堀掘削時の状況が色濃く反映しているようであり、掘削後に大掛かりな地形変化はなされてこなかったと推察される。発掘調査時に堀最下層の埋没土から15世紀の陶器片1点が検出されているが、これなども掘削工事終了後も地形保持に類する何らかの手間がかけられていた故と推察される。

一般に女堀の上幅は28mとされる。今回検出された女堀の上幅は底幅で19m程度にとどまるため、単純計算であれば4~5m幅の斜面が堀底の両側についていたことになる。ところで写真4⑥に位置する東西区画の境界線

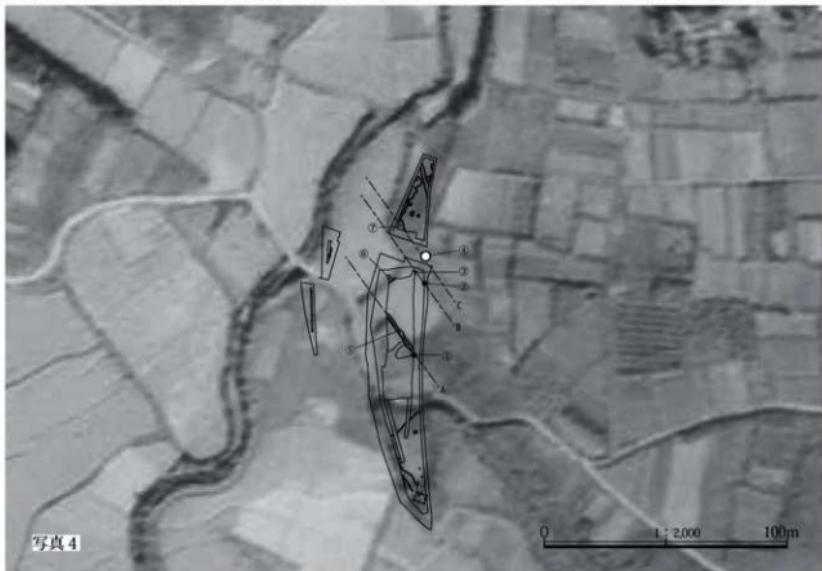


写真4

国土地理院 USA R408-No1-34の一部を加工

<https://maps.gsi.go.jp/contentsImageDisplay.do?specificationId=77216&isDetail=true>
撮影計測機関 東京 撮影年月日 1947/10/29(昭22)

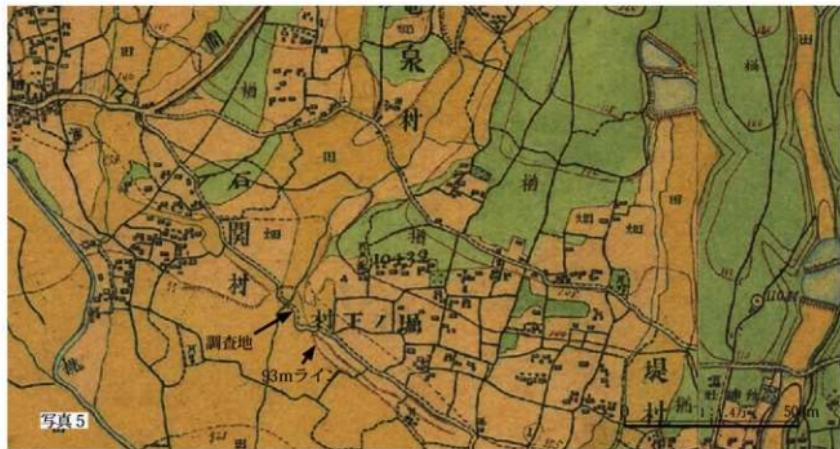
部分の幅は24m程度と試算される。この幅であれば女堀上幅の最小値とされる25mとも大差ない数値に収まる。写真4④は試掘時に確認された女堀西側立ち上がり点であるが、女堀西辺の未調査部分は写真4④と写真4⑤の延長線上にそのまま伸びるのではなく、窪地同様に西に張り出した一画を持つ可能性も否定しない。なお、河川改修後である1961年時点の窪地の幅は約24mとなっており、東西の2区画を1区画とするとともに、南辺の幅が拡張されている。

ところで、前述した3区北地区であるが、この地点は窪地の西側の区画に相当する。3区北地区の昭和期と推定されている堆積の下に位置する地山の標高は92.1m前後であり、検出された女堀堀底の標高よりも1mは低いこととなる。また東側の区画で確認されている昭和期の水田耕土(第3-2-2図)の下端は標高93.6m前後であり、3区北地区は水田耕土が流失している状態であると仮定しても、東西2区画で1m程度の標高差が存在することとなる。なお明治18年頃の地形が記録されている第一軍管区地方2万分1迅速測図(群馬縣上野國南勢多郡上泉村)(写真5)によれば、窪地の西側の区画の西端に位置する橋周辺の標高は92.5~93mと読み取れる。少なくとも明治以降、東西2区画間の比高は1m程度で推移したと推定される。1947年写真に写されている調査区2

区の西に位置する崖線は、その流れで南に延びて窪地東西2区画の境界部分に続いていると見える。東側の区画で検出された女堀がそのままの形状・規模で西側の区画にも延長していたと仮定するにはいさか無理があるといえよう。

写真4④は堀之下女堀遺跡で検出された「堀の東側落ち込み」地点である。上水道付け替え事業に伴う調査とのことで、橋から東21.2mとあり、道のどこかは明記されていないが、概ねこの付近から女堀東辺が確認されている。また写真4⑦は今回の調査で女堀東斜面とされる場所である。写真4に書き込んである1点鎖線は、写真4⑤の女堀西辺を基準に作成したAを基準線とし、BCともにこの線に並行するよう配置している。Aが女堀西辺下端であり、Bは女堀東辺下端に相当する。BC間は6mほどがあるので、Cを女堀東辺上端とし、西辺も同様と仮定しても上幅は31mとなりいさか広い。

写真4③地点の女堀東辺はほぼ南北を指しているので、女堀の東辺のみが写真4③地点で北上し、崖線に併行するようにして写真4④を経由し写真4⑦に伸びると推測される。寺沢川右岸の女堀推定ラインの延長線はほぼ写真4⑦を指向しており、また迅速測図によれば寺沢川の両岸とも標高93mと大差ない地点であり、渡河地点としての適正は高いと推察される。



<https://www.arcgis.com/home/webmap/viewer.html?useExisting=1&layers=alb81aa9d0c74ab2972e4ce103197047>
第一軍管区地方2万分1迅速測図原図(農研機構)を部分拡大して使用

写 真 図 版

前橋市0093遺跡・前橋市0120遺跡



1 調査区遠景(南上空から赤城山を望む、天は北)



2 調査区全景(西上空から、天は東)

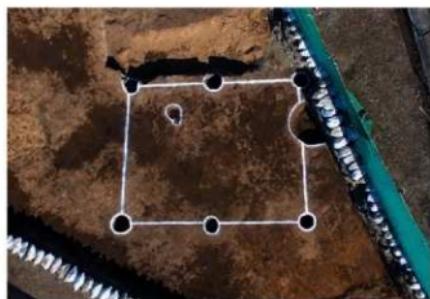


1 前橋市0102遺跡調査区南半(西上空から、天は東)



2 前橋市0102遺跡調査区北半(南西上空から、天は北東)

前橋市0120遺跡



1 1号掘立柱建物(上空から、天は北東)



2 1号掘立柱建物(南西から)



3 1号掘立柱建物 P 1 (南西から)



4 1号掘立柱建物 P 2 (南西から)



5 1号掘立柱建物 P 3 (南西から)



6 1号掘立柱建物 P 4 (南西から)



7 1号掘立柱建物 P 5 (南西から)



8 1号掘立柱建物 P 6 (南西から)



前橋市0120遺跡



1 1号溝東端(北から)



2 1号溝土層断面(北から)



3 1号溝東半(北から)



4 1号溝・関連遺構(北から)



5 1号溝西壁土層断面(南から)



6 1号溝西半(南から)



7 1号溝土層堆積状況(東から)



8 1号溝関連遺構確認範囲(西から)



1 1号溝・関連遺構(南から)



2 1号溝関連遺構土層断面(南から)



3 1号溝関連遺構、完掘状態(南西から)



4 流路状遺構、流路堆積状況(南東から)



5 流路状遺構土層断面 A (南東から)



6 流路状遺構土層断面 B (南から)



7 流路状遺構(南西から)



8 流路状遺構土層堆積状況(北東から)

前橋市0120遺跡



1 3区水田全景(西上空から、天は東)



2 3区水田畦畔(南から)



3 3区水田畦畔断ち割り(東から)



4 3区水田土層堆積状況1(東から)



5 3区水田土層堆積状況2(東から)



6 3区水田土層堆積状況3(東から)



7 3区水田土層堆積状況4(東から)



8 3区水田土層堆積状況5(東から)



1 3区水田土層堆積状況6(東から)



2 3区水田土層堆積状況7(東から)



3 3区水田土層堆積状況8(東から)



4 3区水田土層堆積状況9(東から)



5 1号土坑(南から)



6 1号土坑土層断面(西から)



7 2号土坑土層堆積状況(西から)



8 3号土坑(南から)



1 3号土坑遺物検出状況(南東から)



2 4号土坑(南から)



3 4号土坑土層断面(南から)



4 4号土坑遺物出土状況(南から)



5 5号土坑(南から)



6 5号土坑土層断面(南から)



7 5号土坑遺物出土状況(南から)



8 6号土坑土層断面(南西から)



1 7号土坑(南から)



2 7号土坑土層断面(南から)



3 8号土坑(南から)



4 8号土坑土層断面(北から)



5 3・4号ビット(東から)



6 3・4号ビット土層断面(東から)



7 5号ビット(西から)



8 5号ビット土層断面(南から)



1 6号ピット(南から)



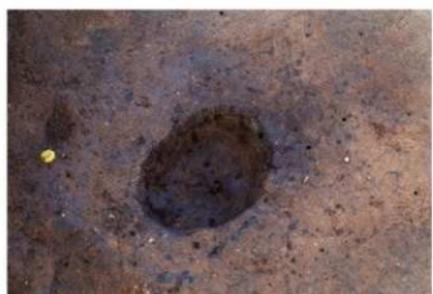
2 6号ピット土層断面(南から)



3 7号ピット(南から)



4 7号ピット土層断面(南から)



5 8号ピット(南から)



6 8号ピット土層断面(南から)



7 9号ピット(南から)



8 9号ピット土層断面(南から)



1 1号盛土遺構(南西から)



2 1号盛土遺構土層堆積状況(北半、南西から)



3 1号盛土遺構土層堆積状況(南半、西から)



4 2号盛土遺構土層堆積状況(南半、東から)



5 2号盛土遺構土層堆積状況(北半、東から)



6 1区X28Y48グリッド(南から)



7 2区X29Y21グリッド、礫片検出状況(西から)



8 2区X29Y21グリッド、礫片出土状況(西から)



1 前橋市0093遺跡調査区遠景(画面上部中央の、鉄塔の向かって左が石間西田遺跡Ⅲ。南東上空から、天は北西)



2 前橋市0093遺跡調査区全景(南西上空より、天は北東)



1 挖削部分全景(西上空から、天は東)



2 挖削部分全景(西から)



3 挖削部分全景(南西から)



4 挖削部分全景(南から)



5 挖削部分全景(東から)



1 挖削部分全景(北東から)



2 挖削部分全景(北西から)



3 挖削部分全景(北上空から、天は南)



4 調査区西壁土層堆積状況 1 (東から)



5 調査区西壁土層堆積状況 2 (東から)



6 調査区西壁土層堆積状況 3 (東から)



7 調査区西壁土層堆積状況 4 (東から)



8 調査区東壁(北西から)



1 調査区東壁土層堆積状況1(西から)



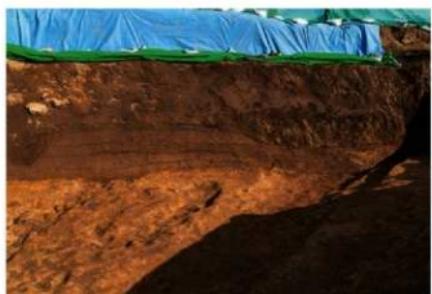
2 調査区東壁土層堆積状況2(西から)



3 調査区東壁土層堆積状況3(西から)



4 調査区東壁土層堆積状況4(西から)



5 調査区東壁土層堆積状況5(西から)



6 調査区北壁土層堆積状況(南から)



7 1号排水溝(南東から)



8 1号排水溝(北西から)

前橋市0093遺跡



1 1号排水溝土層断面(南東から)



2 1号排水溝土層堆積状況(西から)



3 1号排水溝と1号凹凸(南から)



4 1号凹凸土層断面(北西から)



5 2号凹凸(北から)



6 2号凹凸(上空から、天は北)



7 1号排水溝と2号凹凸(南から)



8 2号凹凸土層堆積状況(南から)



1 2号凹凸(北西から)



2 2号凹凸(南から)



3 2号排水溝(北東から)



4 2号排水溝土層断面(南西から)



5 2号排水溝(南西から)



6 2号排水溝土層堆積状況(西から)



7 3号排水溝(北西から)



8 3号排水溝(南東から)

前橋市0093遺跡



1 3号排水溝土層堆積状況(西から)



2 3号排水溝土層断面(南東から)



3 3号排水溝、4号排水溝(北から)



4 3号排水溝、4号排水溝(南東から)



5 4号排水溝(北から)



6 4号排水溝(南東から)



7 1号階段状遺構(西から)



8 1号階段状遺構(南東から)



1 1号階段状遺構、低地部掘り込み(南から)



2 1号階段状遺構(東から)



3 盛土範囲(上空から、天は東)



4 盛土範囲(南から)



5 盛土範囲(北から)



1 精査後の盛土範囲1(南から)



2 精査後の盛土範囲2(南から)



3 盛土範囲土屑堆積状況(西半、南から)



4 盛土範囲土屑堆積状況(東半、南から)



5 女塚東辺斜面(上空から、天は北東)



6 女塚東辺斜面(北から)



7 女塚東辺斜面土屑堆積状況(北東から)



8 女塚東辺斜面(南東から)

前橋市0102遺跡出土遺物

3号土坑



1



4号土坑



2



7号ピット

道構外



4

報告書抄録

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 書名ふりがな | まえぼししれいれいきゅうさんいせき まえぼししれいいちれいにいせき |
| 書名 | 前橋市0093遺跡・前橋市0102遺跡 |
| 副書名 | (一)寺沢川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 卷次 | |
| シリーズ名 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 |
| シリーズ番号 | 697 |
| 編著者名 | 佐藤元彦 |
| 編集機関 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行機関 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行年月日 | 20211210 |
| 作成法人ID | 21005 |
| 郵便番号 | 377-8555 |
| 電話番号 | 0279-52-2511 |
| 住所 | 群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2 |

| | |
|-----------|--------------------|
| 遺跡名ふりがな | まえぼししれいれいきゅうさんいせき |
| 遺跡名 | 前橋市0093遺跡 |
| 所在地ふりがな | ぐんまけんまえぼししほりのしたまち |
| 遺跡所在地 | 群馬県前橋市堀之下町他 |
| 市町村コード | 10201 |
| 遺跡番号 | 0093 |
| 北緯(世界測地系) | 362331 |
| 東経(世界測地系) | 1390713 |
| 調査期間 | 20180101-20180331 |
| 調査面積 | 2,852 (0102遺跡分を含む) |
| 調査原因 | 河川改修 |
| 種別 | その他 |
| 主な時代 | 中世 |
| 遺跡概要 | その他-中世-堀1 |
| 特記事項 | 広瀬川低地帯沿いの女堀南辺を検出。 |
| 要約 | 女堀西端にほど近い一画を調査。 |

| | |
|-----------|--|
| 遺跡名ふりがな | まえばししれいいちれいにいせき |
| 遺 跡 名 | 前橋市0102遺跡 |
| 所在地ふりがな | ぐんまけんまえばししほりのしたまち |
| 遺跡所在地 | 群馬県前橋市堀之下町他 |
| 市町村コード | 10201 |
| 遺跡番号 | 0102 |
| 北緯(世界測地系) | 362330 |
| 東経(世界測地系) | 1390713 |
| 調査期間 | 20180101-20180331 |
| 調査面積 | 2,852 (0093遺跡分を含む) |
| 調査原因 | 河川改修 |
| 種 別 | 集落 |
| 主な時代 | 古墳 |
| 遺跡概要 | 集落－古墳－掘立柱建物 2 + 土坑 1 + ピット 7 / 生産－平安－水田 / その他－縄文－土坑 2 / 弥生－土坑 1 / 平安－土坑 1 + 盛土遺構 1 / 中世－溝 / 不明－流路状遺構 1 + 土坑 2 + 盛土遺構 1 |
| 特記事項 | 古墳時代の掘立柱建物と中世の薬研堀を検出。 |
| 要 約 | 大胡火碎流台地の南端を調査。 |

公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第697集

前橋市0093遺跡・前橋市0102遺跡

(一)寺沢川河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和3(2021)年12月3日 発行
令和3(2021)年12月10日 発行

編集・発行／公益財團法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県邑楽郡大泉町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>
印刷／杉浦印刷株式会社

